

文部科学省認可大学通信教育

令和5年度

シラバス・レポート課題集



SEITOKU

聖徳大学大学院通信教育課程

大学院 児童学研究科 博士前期課程

シラバス・レポート課題

「シラバス」・「レポート課題」各項目の説明

各項目の説明は下図の通りとなっております。(説明のための例であり、実際の内容とは異なります。)



●レポート作成の注意事項

- ・レポート用紙はA4版の白色用紙で作成します。40字×30行を基本とし、設題の中で指定がある場合はそれに従ってください。
- ・指定解答用紙のレポートは黒のインクまたは黒のボールペンを使用して作成してください。(鉛筆またはフリクションペン等は不可)
- ・レポートを提出する際は、表紙に『履修と研究の手引』巻末「レポート送付票」を必ず添付し、左肩をホチキスどめしてください。
- ・レポートは第1課題、第2課題の課題ごとに1つにまとめてください。(第1課題として2つ以上のテーマが課せられている場合は、必ず第1課題として1つにまとめて提出してください。)
- ・レポート送付の際は本学指定の封筒を使用し、レポート以外の送付物を同封しないでください(紛失の原因になります)。また、封筒の表面には、科目名と課題番号を記入してください。(複数のレポートを1つの封筒に入れ送付しても構いません。)
- ・「児童心理学基礎論」、「児童発達学特論(Ⅰ)・(Ⅱ)」については、巻末の解答用紙をコピーしてお使いください。その際、科目名、課題番号、児童心理学基礎論については問題NO、試験日の記入を忘れずをお願いいたします。

●科目の履修形態について

「通信科目」と「通信・面接科目」、「課題研究(修士論文)」の3種類があります。それぞれの単位修得方法は下記のとおりです。

科目形態	単位の修得方法
通信科目	レポート第1・第2課題合格 ⇒ 科目終了試験に合格
通信・面接科目	レポート第1課題合格 ⇒ スクーリング(2日間)合格
課題研究	各領域の 基礎科目 に合格後、修士論文構想発表会、中間発表会で発表後、修士論文および要旨を提出し、口頭試問・最終試験に合格

●各領域の基礎科目

※ 修士論文構想発表会で発表するためには、各領域で指定された基礎科目の単位を修得している必要がありますので、優先して学習してください。(単位を修得できない場合、修了が半年延期となります。)

領域	修士論文構想発表会までに単位修得が必要な科目
保育学	保育学基礎論およびその他2科目の基礎論等(計3科目6単位)
児童教育学	児童教育学基礎論およびその他2科目の基礎論等(計3科目6単位)
児童心理学	児童心理学基礎論およびその他2科目の基礎論等(計3科目6単位)
児童福祉・保健学	児童福祉・保健学基礎論およびその他2科目の基礎論等(計3科目6単位)
児童文化学	児童文化学基礎論およびその他2科目の基礎論等(計3科目6単位)

No.

Q043

保育学基礎論

深津 さよこ

赤ちゃん学を基礎に、乳児の道德性の発達を考究する

領域

2 単位

通信

共通科目（選択必修）

到達目標

(1) 目的

赤ちゃん学（Baby Science）は、乳児保育に留まらず、様々な学問から赤ちゃんを見つめる総合的な学問領域である。赤ちゃんの道德観が保育や教育によってどのように変化するかを赤ちゃん学を通して理解し、長期的視点で道德性の発達を考察できる力を養うことを目的とする。また、思いやりや共感など人間関係の構築や維持にかかわる能力を、どのように培っていくのかを考究することを目的とする。

(2) 到達目標

- 1 赤ちゃん学の基礎的理論を理解することができる。
- 2 赤ちゃんに備わっている道德性とその発達を説明することができる。
- 3 赤ちゃんの道德性を培う環境について考察することができる。

学習成果

- 1 赤ちゃん学の基礎的理論を説明することができる。
- 2 赤ちゃんの道德性についての知識を基に、それに関連する養育環境や社会的背景を考慮しながら幅広い視点で考察することができる。
- 3 自分の考えを深め、根拠を示しながらまとめることができる。

基本文献

ポール・ブルーム『ジャスト・ベイビー 赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』（NTT出版）2015

参考文献

日本赤ちゃん学会協会『赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第3巻』（中央法規）2020
秋田喜代美監修『乳幼児の発達と保育』（朝倉出版）2019

評価の要点

○評価は、科目修了試験（60%）とレポート（20%×2題）の成績を合わせて行う。

○科目修了試験は論述形式である。評価の観点は次の通りである。

- 1 赤ちゃん学の基礎的理論を理解し、説明することができる。
- 2 赤ちゃんの道德性についての知識を基に、養育環境の影響などを説明できる。
- 3 根拠を示しながら、自分の考えをまとめることができる。
- 4 論述の構成・展開が適切である。

評価方法と採点基準

評価の要点に基づいて実施する。

解答内容（80%）

論構成・展開（20%）

履修上の注意事項や学習上の助言

スタディ・ガイド及びテキストを活用し、主体的に取り組むこと。

スタディ・ガイドの講義について、各回の「学修と研究の課題」に取り組むこと。

子どもに関するニュースなどに目を通し、社会背景を把握すること。

授業回数別教育内容

1回 【道德性とは何か】

人間に備わっている道德的基盤の有無 道德性とは何か

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第1章90分

2回 【赤ちゃん研究の難しさ】

赤ちゃんの特性を利用した研究デザイン的设计 初歩の物理学への理解 親切な人への接近と邪悪な人からの回避

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第1章90分

3回 【共感の仕組み】

サイコパスに欠落している共感 ミラーニューロンの発見 共感を喚起させる道德的選択

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第2章90分

4回 【共感と同情】

共感と同情の関係 同情の行動傾向と動機 道德感の発達の向き

- 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第2章90分
- 5回 【赤ちゃんの公平と平等】
赤ちゃんがもっている平等へのバイアス ロビン・フッド説の是非 最後通牒ゲームと独裁者ゲーム
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第3章90分
- 6回 【幼児の利他性と自制心】
利他心と自制心の葛藤 復讐と罰についての発達の検討 赤ちゃんの第三者罰への感覚
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第3章90分
- 7回 【赤ちゃんが所属する社会集団】
赤ちゃんが行う身近な人の区別 「人種=結託の目印」説 ステレオタイプ
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第4章90分
- 8回 【赤ちゃんの嫌悪の感情】
嫌悪感情の測定方法 嫌悪の対象 赤ちゃんの嫌悪感情と生起要因
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第5章90分
- 9回 【トロッコ問題】
トロッコ問題に含まれる要因 家族などの血縁関係者を優先するメリット
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第6章90分
- 10回 【道徳性の起源】
道徳性の起源 血縁関係の重要性 数に対する鈍感さ
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第6章90分
- 11回 【利他的行動の起源】
利他的行動の動機 他者を見る経験が及ぼす幼児への影響 「道徳の輪」の拡大方法と縮小方法
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第7章90分
- 12回 【道徳的行動の動機】
宗教的信仰の道徳性への影響 理性と道徳的直観 共感の促しである誘導 道徳感の成り立させている二つの部分
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉教科書「ジャスト・ベイビー」第7章90分
- 13回 【赤ちゃんが育つ養育環境としての遺伝と環境】
遺伝と環境の相互作用 集団形成の象徴である文化の役割 保育や乳幼児教育の価値の変遷
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉参考書90分
- 14回 【赤ちゃんの社会性】
非認知能力の中核である「社会性」 赤ちゃんの視線の共有 赤ちゃんの言語でのやりとりの特異性
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉参考書90分
- 15回 【アタッチメント】
アタッチメントを形成する環境 保育現場における保育者の質
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、レポート作成力 〈学習のポイント〉参考書90分
- 試験 筆記試験（レポート）
評価の要点に基づいて実施する。
テキストを熟読し、自分の意見をまとめておくこと。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【700字程度のレポートを5題】

スタディ・ガイド第1回～第8回の各回にある「学習と研究の課題」の中から5題を選んで、各700字程度でまとめてください。ただし、同じ回から1題以上選ぶことはできません。

○書式等について：講義回、課題番号・題目を記入し、1行空けてから書き始めてください。題名は字数に含めません。課題ごとに頁を改めてください。

○必ず文末に使用した参考文献名（書名・著者・出版社・発行年・引用or参考にしたページ）をひとつ以上記載してください。インターネットでの文献は、CiNiiやJ-STAGEなどのサイトから検索した研究論文（論文タイトル・著者・掲載雑誌・巻号・ページ・発表年記載）か、官公庁のHP関連（URL記載）に限ります。

○AIによる文章自動生成機能の使用は不可とします。

第2課題【700字程度】

スタディ・ガイド第9回～第15回の各回にある「学習と研究の課題」の中から5題を選んで、各700字程度でまとめてください。ただし、同じ回から1題以上選ぶことはできません。

○書式等について：講義回、課題番号・題目を記入し、1行空けてから書き始めてください。題名は字数に含めません。課題ごとに頁を改めてください。

○必ず文末に使用した参考文献名（書名・著者・出版社・発行年・引用or参考にしたページ）をひとつ以上記載してください。インターネットでの文献は、CiNiiやJ-STAGEなどのサイトから検索した研究論文（論文タイトル・著者・掲載雑誌・巻号・ページ・発表年）か、官公庁のHP関連に限ります。

○AIによる文章自動生成機能の使用は不可とします。

No.

Q003

児童教育学基礎論

黒澤 寿美

教育の未来を展望する

領域

2 単位

通信

共通科目（選択必修）

到達目標

以下の2点を目指す。

- ①教育の多様性および歴史的 성격への理解を深める。
- ②教育を巡る課題を広い視野から捉え、歴史的背景を踏まえた上で、将来を展望する視座を培う。

学習成果

教育をめぐる政策や議論の現状について、適当な課題を設定し、その解決に向けて探求し、歴史的背景を踏まえた明確な論拠を示しながら結果を述べるができる。

基本文献

高橋陽一「新しい教育通義」（武蔵野美術大学出版局）2018年

評価の要点

- 評価は、科目修了試験の成績のみに基いて行う。レポートの評価は成績に反映しない。
- 科目修了試験は論述形式である。評価の観点は以下の通り。
- ①解答内容が適切であること ②論構成が適切であること ③文法的誤りや誤字脱字がないこと ④総じてみたときに深い専門性と豊かな独創性が感じられること

評価方法と採点基準

- ①解答内容 80% ②論構成 15% ③誤字脱字等 5%

履修上の注意事項や学習上の助言

- スタディ・ガイドに則して、基本文献を熟読すること。
- スタディ・ガイドの各回の講義には「学習と研究の課題」が載せてある。その全てについて600～800字程度で考えをまとめておくこと。

授業回数別教育内容

- 1回 教育学と教育思想
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第15章
- 2回 教育の対象としての子ども
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第2章・第3章
- 3回 親権と子どもの権利
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第4章・第5章
- 4回 教育と学校の語源
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第6章・第7章
- 5回 古代から近世の教育と学校
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第8章・第9章・第10章
- 6回 明治維新と学制の理念
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第11章
- 7回 教育勅語の成立と教育理念の受容
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第12章・第13章
- 8回 戦後の教育改革
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第14章
- 9回 教育基本法①ー前文と目的・目標ー
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第16章・第17章
- 10回 教育基本法②ー第三条～附則ー
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第18章・第19章
- 11回 義務教育の原則と例外をめぐる問題
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第20章・第21章・第22章
- 12回 中等教育の歴史と現状
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第23章・第24章
- 13回 教育改革と学力論
〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト第25章
- 14回 現代教育の特質(1)

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力

15回 現代教育の特質(2)

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力

試験 ○第1、第2課題についてレポートを提出し、内容が十分であると認められた者に科目修了試験の受験資格が与えられる。

○科目修了試験では、スタディ・ガイドに示した「学習と研究の課題」に対する受講生の取組みの成果を問う。

○科目修了試験は、合格するまで繰り返し受けることができる。合格した時点における試験の成績が、この科目の成績となる。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【800字以内】

スタディ・ガイド第1回～第8回の各回に載せてある「学習と研究の課題」の中から5題を選んで、各600～800字で答えてください。ただし、同じ回から2題選んではいけません。参考文献は字数に含みません。レポート課題であることを理解し、レポートに相応しい論理的文章で書いてください。

〈書式等について〉

必ず最初に選んだ講義回、課題番号・題目を記入し、1行あけてから書き始めてください。題名は制限字数に含みません。課題ごとに頁を改め、書式は以下のように設定してください。必ず文末に使用テキストと参考文献名を記載してください。

*PC：A4版用紙 40字×30行に設定 横書き

手書きは不可

第2課題【800字以内】

スタディ・ガイド第9回～第15回の各回に載せてある「学習と研究の課題」の中から5題を選んで、各600～800字で答えてください。ただし、同じ回から2題選んではいけません。参考文献は字数に含みません。レポート課題であることを理解し、レポートに相応しい論理的文章で書いてください。

〈書式等について〉

必ず最初に選んだ講義回、課題番号・題目を記入し、1行あけてから書き始めてください。題名は制限字数に含みません。課題ごとに頁を改め、書式は以下のように設定してください。必ず文末に使用テキストと参考文献名を記載してください。

*PC：A4版用紙 40字×30行に設定 横書き

手書きは不可

No.

Q044

児童心理学基礎論

相良 順子

発達と発達研究

領域

2 単位

通信

共通科目（選択必修）

到達目標

発達についての考え方、発達と教育との関係などの考察を通して発達とは何かという問題を考究する。とくに発達研究の方法論や実際の方法の検討と共に、研究法の在り方についての検討を通して、心理学的に発達をとらえることの意義を考究する。また、心理学について、その歴史的流れに目を向けると共に、とくに発達心理学や教育心理学を中心とした知見を取り上げ、それらについて知識・理解を深めながら、乳幼児・児童心理学を考究する。

学習成果

1. 発達および発達と教育との関係について知識・理解を修得する。
2. 発達研究の方法について知識・理解を修得する。
3. 特に言葉の発達を例として発達の状況について修得する
4. 心理学の歴史的な流れと共に代表的な思潮について、知識・理解を修得する。

基本文献

1. 福沢周亮編『現代教育心理学』（教育出版）
2. 櫻井茂男・岩立京子編『たのしく学べる乳幼児の心理（改訂版）』（福村出版）
3. 福沢周亮・都築忠義編『発達と教育のための心理学初歩』（ナカニシヤ出版）
4. 福沢周亮『改訂版 言葉と教育』（放送大学教育振興会）
5. 福沢周亮監修・藪中征代・星野美穂子編『保育の心理学—子どもの心身の発達と保育実線』（教育出版）
6. サトウタツヤ・高砂美樹『流れを読む心理学—世界と日本の心理学』（有斐閣）

評価の要点

レポートは多肢選択法を用いている。文献により学習したうえでの多肢選択であるため、文献をよく検討していれば、合格点を得ることは、それほど困難なことではないと思われる。レポートの合格点は60点である。

評価方法と採点基準

レポート合格後、科目終了試験で60点以上を合格とする。

履修上の注意事項や学習上の助言

レポートでも試験でも多肢選択法を用いているため、取り上げられている事柄を学習すればよいと思われるかもしれない。しかし、学習に当たっては、当該の事柄についての説明を、いわば文章で学習するようにすると有効のように思われる。なお、術語がかなり出てくるが、それらについては辞典を積極的に調べることをお勧めする。

授業回数別教育内容

- 1回 発達とは何か(1) 発達の意味、発達の一般的原理
 〈身につく資質・能力〉 発達の知識・理解、言葉の発達
 〈学習のポイント〉 文献(1)の2,3章 (2)の2章 (3)の1章 (4)の4章 (5)の2章
- 2回 発達とは何か(2) 発達段階、発達課題
 〈身につく資質・能力〉 発達の知識・理解、言葉の発達段階
 〈学習のポイント〉 文献(1)の2,3章 (2)の2,3,4,5,6,7,8,9章 (3)の8,9章 (4)の4章 (5)の2,3章
- 3回 発達とは何か(3) 発達の様相
 〈身につく資質・能力〉 発達の知識・理解、言葉の発達の様相
 〈学習のポイント〉 文献(1)の3章 (2)の2,3,4,5,6,7,8章 (3)の8,9章 (4)の4章 (5)の2,3章
- 4回 発達と教育の関係(1) 発達と教育の関係についての考え方
 〈身につく資質・能力〉 発達と教育の関係の知識・理解
 〈学習のポイント〉 文献(1)の2章 (2)の2章 (3)の1,9章 (5)の4,5,6章
- 5回 発達と教育の関係(2) レディネス 自生的概念
 〈身につく資質・能力〉 発達と教育の関係の知識・理解
 〈学習のポイント〉 文献(1)の2章 (2)の2,3,4,5,6,7,8,9章 (3)の4,5,6,8,9章 (5)の2,3章
- 6回 児童心理学研究法(1) 観察法
 〈身につく資質・能力〉 観察法の知識・理解 〈学習のポイント〉 文献(1)の1,5,6章 (2)の12章
- 7回 児童心理学研究法(2) 質問紙法 評定法
 〈身につく資質・能力〉 質問紙法・評定法の知識・理解 〈学習のポイント〉 文献(1)の1,5,6章 (2)の12章
- 8回 児童心理学研究法(3) 面接法

- 〈身につく資質・能力〉面接法の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(1)の1,6章 (2)の12章
- 9回 児童心理学研究法(4) テスト法
〈身につく資質・能力〉テスト法の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(1)の1,8章 (2)の12章
- 10回 児童心理学研究法(5) 社会的測定法 SD法
〈身につく資質・能力〉社会的測定法・SD法の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(1)の1,7章 (2)の12章 (4)の9,10章
- 11回 児童心理学研究法(6) 実験法
〈身につく資質・能力〉実験法の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(1)の1章 (2)の12章
- 12回 心理学の流れ(1) 心理学史の展望
〈身につく資質・能力〉心理学史の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(6)
- 13回 心理学の流れ(2) 日本の心理学 アメリカの心理学
〈身につく資質・能力〉日本・アメリカにおける心理学の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(6)
- 14回 代表的な思潮 精神分析学 行動主義
〈身につく資質・能力〉精神分析学・行動主義の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(6)
- 15回 代表的な思潮 ゲシュタルト心理学 認知心理学
〈身につく資質・能力〉ゲシュタルト心理学・認知心理学の知識・理解 〈学習のポイント〉文献(6)

レポート課題

巻末
解答用紙

提出数
2

第1課題・第2課題

問題用紙(2023年5月7日用 2023年11月26日用 第1課題) No.231

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 知識の習得よりも、知識の習得を可能にすると考えられる一般的な精神能力の訓練を重視する教育を形式陶冶という。
- ② 第二反抗期は成人期に含まれている。
- ③ 自主的には困難であるが、おとなの援助や指導があれば、解決可能になる発達の領域を、発達の最近接領域という。
- ④ ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態をreadinessがある状態という。
- ⑤ 学習の内容と直接的な関係をもたない事柄によって学習の意欲をおこさせることを、外発的動機づけという。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ロール・プレイングとは、現実の社会で期待される諸種の役割行為を演技させ、学習させることで、教育や治療の場で使われている。
- ② グループ・ダイナミクスとは、集団の性質、集団の発展過程などについて、特にその現象の力動性に注目して研究する学問である。
- ③ ソシオメトリーとは、集団の成員間の関係を理解し、すべての成員の向上をはかる理論と技法の総称である。
- ④ ケース・スタディとは、統計的分析を目的として多くの研究対象を選び、詳細にそれらの行動を分析することによって心理学的な原理を探る方法である。
- ⑤ アクション・リサーチとは、問題の分析、現場における実践、実践結果の研究へのフィードバックという一連の過程を通じて、現場の問題の解決をめざす研究方法である。

問3. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ソーンダイク (Thorndike) ———— 問題箱の実験
- ② ブルーナー (Bruner) ———— 発見学習
- ③ ワトソン (Watson) ———— カマラ
- ④ エリクソン (Erikson) ———— 同一性
- ⑤ モレノ (Moreno) ———— 社会的測定法

問4. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一卵性双生児 ———— 発達研究
- ② 一対比較法 ———— 実質陶冶
- ③ 単一群法 ———— 授業研究
- ④ タブラ・ラサ ———— 経験論
- ⑤ 第一反抗期 ———— 幼児期

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 名義尺度とは、測定の結果として得られる数値が、大小関係を表すような尺度のことである。
- ② 推測統計は、直接的データを標本値として、その背後にある母集団に関する推論を行うことを目的としている。
- ③ 記述統計は、大量のデータについて、その分布の代表値、散布度、また複数のデータ間の関連度を明らかにすることを目的としている。
- ④ 数量化とは、心理量(物理量の変化に応じて生ずる主観的変化量)を、適当な尺度を用いて測定し、それに尺度値を与えることである。
- ⑤ 標準偏差とは、個々の測定値の、平均からの差の2乗和をデータ数で除して、平方根をとった値で、散布度の指標の一つである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一元配置とは、いくつかの実験条件に被験者等を無作為に割り当ててデータを出し、条件間比較を行う実験計画のことである。
- ② 実験群とは、実験において条件と行動との因果関係を知るために、一定の条件を与えられる被験者の集団のことである。
- ③ 独立変数とは、実験において実験者が実験条件として操作する変数のことである。
- ④ 従属変数とは、実験条件をいろいろな独立変数として変化させるとき、それに応じて変化する実験結果としての変数のことである。
- ⑤ 平行群法とは、二つの等質な群の両方に、実験群と統制群の両方の役割をもたせる方法で、条件の与え方の順序を相互に逆にする方法のことである。

とである。

問7. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ターマン (Terman) ———— スタンフォード・ビネー法
- ② ピアジェ (Piaget) ———— 前操作的段階
- ③ ローレンツ (Lorenz) ———— 刻印づけ
- ④ ゲゼル (Gesell) ———— 忘却曲線
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) ———— 発達課題

問8. 次の①～⑤の事項の中から、遺伝と環境の問題に直接の関係がないものを、一つ選びなさい。

- ① 双生児
- ② 比較群
- ③ カリカック家
- ④ 輻輳説
- ⑤ 発達加速現象

問9. 次の①～⑤の事項の中から、観察法に直接の関係がないものを、一つ選びなさい

- ① 序列法
- ② 図示法
- ③ 効果の法則
- ④ 時間見本法
- ⑤ 後光効果 (光背効果)

問10. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ヒューリスティックス ———— 類型論
- ② 刷り込み ———— 臨界期
- ③ シング牧師 ———— 狼にそだてられた子
- ④ チーム・ティーチング ———— 個人差
- ⑤ 初潮年齢 ———— 性的成熟

■ 問題用紙 (2023年5月7日用 2023年11月26日用 第2課題) No.232

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ある基準に沿って、対象を順序づけさせたり段階づけさせたりする方法を評定法といい、評定尺度法は、その代表的なものである。
- ② 質問事項について、自由に判断や態度を記述させる方法を自由回答法という。
- ③ 統制群とはcontrol groupのことである。
- ④ いくつかの項目の中から、質問に該当する項目を選択させる方法を多項選択法という。
- ⑤ 単一群法は二項選択法の一つである。

問2. 次の①～⑤の事項の中から、テスト法の実施の問題に直接の関係がないものを一つ選びなさい。

- ① 標準化
- ② 母集団
- ③ case study
- ④ validity
- ⑤ reliability

問3. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① WA I S ———— ウェクスラー法
- ② 言語式 ———— B式知能検査
- ③ 向性 ———— 人格検査
- ④ 学級構造 ———— guess-who-test
- ⑤ 偏差値 ———— 標準学力検査

問4. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 輻輳説 ———— シュテルン (Stern)
- ② 投影法 ———— ロールシャッハ (Rorschach)
- ③ ヴィゴツキー (Vygotsky) ———— 著書『思考と言語』
- ④ ブルーナー (Bruner) ———— 著書『教育の過程』
- ⑤ 認知説 ———— ソーンダイク (Thorndike)

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 相対評価は学習の到達度を知るための評価である。
- ② 学業不振の原因の一つに、学習方法的要因が入る。
- ③ 学業不振の発見に成就値が使われている。
- ④ 相対評価の5段階評価では、3の段階に38パーセントが入る。
- ⑤ 1905年にフランスのBinetがSimonと共に作成した知能検査が世界で最初のものである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① multiple-choice methodは、多肢選択法とも多項選択法ともいう。
- ② 二件法とは、刺激に対する被験者の判断が二種のカテゴリに限定されているものである。
- ③ 自由連想法の一つに、一つの刺激から連鎖的に反応させる方法がある。
- ④ 回転群法は、二つの等質な群の一方にある条件を与え、他方に別の条件を与えて比較する方法である。
- ⑤ 質問紙法では、虚偽の反応に対する対策が考えられている。

問7. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① SD法はイメージの測定法としてよく知られているが「意味微分法」とも呼ばれている。
- ② semantic differential methodは連想法とチェック・リスト法を組み合わせた方法である。
- ③ 人物や作品について標準を定め、その標準と比べて対象としたものを評定する方法を標準尺度法という。
- ④ 連想法はパーソナリティ研究の領域でも、学習や記憶の研究領域でも使われている。
- ⑤ ある刺激に対して形容詞などの特定の関係があるもので反応させる連想法を制限連想法という。

問8. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 記述尺度 —— 評定尺度法
- ② 質問紙法 —— 多項選択法
- ③ 品等法 —— 順位法
- ④ 実験法 —— 比較群法
- ⑤ タブラ・ラサ —— 平行群法

問9. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 偏差値は、右の式で算出できる。

$$\text{偏差値} = \frac{\text{得点} - \text{平均}}{\frac{1}{10} \times \text{標準偏差}} + 50$$
- ② 知能指数は、右の式で算出できる。

$$\text{知能指数} = \frac{\text{精神年齢}}{\text{生活年齢}} \times 100$$
- ③ projective techniqueには、TATやWISCが含まれる。
- ④ 妥当性とは、テストやその他測定用具について、その結果が測ろうとしているものを測り得る度合いである。
- ⑤ 標準化とは、検査結果や測定結果の比較や解釈を可能にするため、手続き、基準、尺度を一定に規定する過程のことである。

問10. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい

- ① ピアジェ (Piaget) —— 形式的操作
- ② モレノ (Moreno) —— sociometry
- ③ エリクソン (Erikson) —— identity
- ④ ワトソン (Watson) —— 発達加速現象
- ⑤ ゲゼル (Gesell) —— 成熟説

■ 問題用紙 (2023年6月11日用 2024年1月7日用 第1課題) No.233

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 知識の習得よりも、知識の習得を可能にすると考えられる一般的な精神能力の訓練を重視する教育を実質陶冶という。
- ② 第一次反抗期は、2～6歳の幼児期に含まれている。
- ③ 自主的には困難であるが、おとなの援助や指導があれば、解決可能になる発達の領域を、発達の最近接領域という。
- ④ ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態をreadinessがある状態という。
- ⑤ 学習の内容と直接的な関係をもたない事柄によって学習の意欲をおこさせることを、外発的動機づけという。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ロール・プレイングとは、現実の社会で期待される諸種の役割行為を演技させ、学習させることで、教育や治療の場で使われている。
- ② グループ・ダイナミクスとは、集団の性質、集団の発展過程などについて、特にその現象の力動性に注目して研究する学問である。
- ③ ケース・スタディとは、統計的分析を目的として多くの研究対象を選び、詳細にそれらの行動を分析することによって心理学的な原理を探る方法である。
- ④ ソシオメトリーとは、集団の成員間の関係を理解し、すべての成員の向上をはかる理論と技法の総称である。
- ⑤ アクション・リサーチとは、問題の分析、現場における実践、実践結果の研究へのフィードバックという一連の過程を通じて、現場の問題の解決をめざす研究方法である。

問3. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ソーンダイク (Thorndike) —— 問題箱の実験
- ② ブルーナー (Bruner) —— 発見学習
- ③ モレノ (Moreno) —— 社会的測定法
- ④ エリクソン (Erikson) —— 忘却曲線
- ⑤ ワトソン (Watson) —— 行動主義

問4. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一卵性双生児 —— 発達研究
- ② 第二反抗期 —— 成人期
- ③ 単一群法 —— 授業研究
- ④ タブラ・ラサ —— 経験論
- ⑤ 対比較法 —— 順位法

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 記述統計は、大量のデータについて、その分布の代表値、散布度、また複数のデータ間の関連度を明らかにすることを目的としている。
- ② 推測統計は、直接的データを標本値として、その背後にある母集団に関する推論を行うことを目的としている。
- ③ 名義尺度とは、測定の結果として得られる数値が、大小関係を表すような尺度のことである。
- ④ 数量化とは、心理量（物理量の変化に応じて生ずる主観的変化量）を、適当な尺度を用いて測定し、それに尺度値を与えることである。
- ⑤ 標準偏差とは、個々の測定値の、平均からの差の2乗和をデータ数で除して、平方根をとった値で、散布度の指標の一つである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 実験群とは、実験において条件と行動との因果関係を知るために、一定の条件を与えられる被験者の集団のことである。
- ② 一元配置とは、いくつかの実験条件に被験者等を無作為に割り当ててデータを出し、条件間比較を行う実験計画のことである。
- ③ 従属変数とは、実験条件をいろいろな独立変数として変化させるとき、それに応じて変化する実験結果としての変数のことである。
- ④ 独立変数とは、実験において実験者が実験条件として操作する変数のことである。
- ⑤ 平行群法とは、二つの等質な群の両方に、実験群と統制群の両方の役割をもたせる方法で、条件の与え方の順序を相互に逆にする方法のことである。

問7. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ゲゼル (Gesell) —— 同一性
- ② ピアジェ (Piaget) —— 前操作的段階
- ③ ローレンツ (Lorenz) —— 刻印づけ
- ④ ターマン (Terman) —— 知能検査
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) —— 発達課題

問8. 次の①～⑤の事項の中から、遺伝と環境の問題に直接の関係がないものを、一つ選びなさい。

- ① 双生児
- ② 輻輳説
- ③ カリカック家
- ④ 比較群
- ⑤ ルクセンブルガーの図式

問9. 次の①～⑤の事項の中から、観察法に直接の関係がないものを、一つ選びなさい

- ① チェック・リスト
- ② 図示法
- ③ 効果の法則
- ④ 時間見本法
- ⑤ 後光効果 (光背効果)

問10. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ヒューリスティックス —— 類型論
- ② 初潮年齢 —— 性的成熟
- ③ シング牧師 —— カマラ
- ④ チーム・ティーチング —— 個人差
- ⑤ 刷り込み —— 臨界期

■ 問題用紙 (2023年6月11日用 2024年1月7日用 第2課題) No.234

問1. 次の①～⑤の事項の中から、テスト法の実施の問題に直接の関係がないものを一つ選びなさい。

- ① 標準化
- ② 妥当性
- ③ 母集団
- ④ case study
- ⑤ 信頼性

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① projective techniqueには、TATやWISCが含まれる。
- ② 知能指数は、右の式で算出できる。

$$\text{知能指数} = \frac{\text{精神年齢}}{\text{生活年齢}} \times 100$$
- ③ 標準化とは、検査結果や測定結果の比較や解釈を可能にするため、手続き、基準、尺度を一定に規定する過程のことである。
- ④ 妥当性とは、テストやその他測定用具について、その結果が測ろうとしているものを測り得る度合いである。

- ⑤ 偏差値は、右の式で算出できる。
- $$\text{偏差値} = \frac{\text{得点} - \text{平均}}{\frac{1}{10} \times \text{標準偏差}} + 50$$

問3. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 1905年にフランスのBinetがSimonと共に作成した知能検査が世界で最初のものである。
- ② 学業不振の発見に成就値が使われている。
- ③ 相対評価は、学習の到達度を知るための評価である。
- ④ 相対評価の5段階評価では、3の段階に38パーセントが入る。
- ⑤ 学業不振の原因の一つに、学習方法的要因が入る。

問4. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 二件法とは、刺激に対する被験者の判断が二種のカテゴリーに限られるものである。
- ② 回転群法は、二つの等質な群の一方にある条件を与え、他方に別の条件を与えて比較する方法である。
- ③ 質問紙法では虚偽の反応に対する対策が考えられている。
- ④ パーセントイルは、相対評価の結果の表し方の一つである。
- ⑤ 連想のさせ方により、制限連想法と自由連想法がある。

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① いくつかの項目の中から、質問に該当する項目を選択させる方法を多項選択法と言う。
- ② 質問事項について、自由に判断や態度を記述させる方法を自由回答法という。
- ③ control groupとは対照群のことである。
- ④ ある基準に沿って、対象を順序づけさせたり段階づけさせたりする方法を評定法という。
- ⑤ 単一群法は二項選択法の一つである。

問6. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一対比較法 —— 順位法
- ② 比較群法 —— 実験法
- ③ 多項選択法 —— 質問紙法
- ④ 平行群法 —— タブラ・ラサ
- ⑤ 点数尺度 —— 評定尺度法

問7. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① モレノ (Moreno) —— 社会的測定法
- ② ワトソン (Watson) —— ゲシュタルト心理学
- ③ エリクソン (Erikson) —— 同一性
- ④ ピアジェ (Piaget) —— 前操作的段階
- ⑤ ゲゼル (Gesell) —— 成熟説

問8. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ヴィゴツキー (Vygotsky) —— 精神分析学
- ② ブルーナー (Bruner) —— 発見学習
- ③ ソーンダイク (Thorndike) —— 試行錯誤説
- ④ シュテルン (Stern) —— 輻輳説
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) —— 発達課題

問9. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ある刺激に対して形容詞で反応させる連想法を制限連想法という。
- ② セマンティック・ディファレンシャル法は連想法とチェック・リスト法を組み合わせた方法である。
- ③ SD法は「意味微分法」とも呼ばれている。
- ④ 連想法はパーソナリティ研究の領域でも、学習や記憶の研究領域でも使われている。
- ⑤ 人物や作品について標準を定め、その標準と比べて対象としたものを評定する方法を標準尺度法という。

問10. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ウェクスラー法 —— WPPSI
- ② ゲス・フー・テスト —— 学級構造
- ③ 人格検査 —— EPPS
- ④ 田中B式知能検査 —— 言語式
- ⑤ 標準学力検査 —— 偏差値

■ 問題用紙 (2023年7月16日用 2024年2月4日用 第1課題) No.235

問1. 次の①～⑤の事項の中から、遺伝と環境の問題に直接の関係がないものを、一つ選びなさい。

- ① カリカック家
- ② 双生児
- ③ 比較群

- ④ 輻輳説
- ⑤ 発達加速現象

問2. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ソーンダイク (Thorndike) ———— 問題箱の実験
- ② ワトソン (Watson) ———— カマラ
- ③ モレノ (Moreno) ———— 社会的測定法
- ④ エリクソン (Erikson) ———— 同一性
- ⑤ ブルーナー (Bruner) ———— 発見学習

問3. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一元配置とは、いくつかの実験条件に被験者等を無作為に割り当ててデータを出し、条件間比較を行う実験計画のことである。
- ② 従属変数とは、実験条件をいろいろな独立変数として変化させるとき、それに応じて変化する実験結果としての変数のことである。
- ③ 独立変数とは、実験において実験者が実験条件として操作する変数のことである。
- ④ 平行群法とは、二つの等質な群の両方に、実験群と統制群の両方の役割をもたせる方法で、条件の与え方の順序を相互に逆にする方法のことである。
- ⑤ 実験群とは、実験において条件と行動との因果関係を知るために、一定の条件を与えられる被験者の集団のことである。

問4. 次の①～⑤の事項の中から、観察法に直接の関係がないものを、一つ選びなさい

- ① 効果の法則
- ② 序列法
- ③ 図示法
- ④ 時間見本法
- ⑤ 後光効果 (光背効果)

問5. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① タブラ・ラサ ———— 経験論
- ② 一卵性双生児 ———— 発達研究
- ③ 単一群法 ———— 授業研究
- ④ 一対比較法 ———— 実質陶冶
- ⑤ 第一反抗期 ———— 幼児期

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 知識の習得よりも、知識の習得を可能にすると考えられる一般的な精神能力の訓練を重視する教育を形式陶冶という。
- ② ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態をreadinessがある状態という。
- ③ 自主的には困難であるが、おとなの援助や指導があれば、解決可能になる発達の領域を、発達の最近接領域という。
- ④ 学習の内容と直接的な関係をもたない事柄によって学習の意欲をおこさせることを、外発的動機づけという。
- ⑤ 第二反抗期は成人期に含まれている。

問7. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 初潮年齢 ———— 性的成熟
- ② 刷り込み ———— 臨界期
- ③ ヒューリスティックス ———— 類型論
- ④ チーム・ティーチング ———— 個人差
- ⑤ シング牧師 ———— 狼にそだてられた子

問8. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 名義尺度とは、測定の結果として得られる数値が、大小関係を表すような尺度のことである。
- ② 推測統計は、直接的データを標本値として、その背後にある母集団に関する推論を行うことを目的としている。
- ③ 記述統計は、大量のデータについて、その分布の代表値、散布度、また複数のデータ間の関連度を明らかにすることを目的としている。
- ④ 数量化とは、心理量 (物理量の変化に応じて生ずる主観的変化量) を、適当な尺度を用いて測定し、それに尺度値を与えることである。
- ⑤ 標準偏差とは、個々の測定値の、平均からの差の2乗和をデータ数で除して、平方根をとった値で、散布度の指標の一つである。

問9. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ターマン (Terman) ———— スタンフォード・ビネー法
- ② ピアジェ (Piaget) ———— 前操作的段階
- ③ ゲゼル (Gesell) ———— 忘却曲線
- ④ ローレンツ (Lorenz) ———— 刻印づけ
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) ———— 発達課題

問10. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ロール・プレイングとは、現実の社会で期待される諸種の役割行為を演技させ、学習させることで、教育や治療の場で使われている。
- ② アクション・リサーチとは、問題の分析、現場における実践、実践結果の研究へのフィードバックという一連の過程を通じて、現場の問題の解決をめざす研究法である。
- ③ ソシオメトリーとは、集団の成員間の関係を理解し、すべての成員の向上をはかる理論と技法の総称である。
- ④ グループ・ダイナミクスとは、集団の性質、集団の発展過程などについて、特にその現象の力動性に注目して研究する学問である。

- ⑤ ケース・スタディとは、統計的分析を目的として多くの研究対象を選び、詳細にそれらの行動を分析することによって心理学的な原理を探る方法である。

■ 問題用紙（2023年7月16日用 2024年2月4日用 第2課題）No.236

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① SD法は「意味微分法」とも呼ばれている。
- ② 人物や作品について標準を定め、その標準と比べて対象としたものを評定する方法を標準尺度法という。
- ③ セマンティック・ディファレンシャル法は連想法と質問紙法を組み合わせた方法である。
- ④ 連想法はパーソナリティ研究の領域でも、学習や記憶の研究領域でも使われている。
- ⑤ ある刺激に対して形容詞などの特定の関係があるもので反応させる連想法を制限連想法という。

問2. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 品等法 —— 順位法
- ② 記述尺度 —— 評定尺度法
- ③ 多項選択法 —— 質問紙法
- ④ 統制群法 —— 実験法
- ⑤ 平行群法 —— タブラ・ラサ

問3. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 偏差値は、右の式で算出できる。
- $$\text{偏差値} = \frac{\text{得点} - \text{平均}}{\frac{1}{10} \times \text{標準偏差}} + 50$$

- ② projective techniqueには、TATやWISCが含まれる。
 - ③ 標準化とは、検査結果や測定結果の比較や解釈を可能にするため、手続き、基準、尺度を一定に規定する過程のことである。
 - ④ 妥当性とは、テストやその他測定用具について、その結果が測ろうとしているものを測り得る度合いである。
 - ⑤ 知能指数は、右の式で算出できる。
- $$\text{知能指数} = \frac{\text{精神年齢}}{\text{生活年齢}} \times 100$$

問4. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① モレノ (Moreno) —— ソシオメトリー
- ② ピアジェ (Piaget) —— 形式的操作
- ③ エリクソン (Erikson) —— 同一性
- ④ ワトソン (Watson) —— ゲシュタルト心理学
- ⑤ ゲゼル (Gesell) —— 成熟説

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 単一群法は二項選択法の一つである。
- ② 質問事項について、自由に判断や態度を記述させる方法を自由回答法という。
- ③ control groupとは対照群のことである。
- ④ ある基準に沿って、対象を順序づけさせたり段階づけさせたりする方法を評定法といい、評定尺度法は、その代表的なものである。
- ⑤ いくつかの項目の中から、質問に該当する項目を選択させる方法を多項選択法と言う。

問6. 次の①～⑤の事項の中から、テスト法の実施の問題に直接の関係がないものを一つ選びなさい。

- ① 母集団
- ② 妥当性
- ③ アクション・リサーチ
- ④ 標準化
- ⑤ 信頼性

問7. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 田中B式知能検査 —— 言語式
- ② ゲス・フー・テスト —— 学級構造
- ③ 標準学力検査 —— 偏差値
- ④ 人格検査 —— EPPS
- ⑤ ウェクスラー法 —— WPPSI

問8. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ヴィゴツキー (Vygotsky) —— 著書『思考と言語』
- ② ブルーナー (Bruner) —— 著書『教育の過程』
- ③ ソーンダイク (Thorndike) —— 試行錯誤説
- ④ シュテルン (Stern) —— 輻輳説
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) —— 投影法

問9. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 1905年にフランスのBinetがSimonと共に作成した知能検査が世界で最初のものである。

- ② 相対評価は、学習の到達度を知るための評価である。
- ③ 学業不振の発見に成就値が使われている。
- ④ 相対評価の5段階評価では、3の段階に38パーセントが入る。
- ⑤ 学業不振の原因の一つに、学習方法的要因が入る。

問10. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 二件法とは、刺激に対する被験者の判断が二種のカテゴリーに限られるものである。
- ② パーセンタイルは、相対評価の結果の表し方の一つである。
- ③ 回転群法は、二つの等質な群の一方にある条件を与え、他方に別の条件を与えて比較する方法である。
- ④ 質問紙法では虚偽の反応に対する対策が考えられている。
- ⑤ 自由連想法の一つに、一つの刺激から連鎖的に反応させる方法がある。

■ 問題用紙 (2023年8月13日用 2024年3月3日用 第1課題) No.237

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 第一次反抗期は、2～6歳の幼児期に含まれている。
- ② 知識の習得よりも、知識の習得を可能にすると考えられる一般的な精神能力の訓練を重視する教育を実質陶冶という。
- ③ 自主的には困難であるが、おとなの援助や指導があれば、解決可能になる発達の領域を、発達の最近接領域という。
- ④ 学習の内容と直接的な関係をもたない事柄によって学習の意欲をおこさせることを、外発的動機づけという。
- ⑤ ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態をreadinessがある状態という。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① アクション・リサーチとは、問題の分析、現場における実践、実践結果の研究へのフィードバックという一連の過程を通じて、現場の問題の解決をめざす研究方法である。
- ② グループ・ダイナミクスとは、集団の性質、集団の発展過程などについて、特にその現象の力動性に注目して研究する学問である。
- ③ ソシオメトリーとは、集団の成員間の関係を理解し、すべての成員の向上をはかる理論と技法の総称である。
- ④ ケース・スタディとは、統計的分析を目的として多くの研究対象を選び、詳細にそれらの行動を分析することによって心理学的な原理を探る方法である。
- ⑤ ロール・プレイングとは、現実の社会で期待される諸種の役割行為を演技させ、学習させることで、教育や治療の場で使われている。

問3. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ブルーナー (Bruner) ———— 発見学習
- ② ソーンダイク (Thorndike) ———— 問題箱の実験
- ③ モレノ (Moreno) ———— 社会的測定法
- ④ ワトソン (Watson) ———— 行動主義
- ⑤ エリクソン (Erikson) ———— 忘却曲線

問4. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 第二反抗期 ———— 成人期
- ② タブラ・ラサ ———— 経験論
- ③ 一対比較法 ———— 順位法
- ④ 単一群法 ———— 授業研究
- ⑤ 一卵性双生児 ———— 発達研究

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 標準偏差とは、個々の測定値の、平均からの差の2乗和をデータ数で除して、平方根をとった値で、散布度の指標の一つである。
- ② 記述統計は、大量のデータについて、その分布の代表値、散布度、また複数のデータ間の関連度を明らかにすることを目的としている。
- ③ 名義尺度とは、測定の結果として得られる数値が、大小関係を表すような尺度のことである。
- ④ 推測統計は、直接的データを標本値として、その背後にある母集団に関する推論を行うことを目的としている。
- ⑤ 数量化とは、心理量(物理量の変化に応じて生ずる主観的変化量)を、適当な尺度を用いて測定し、それに尺度値を与えることである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 実験群とは、実験において条件と行動との因果関係を知るために、一定の条件を与えられる被験者の集団のことである。
- ② 一元配置とは、いくつかの実験条件に被験者等を無作為に割り当ててデータを出し、条件間比較を行う実験計画のことである。
- ③ 従属変数とは、実験条件をいろいろな独立変数として変化させるとき、それに応じて変化する実験結果としての変数のことである。
- ④ 平行群法とは、二つの等質な群の両方に、実験群と統制群の両方の役割をもたせる方法で、条件の与え方の順序を相互に逆にする方法のことである。
- ⑤ 独立変数とは、実験において実験者が実験条件として操作する変数のことである。

問7. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ピアジェ (Piaget) ———— 前操作的段階
- ② ローレンツ (Lorenz) ———— 刻印づけ
- ③ ハヴィガースト (Havighurst) ———— 発達課題
- ④ ゲゼル (Gesell) ———— 同一性
- ⑤ ターマン (Terman) ———— 知能検査

問8. 次の①～⑤の事項の中から、遺伝と環境の問題に直接の関係がないものを、一つ選びなさい。

- ① ルクセンブルガーの図式
- ② 比較群
- ③ カリカック家
- ④ 輻輳説
- ⑤ 双生児

問9. 次の①～⑤の事項の中から、観察法に直接の関係がないものを、一つ選びなさい

- ① 図示法
- ② 後光効果（光背効果）
- ③ 効果の法則
- ④ 時間見本法
- ⑤ チェック・リスト

問10. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ヒューリスティクス —— 類型論
- ② チーム・ティーチング —— 個人差
- ③ 初潮年齢 —— 性的成熟
- ④ シング牧師 —— カマラ
- ⑤ 刷り込み —— 臨界期

■ 問題用紙（2023年8月13日用 2024年3月3日用 第2課題）No.238

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ある刺激に対して形容詞などの特定の関係があるもので反応させる連想法を制限連想法という。
- ② 人物や作品について標準を定め、その標準と比べて対象としたものを評定する方法を標準尺度法という。
- ③ SD法は「意味微分法」とも呼ばれている。
- ④ 連想法はパーソナリティ研究の領域でも、学習や記憶の研究領域でも使われている。
- ⑤ セマンティック・ディファレンシャル法は連想法とチェック・リスト法を組み合わせた方法である。

問2. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一対比較法 —— 順位法
- ② 平行群法 —— タブラ・ラサ
- ③ 多項選択法 —— 質問紙法
- ④ 比較群法 —— 実験法
- ⑤ 点数尺度 —— 評定尺度法

問3. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① projective techniqueには、TATやWISCが含まれる。
- ② 知能指数は、右の式で算出できる。
$$\text{知能指数} = \frac{\text{精神年齢}}{\text{生活年齢}} \times 100$$
- ③ 標準化とは、検査結果や測定結果の比較や解釈を可能にするため、手続き、基準、尺度を一定に規定する過程のことである。
- ④ 妥当性とは、テストやその他測定用具について、その結果が測ろうとしているものを測り得る度合いである。
- ⑤ 偏差値は、右の式で算出できる。
$$\text{偏差値} = \frac{\text{得点} - \text{平均}}{\frac{1}{10} \times \text{標準偏差}} + 50$$

問4. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① モレノ (Moreno) —— 社会的測定法
- ② ピアジェ (Piaget) —— 前操作的段階
- ③ エリクソン (Erikson) —— 同一性
- ④ ワトソン (Watson) —— ゲシュタルト心理学
- ⑤ ゲゼル (Gesell) —— 成熟説

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① いくつかの項目の中から、質問に該当する項目を選択させる方法を多項選択法と言う。
- ② 質問事項について、自由に判断や態度を記述させる方法を自由回答法という。
- ③ 単一群法は二項選択法の一つである。
- ④ ある基準に沿って、対象を順序づけさせたり段階づけさせたりする方法を評定法という。
- ⑤ control groupとは対照群のことである。

問6. 次の①～⑤の事項の中から、テスト法の実施の問題に直接の関係がないものを一つ選びなさい。

- ① case study
- ② 妥当性
- ③ 母集団
- ④ 標準化

⑤ 信頼性

問7. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ウェクスラー法 ——— WPPSI
- ② ゲス・フォー・テスト ——— 学級構造
- ③ 田中B式知能検査 ——— 言語式
- ④ 人格検査 ——— EPPS
- ⑤ 標準学力検査 ——— 偏差値

問8. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ブルーナー (Bruner) ——— 発見学習
- ② ヴィゴツキー (Vygotsky) ——— 精神分析学
- ③ ソーンダイク (Thorndike) ——— 試行錯誤説
- ④ シュテルン (Stern) ——— 輻輳説
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) ——— 発達課題

問9. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 1905年にフランスのBinetがSimonと共に作成した知能検査が世界で最初のものである。
- ② 学業不振の発見に成就値が使われている。
- ③ 学業不振の原因の一つに、学習方法的要因が入る。
- ④ 相対評価の5段階評価では、3の段階に38パーセントが入る。
- ⑤ 相対評価は、学習の到達度を知るための評価である。

問10. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 二件法とは、刺激に対する被験者の判断が二種のカテゴリーに限られるものである。
- ② パーセントイルは、相対評価の結果の表し方の一つである。
- ③ 質問紙法では虚偽の反応に対する対策が考えられている。
- ④ 回転群法は、二つの等質な群の一方にある条件を与え、他方に別の条件を与えて比較する方法である。
- ⑤ 連想のさせ方により、制限連想法と自由連想法がある。

■ 問題用紙 (2023年9月17日用 2024年5月用 第1課題) No.239

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 知識の習得よりも、知識の習得を可能にすると考えられる一般的な精神能力の訓練を重視する教育を形式陶冶という。
- ② 第二反抗期は成人期に含まれている。
- ③ 自主的には困難であるが、おとなの援助や指導があれば、解決可能になる発達の領域を、発達の最近接領域という。
- ④ ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態をreadinessがある状態という。
- ⑤ 学習の内容と直接的な関係をもたない事柄によって学習の意欲をおこさせることを、外発的動機づけという。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ロール・プレイングとは、現実の社会で期待される諸種の役割行為を演技させ、学習させることで、教育や治療の場で使われている。
- ② グループ・ダイナミクスとは、集団の性質、集団の発展過程などについて、特にその現象の力動性に注目して研究する学問である。
- ③ ソシオメトリーとは、集団の成員間の関係を理解し、すべての成員の向上をはかる理論と技法の総称である。
- ④ ケース・スタディとは、統計的分析を目的として多くの研究対象を選び、詳細にそれらの行動を分析することによって心理学的な原理を探る方法である。
- ⑤ アクション・リサーチとは、問題の分析、現場における実践、実践結果の研究へのフィードバックという一連の過程を通じて、現場の問題の解決をめざす研究方法である。

問3. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ソーンダイク (Thorndike) ——— 問題箱の実験
- ② ブルーナー (Bruner) ——— 発見学習
- ③ ワトソン (Watson) ——— カマラ
- ④ エリクソン (Erikson) ——— 同一性
- ⑤ モレノ (Moreno) ——— 社会的測定法

問4. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一卵性双生児 ——— 発達研究
- ② 一対比較法 ——— 実質陶冶
- ③ 単一群法 ——— 授業研究
- ④ タブラ・ラサ ——— 経験論
- ⑤ 第一反抗期 ——— 幼児期

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 名義尺度とは、測定の結果として得られる数値が、大小関係を表すような尺度のことである。
- ② 推測統計は、直接的データを標本値として、その背後にある母集団に関する推論を行うことを目的としている。
- ③ 記述統計は、大量のデータについて、その分布の代表値、散布度、また複数のデータ間の関連度を明らかにすることを目的としている。

- ④ 数量化とは、心理量（物理量の変化に応じて生ずる主観的变化量）を、適当な尺度を用いて測定し、それに尺度値を与えることである。
- ⑤ 標準偏差とは、個々の測定値の、平均からの差の2乗和をデータ数で除して、平方根をとった値で、散布度の指標の一つである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一元配置とは、いくつかの実験条件に被験者等を無作為に割り当ててデータを出し、条件間比較を行う実験計画のことである。
- ② 実験群とは、実験において条件と行動との因果関係を知るために、一定の条件を与えられる被験者の集団のことである。
- ③ 独立変数とは、実験において実験者が実験条件として操作する変数のことである。
- ④ 従属変数とは、実験条件をいろいろな独立変数として変化させるとき、それに応じて変化する実験結果としての変数のことである。
- ⑤ 平行群法とは、二つの等質な群の両方に、実験群と統制群の両方の役割をもたせる方法で、条件の 与え方の順序を相互に逆にする方法のことである。

問7. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ターマン (Terman) ———— スタンフォード・ビネー法
- ② ピアジェ (Piaget) ———— 前操作的段階
- ③ ローレンツ (Lorenz) ———— 刻印づけ
- ④ ゲゼル (Gesell) ———— 忘却曲線
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) ———— 発達課題

問8. 次の①～⑤の事項の中から、遺伝と環境の問題に直接の関係がないものを、一つ選びなさい。

- ① 双生児
- ② 比較群
- ③ カリカック家
- ④ 輻輳説
- ⑤ 発達加速現象

問9. 次の①～⑤の事項の中から、観察法に直接の関係がないものを、一つ選びなさい

- ① 序列法
- ② 図示法
- ③ 効果の法則
- ④ 時間見本法
- ⑤ 後光効果（光背効果）

問10. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ヒューリスティクス ———— 類型論
- ② 刷り込み ———— 臨界期
- ③ シング牧師 ———— 狼にそだてられた子
- ④ チーム・ティーチング ———— 個人差
- ⑤ 初潮年齢 ———— 性的成熟

■ 問題用紙（2023年9月17日用 2024年5月用 第2課題）No.240

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ある基準に沿って、対象を順序づけさせたり段階づけさせたりする方法を評定法といい、評定尺度法は、その代表的なものである。
- ② 質問事項について、自由に判断や態度を記述させる方法を自由回答法という。
- ③ 単一群法は二項選択法の一つである。
- ④ いくつかの項目の中から、質問に該当する項目を選択させる方法を多項選択法という。
- ⑤ 統制群とはcontrol groupのことである。

問2. 次の①～⑤の事項の中から、テスト法の実施の問題に直接の関係がないものを一つ選びなさい。

- ① 標準化
- ② 母集団
- ③ validity
- ④ case study
- ⑤ reliability

問3. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 言語式 ———— B式知能検査
- ② WA I S ———— ウェクスラー法
- ③ 向性 ———— 人格検査
- ④ 学級構造 ———— guess-who-test
- ⑤ 偏差値 ———— 標準学力検査

問4. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 輻輳説 ———— シュテルン (Stern)
- ② 投影法 ———— ロールシャッハ (Rorschach)
- ③ ヴィゴツキー (Vygotsky) ———— 著書『思考と言語』

- ④ ブルーナー (Bruner) ——— 著書『教育の過程』
- ⑤ 認知説 ——— ソーンダイク (Thorndike)

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 学業不振の発見に成就値が使われている。
- ② 学業不振の原因の一つに、学習方法的要因が入る。
- ③ 相対評価は学習の到達度を知るための評価である。
- ④ 相対評価の5段階評価では、3の段階に38パーセントが入る。
- ⑤ 1905年にフランスのBinetがSimonと共に作成した知能検査が世界で最初のものである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① multiple-choice methodは、多肢選択法とも多項選択法ともいう。
- ② 回転群法は、二つの等質な群の一方にある条件を与え、他方に別の条件を与えて比較する方法である。
- ③ 自由連想法の一つに、一つの刺激から連鎖的に反応させる方法がある。
- ④ 二件法とは、刺激に対する被験者の判断が二種のカテゴリーに限られているものである。
- ⑤ 質問紙法では、虚偽の反応に対する対策が考えられている。

問7. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① semantic differential methodは連想法とチェック・リスト法を組み合わせた方法である。
- ② SD法はイメージの測定法としてよく知られているが「意味微分法」とも呼ばれている。
- ③ 人物や作品について標準を定め、その標準と比べて対象としたものを評定する方法を標準尺度法という。
- ④ 連想法はパーソナリティ研究の領域でも、学習や記憶の研究領域でも使われている。
- ⑤ ある刺激に対して形容詞などの特定の関係があるもので反応させる連想法を制限連想法という。

問8. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 記述尺度 ——— 評定尺度法
- ② 質問紙法 ——— 多項選択法
- ③ タブラ・ラサ ——— 平行群法
- ④ 実験法 ——— 比較群法
- ⑤ 品等法 ——— 順位法

問9. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 偏差値は、右の式で算出できる。

$$\text{偏差値} = \frac{\text{得点} - \text{平均}}{\frac{1}{10} \times \text{標準偏差}} + 50$$
- ② 知能指数は、右の式で算出できる。

$$\text{知能指数} = \frac{\text{精神年齢}}{\text{生活年齢}} \times 100$$
- ③ 妥当性とは、テストやその他測定用具について、その結果が測ろうとしているものを測り得る度合いである。
- ④ projective techniqueには、TATやWISCが含まれる。
- ⑤ 標準化とは、検査結果や測定結果の比較や解釈を可能にするため、手続き、基準、尺度を一定に規定する過程のことである。

問10. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい

- ① ピアジェ (Piaget) ——— 形式的操作
- ② ワトソン (Watson) ——— 発達加速現象
- ③ エリクソン (Erikson) ——— identity
- ④ モレノ (Moreno) ——— sociometry
- ⑤ ゲゼル (Gesell) ——— 成熟説

■ 問題用紙 (2023年10月29日用 2024年6月用 第1課題) No.241

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 知識の習得よりも、知識の習得を可能にすると考えられる一般的な精神能力の訓練を重視する教育を形式陶冶という。
- ② ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態をreadinessがある状態という。
- ③ 自主的には困難であるが、おとなの援助や指導があれば、解決可能になる発達の領域を、発達の最近接領域という。
- ④ 第二反抗期は成人期に含まれている。
- ⑤ 学習の内容と直接的な関係をもたない事柄によって学習の意欲をおこさせることを、外発的動機づけという。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ロール・プレイングとは、現実の社会で期待される諸種の役割行為を演技させ、学習させることで、教育や治療の場で使われている。
- ② ケース・スタディとは、統計的分析を目的として多くの研究対象を選び、詳細にそれらの行動を分析することによって心理学的な原理を探る方法である。
- ③ ソシオメトリーとは、集団の成員間の関係を理解し、すべての成員の向上をはかる理論と技法の総称である。
- ④ グループ・ダイナミクスとは、集団の性質、集団の発展過程などについて、特にその現象の力動性に注目して研究する学問である。
- ⑤ アクション・リサーチとは、問題の分析、現場における実践、実践結果の研究へのフィードバックという一連の過程を通じて、現場の問題の解決をめざす研究法である。

問3. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ソーンダイク (Thorndike) ——— 問題箱の実験
- ② ブルーナー (Bruner) ——— 発見学習
- ③ モレノ (Moreno) ——— 社会的測定法
- ④ エリクソン (Erikson) ——— 同一性
- ⑤ ワトソン (Watson) ——— カマラ

問4. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一対比較法 ——— 実質陶冶
- ② 一卵性双生児 ——— 発達研究
- ③ 単一群法 ——— 授業研究
- ④ タブラ・ラサ ——— 経験論
- ⑤ 第一反抗期 ——— 幼児期

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 記述統計は、大量のデータについて、その分布の代表値、散布度、また複数のデータ間の関連度を明らかにすることを目的としている。
- ② 推測統計は、直接的データを標本値として、その背後にある母集団に関する推論を行うことを目的としている。
- ③ 名義尺度とは、測定の結果として得られる数値が、大小関係を表すような尺度のことである。
- ④ 数量化とは、心理量（物理量の変化に応じて生ずる主観的変化量）を、適当な尺度を用いて測定し、それに尺度値を与えることである。
- ⑤ 標準偏差とは、個々の測定値の、平均からの差の2乗和をデータ数で除して、平方根をとった値で、散布度の指標の一つである。

問6. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一元配置とは、いくつかの実験条件に被験者等を無作為に割り当ててデータを出し、条件間比較を行う実験計画のことである。
- ② 平行群法とは、二つの等質な群の両方に、実験群と統制群の両方の役割をもたせる方法で、条件の与え方の順序を相互に逆にする方法のことである。
- ③ 独立変数とは、実験において実験者が実験条件として操作する変数のことである。
- ④ 従属変数とは、実験条件をいろいろな独立変数として変化させるとき、それに応じて変化する実験結果としての変数のことである。
- ⑤ 実験群とは、実験において条件と行動との因果関係を知るために、一定の条件を与えられる被験者の集団のことである。

問7. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① ターマン (Terman) ——— スタンフォード・ビネー法
- ② ピアジェ (Piaget) ——— 前操作的段階
- ③ ゲゼル (Gesell) ——— 忘却曲線
- ④ ローレンツ (Lorenz) ——— 刻印づけ
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) ——— 発達課題

問8. 次の①～⑤の事項の中から、遺伝と環境の問題に直接の関係がないものを、一つ選びなさい。

- ① 比較群
- ② 双生児
- ③ カリカック家
- ④ 輻輳説
- ⑤ 発達加速現象

問9. 次の①～⑤の事項の中から、観察法に直接の関係がないものを、一つ選びなさい

- ① 序列法
- ② 効果の法則
- ③ 図示法
- ④ 時間見本法
- ⑤ 後光効果（光背効果）

問10. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 初潮年齢 ——— 性的成熟
- ② 刷り込み ——— 臨界期
- ③ シング牧師 ——— 狼にそだてられた子
- ④ チーム・ティーチング ——— 個人差
- ⑤ ヒューリスティックス ——— 類型論

■ 問題用紙（2023年10月29日用 2024年6月用 第2課題）No.242

問1. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① セマンティック・ディファレンシャル法は連想法と質問紙法を組み合わせた方法である。
- ② 人物や作品について標準を定め、その標準と比べて対象としたものを評定する方法を標準尺度法という。
- ③ SD法は「意味微分法」とも呼ばれている。
- ④ 連想法はパーソナリティ研究の領域でも、学習や記憶の研究領域でも使われている。
- ⑤ ある刺激に対して形容詞などの特定の関係があるもので反応させる連想法を制限連想法という。

問2. 次の①～⑤の組み合わせの中から、不適当と思われるものを、一つ選びなさい。

- ① 一対比較法 —— 順位法
- ② 点数尺度 —— 評定尺度法
- ③ 多項選択法 —— 質問紙法
- ④ 比較群法 —— 実験法
- ⑤ 平行群法 —— タブラ・ラサ

問3. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 知能指数は、右の式で算出できる。

$$\text{知能指数} = \frac{\text{精神年齢}}{\text{生活年齢}} \times 100$$
- ② projective techniqueには、TATやWISCが含まれる。
- ③ 標準化とは、検査結果や測定結果の比較や解釈を可能にするため、手続き、基準、尺度を一定に規定する過程のことである。
- ④ 妥当性とは、テストやその他測定用具について、その結果が測ろうとしているものを測り得る度合いである。
- ⑤ 偏差値は、右の式で算出できる。

$$\text{偏差値} = \frac{\text{得点} - \text{平均}}{\frac{1}{10} \times \text{標準偏差}} + 50$$

問4. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① モレノ (Moreno) —— 社会的測定法
- ② ピアジェ (Piaget) —— 前操作的段階
- ③ エリクソン (Erikson) —— 同一性
- ④ ワトソン (Watson) —— ゲシュタルト心理学
- ⑤ ゲゼル (Gesell) —— 成熟説

問5. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 単一群法は二項選択法の一つである。
- ② 質問事項について、自由に判断や態度を記述させる方法を自由回答法という。
- ③ いくつかの項目の中から、質問に該当する項目を選択させる方法を多項選択法と言う。
- ④ ある基準に沿って、対象を順序づけさせたり段階づけさせたりする方法を評定法という。
- ⑤ control groupとは対照群のことである。

問6. 次の①～⑤の事項の中から、テスト法の実施の問題に直接の関係がないものを一つ選びなさい。

- ① 母集団
- ② 妥当性
- ③ case study
- ④ 標準化
- ⑤ 信頼性

問7. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ウェクスラー法 —— WPPSI
- ② ゲス・フー・テスト —— 学級構造
- ③ 標準学力検査 —— 偏差値
- ④ 人格検査 —— EPPS
- ⑤ 田中B式知能検査 —— 言語式

問8. 次の①～⑤の人物と事項の組み合わせの中から不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① ヴィゴツキー (Vygotsky) —— 精神分析学
- ② ブルーナー (Bruner) —— 発見学習
- ③ ソーンダイク (Thorndike) —— 試行錯誤説
- ④ シュテルン (Stern) —— 輻輳説
- ⑤ ハヴィガースト (Havighurst) —— 発達課題

問9. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 1905年にフランスのBinetがSimonと共に作成した知能検査が世界で最初のものである。
- ② 学業不振の発見に成就値が使われている。
- ③ 相対評価は、学習の到達度を知るための評価である。
- ④ 相対評価の5段階評価では、3の段階に38パーセントが入る。
- ⑤ 学業不振の原因の一つに、学習方法的要因が入る。

問10. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 二件法とは、刺激に対する被験者の判断が二種のカテゴリーに限られるものである。
- ② パーセントایلは、相対評価の結果の表し方の一つである。
- ③ 質問紙法では虚偽の反応に対する対策が考えられている。
- ④ 回転群法は、二つの等質な群の一方にある条件を与え、他方に別の条件を与えて比較する方法である。
- ⑤ 連想のさせ方により、制限連想法と自由連想法がある。

No.

Q045

児童福祉・保健学基礎論(福祉部分)

須田 仁

児童福祉の原理と展開

領域

共通科目（選択必修）

2 単位

通信

到達目標

子どもと子育てに関する状況や、子どもや子育てに関する社会的支援に関して福祉の分野から理解し、その課題や展望を検討し、支援を展開する実践理論や技法を学習する。

学習成果

子どもの権利の視点から子どもの権利救済や子どもを支える家族への支援などについて、児童福祉の現状の制度や政策などの基礎的知識を学習し、現代の問題として児童虐待・いじめ問題等の実態などを通じて児童福祉サービスの体系を把握する。

基本文献

社会福祉士養成講座編集委員会『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第7版』（中央法規）2019

評価の要点

レポート課題に沿ってレポートを作成し、試験に合格すること。

評価方法と採点基準

レポート提出と科目終了試験で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・基本文献（教科書）の内容をよく理解すること。
- ・基本文献をよく理解した上でレポート課題に取り組むこと。

授業回数別教育内容

- 1回 現代社会と子ども家庭
〈身につく資質・能力〉子どもの概念 〈学習のポイント〉子どもの環境
 - 2回 子ども家庭福祉とは何か
〈身につく資質・能力〉福祉の原理 〈学習のポイント〉福祉の理念
 - 3回 子ども家庭福祉に関わる法制度
〈身につく資質・能力〉法体系 〈学習のポイント〉実施体系
 - 4回 子ども家庭に関わる福祉・保健
〈身につく資質・能力〉保育制度 〈学習のポイント〉子育て支援
 - 5回 児童の社会的養護サービス
〈身につく資質・能力〉社会的養護 〈学習のポイント〉機関・施設
 - 6回 児童虐待対策
〈身につく資質・能力〉権利侵害 〈学習のポイント〉虐待防止法
 - 7回 子ども家庭への援助活動
〈身につく資質・能力〉援助の理解 〈学習のポイント〉相談活動
 - 8回～14回 25頁の「児童福祉・保健学基礎論（保健部分）」を参照
 - 15回 まとめ
- 試験 レポート提出と試験

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

⚠ 第2課題は「児童福祉・保健学基礎論（保健部分）」24頁にあります。必ず、第1課題と第2課題の両方を提出してください。

第1課題

- 1 子ども家庭福祉の理念と定義について述べなさい。

No.

Q045

児童福祉・保健学基礎論(保健部分)

宮川 三平

子どもの命を守り、すこやかに育てるために

領域

共通科目（選択必修）

2 単位

通信

到達目標

健康なこどもの成長と発達について理解できる。またこどもの命と健康を守るためには、事故の予防や手洗い、予防接種などの病気の予防が大切であることが理解できる。

学習成果

子どもの成長と発達の理解が、将来教員、保育者となるためにいかに大切かがわかるようになる。また、子どもの命と健康を守るためには、手洗いなどの感染予防や予防接種など大切であることが、理解できるようになる。

基本文献

松浦信夫、米山岳広監修『わかりやすい子どもの保健』（文化書房博文社）2019

評価の要点

子どもの命も守り、健康を推進するためには、何が必要か理解できているかどうかの評価の要点。

評価方法と採点基準

レポート提出と科目終了試験で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・基本文献（教科書）の内容をよく理解すること。
- ・基本文献をよく理解した上でレポート課題に取り組むこと。

授業回数別教育内容

- 1回～7回 24頁の「児童福祉・保健学基礎論（福祉部分）」を参照
- 8回 こどもの運動発達精神発達（1）：デンバーⅡを理解しましょう。
〈身につく資質・能力〉子どもの発達の理解
- 9回 こどもの発達と脳科学について勉強しましょう。
〈身につく資質・能力〉子どもの発達の理解 〈学習のポイント〉教科書第2章
- 10回 子どもはなぜ人見知りするのでしょうか？について考えましょう。
〈身につく資質・能力〉子どもの発達の理解 〈学習のポイント〉教科書第2章
- 11回 こどもの発達障害（自閉スペクトラム症）について学びます。
〈身につく資質・能力〉子どもの発達の理解
- 12回 こどもの発達と事故の予防について学びます。
〈身につく資質・能力〉子どもの発達と事故の理解 〈学習のポイント〉教科書第17章
- 13回 こどもの感染症とその予防（標準的感染予防と感染経路別予防）についてについて学びましょう。
〈身につく資質・能力〉こどもの感染症と予防の理解 〈学習のポイント〉教科書第16章
- 14回 子どものやせ、肥満について学びます。
〈身につく資質・能力〉子どものやせ、肥満の理解 〈学習のポイント〉教科書第3章
- 15回 まとめ

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

⚠ 第1課題は「児童福祉・保健学基礎論（福祉部分）」23頁にあります。必ず、第1課題と第2課題の両方を提出してください。

第2課題

- 1 レポート課題：標準的感染予防対策と感染経路別の予防対策について

No.

Q046

児童文化学基礎論

大成 哲雄・
西園 政史

児童文化学の基礎・美術的な視点から

領域

共通科目（選択必修）

2 単位

通信

到達目標

「子ども」は、文化的側面の強い概念である。そのため、文化が異なると「子ども」の形は大きく変わる。例えば、成人とみなされる年や結婚する年は国や地域などで違っている。

一方、「児童」とは制度的側面の強い概念である。例えば、福祉では「満18歳に満たない者」、学校教育では「初等教育を受けている者」であり、法律によって概念が異なっている。

「子供」や「児童」などの概念は、教育や福祉、地域などそれぞれの状況に応じて使い分けられており、それ自体は「ありのままの存在」というよりも「文化的な構築物」である。

そのような状況のもとで、当の子供達は自らの生を実践しながら、児童に関する文化、いわゆる「児童文化」を成立させてきた。例えば、児童画を描き、詩や作文をつくり、あるいは児童用に作成された絵本や児童文学を読み、童謡を歌い、かるたやコマなど子供用のおもちゃで遊んでいた。その商業的な側面は、子供用ファッション、スポーツ用品、ゲームやテレビ、アニメーションなど、今も変化や複合、拡大を続けている。

本講座では、文化的制度的存在である「児童」をとらえ直し、その上で実際の児童がどのように生きており、また、どのような「児童文化」が成立しているのかについて考える。その具体的な方法として主にアート、美術的な視点からとらえていく。

学習成果

美術的な視点をもとに「子供」や「児童」の概念を知り、「児童文化」について理解する。

基本文献

川勝泰介編著『よくわかる児童文化』（ミネルヴァ書房）

佐藤学監修、ワタリウム美術館編『驚くべき学びの世界—レッジョ・エミリアの幼児教育』（東京カレンダー）

評価の要点

美術的な視点をもとに「子供」や「児童」の概念を知り、「児童文化」について、研究に必要な基礎的な事柄、方法の理解。

評価方法と採点基準

レポート提出と科目終了試験で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

文献を調べたり、体験学習、実技等をとおして「児童文化」について多角的に理解すること。

授業回数別教育内容

1回 「子供の誕生～近代のまなざし～」

17世紀以前「子供」はかつて「小さな大人」であり、その後、学校化を含む近代社会の発展によって「子供」という概念が成立したとするアリエス。一方、子供期という概念は徐々に変化しているとはいえ過去から存在し、不変性を認識する必要があると述べたポロクについて、両者の主張を比較しながら「子供」という概念について概観する。

参考：アリエス『〈子供〉の誕生』みすず書房 1980、L.A.ポロク『忘れられた子どもたち』勁草書房 1988

〈身につく資質・能力〉「子供」という概念の成立について考える力

〈学習のポイント〉慣習的に用いている「子供」という概念について批判的に検討する

2回 「文化としての子供」

人々は文化コミュニティの一員として発達する。人々の発達を生物学的にとらえるのではなく、歴史的、文化的な個人、家族、世代、コミュニティなどの成立から子供をとらえ直す必要がある。

参考：『文化的営みとしての発達』新曜社2006

〈身につく資質・能力〉文化的な視点から子供の成立や発達をとらえる力 〈学習のポイント〉子供と発達について文化的な視野から検討する

3回 「制度としての「児童」」

「児童」の辞書的な意味、児童を対象とした法の趣旨や内容についてまとめる。守られるべき存在、あるいは教育されるべきとして存在としての「児童」について考える。

参考：「児童の権利に関する条約」・「児童福祉法」・「児童虐待防止法」「学校教育法」「道路交通法」「児童扶養手当法」等

〈身につく資質・能力〉法律や制度の観点からとらえた「児童」に関する知識

〈学習のポイント〉「児童」が用いられる理由について把握する

4回 「表された「子供」」

中世の屏風等に描かれた子供の図像、近代に描かれた子供や写真、現代の子供を描いた絵画等について調べ、子供がどのように「まなざし」でとらえられているか歴史的に把握する

参考：信貴山縁起絵巻、伴大納言絵巻、江戸時代の寺子屋の図、明治期の写真、アニメ等

〈身につく資質・能力〉視覚的な資料から児童像について分析する力

- 〈学習のポイント〉 子供に関する図像から当時の子供像と児童文化を推測する
- 5回 「日本における児童文化の発生」
 主に大正時代の自由画教育運動に焦点をあて、そこで描かれた児童画とその理論的背景について検証する。そこから絵本、児童文学、唱歌、詩歌、紙芝居、児童劇など児童文化に関する内容について調査する。
 参考：山本鼎「自由画教育」黎明書房
 〈身につく資質・能力〉 児童画教育運動から社会背景や児童文化の概念を理解する
 〈学習のポイント〉 自由画教育運動から児童文化の成立について考える
- 6回 「子供が表す世界」
 それぞれの地域で行われている児童画展を鑑賞し、子供の表現にどのような発達があるのか、子供がつくりだす文化は、社会の中でどのように成立しているのか考える。
 〈身につく資質・能力〉 教育的なジャンルとしての児童画の現状を理解する 〈学習のポイント〉 児童画の展覧会を実地調査し、自分の考えをまとめる
- 7回 「児童文化の諸相」
 子どもや児童の概念と、児童文化の関係について、1～6回の内容をまとめる。
 〈身につく資質・能力〉 児童文化について自分の考えを論理的にまとめる力
 〈学習のポイント〉 1～6回までの学修内容を俯瞰しながらレポートとして構築すること
- 8回 「現代の子供の表現(1)」
 0歳～5歳 幼児教育の中で行われている造形表現を理解し、発達段階を踏まえ、学習目的、身に付ける力を理解する。
 参考「子どもの造形表現」開成出版
 〈身につく資質・能力〉 幼児期における表現の重要性に気づく。 〈学習のポイント〉 年齢毎に学びの内容を理解する。
- 9回 「現代の子供の表現(2)」
 小学校教育の「図画工作」で行われている題材を理解し、発達段階を踏まえ、学習目的、身に付ける力を理解する。
 参考「図工室に行こう」参考DVD「トントンゴキゴキ図工の時間」
 〈身につく資質・能力〉 小学校教育における「図画工作」の学びの意味を理解する。
 〈学習のポイント〉 学年毎に学びの内容を理解する。表現と鑑賞に両方に着目する。
- 10回 「現代の子供の表現(3)」
 中学校「美術科」で行われている題材を理解し、発達段階を踏まえ、学習目的、身に付ける力を理解する。
 参考「美術教育の題材開発」
 〈身につく資質・能力〉 中学校「美術科」の学びの意味を理解する。
 〈学習のポイント〉 学年毎に学びの内容を理解する。表現と鑑賞に両方に着目する。
- 11回 「海外の美術教育 レッジョ・エミリア・アプローチを例に」
 イタリアのレッジョ・エミリア市で行われている幼児教育に着目し、日本の造形教育と比較、検討する。
 参考「驚くべき学びの世界」ワタリウム美術館 参考DVD「レッジョ・エミリアの幼児教育1」
 〈身につく資質・能力〉 日本とイタリアの美術教育について比較し、共通点、違いについて理解する。
 〈学習のポイント〉 一つの題材（プロジェクト）に着目しその意味を探る。
- 12回 「地域の中での子供の表現 造形ワークショップ、アートプロジェクトの中の子供の表現」(1)
 参考「ひと×まちからの創造」悠雲舎、「子どものためのワークショップ」アイプロモーション
 アートパークプロジェクト <http://artpark.exblog.jp/>
 〈身につく資質・能力〉 アートプロジェクトや造形ワークショップの語意や事例を理解する。
 〈学習のポイント〉 どのようなアートプロジェクトが地域で行われているか、インターネットで検索し調べる。アートプロジェクトやワークショップに出来れば参加し体験的に理解する。
- 13回 「地域の中での子供の表現 造形ワークショップ、アートプロジェクトの中の子供の表現」(2)
 参考図書「藤浩志のかえるワークショップ」3331 ART CYD
 〈身につく資質・能力〉 ワークショップの事例内容を更に深く理解する事ができる。
 〈学習のポイント〉 美術の概念の広がりを理解する。
- 14回 「学校教育と地域のワークショップ」について比較検討する。
 参考文献「造形ワークショップの広がり」
 〈身につく資質・能力〉 子供の表現活動に対する多様なアプローチを理解する。
 〈学習のポイント〉 2、3の実践事例をもとに比較、検討する。
- 15回 「まとめ 児童文化、子供の表現」
 1～14回の内容をまとめる。
 〈身につく資質・能力〉 「児童文化、子供の表現」について自分の考えを論理的にまとめることができる。
 〈学習のポイント〉 全体を振り返り、美術的な視点をもとに児童文化とは何かを考える。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字程度】

1 子どもが文化的な存在であることについて、あなたの考えを論じなさい。

- (1)自分の生活経験や身近な環境から一例上げて、
 (2)基本文献『よくわかる児童文化』からの引用を用いて、論理的に説明すること。
 ※レポートの構成は、(1)はじめに (2)事例 (3)終わりに、の構成で行うこと。

第2課題【1200字以上、写真添付の場合は10点以内】

1 基本文献『驚くべき学びの世界—レッジョ・エミリアの幼児教育』をもとに、子どもとアートのこれからについて自身の考えを述べなさい。

- ※レポートの構成は(1)はじめに(2)本論(3)おわりにの構成で行うこと。

No.

Q047

児童学研究法特論（I）

蔵本 知子

統計データ解析

領域

2 単位

通信

面接

共通科目（選択必修）

到達目標

- (1) 目的：統計データ解析の主要な方法を学び、修士論文研究で活用できるようにする。
- (2) 到達目標：
 1. 統計データ解析の主要な方法（ノンパラメトリック法、実験計画法、多変量解析法）の意味と用途を説明することができる。
 2. 研究の目的とデータの状況に応じて上記1の中から適切な方法を選択し、実施することができる。
 3. 解析結果を正しく解釈し、表現することができる。

学習成果

- (1) 記述統計、 χ^2 検定、t検定、分散分析、相関係数、因子分析、重回帰分析の用途を説明できる。
- (2) 研究の目的とデータの状況に応じて上記（1）の方法を選択し、統計ソフトで実行できる。
- (3) 解析結果を図表、文章で正しく述べることができる。

基本文献

小宮あすか・布井雅人『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』（講談社）2018
面接授業では別途資料を配付します。

参考文献

小塩真司『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで 第3版』（東京図書）2018

評価の要点

- (1) データの状況に応じて適切な解析法を選択できる。
- (2) 統計ソフトでデータを処理することができる。
- (3) 結果を図表や文章で正しく記述することができる。

評価方法と採点基準

- (1) 評価の方法
 1. 指定の項目について教科書通りにデータ処理した学修プロセスを示したレポート課題の合格が面接授業を受ける条件となる。この事前レポートでは最終の成績はつかないものとする。
 2. 面接授業では、通信授業の復習と、それ以外の内容も統計ソフトで学び、その結果を記述しレポート形式で提出する。
- (2) 採点基準
 1. 図表を使って適切にデータの表示を行っているか。
 2. 解析結果を正しく文章で表現しているか。

履修上の注意事項や学習上の助言

修士論文研究において、アンケート調査等で量的データを収集する予定の方は必ず受講して下さい。受講学生の理解度や課題の進捗状況に応じて、内容を調整することがあります。なお、第7回までの通信授業では、既にお使いのソフトで同じことを進めて構いませんが、統計ソフト初心者是在宅でも使えるフリーの統計ソフトHADを使って下さい。HADが入手できない場合は連絡下さい。第8回からの面接授業ではSPSSを使います。

また、面接授業では学習支援システムMoodleを利用します。

授業回数別教育内容

- 1回 統計データ解析の意義と概要（教科書による独習）
〈身につく資質・能力〉実証的研究の態度・データの種類に関する基礎知識
〈学習のポイント〉テキスト第1章・第2章の熟読
- 2回 記述統計学の諸測度（教科書・PCによる独習）
〈身につく資質・能力〉度数分布、代表値と散布度の基礎知識と算出方法
〈学習のポイント〉テキスト第3章の通りPCで実際にデータ処理
- 3回 推測統計学の諸測度（教科書による独習）
〈身につく資質・能力〉帰無仮説、対立仮説、有意水準等の知識
〈学習のポイント〉テキスト第4章の熟読
- 4回 t検定①：対応のあるデータの場合（教科書・PCによる独習）
〈身につく資質・能力〉対応のあるデータの平均値の有意差検定の方法

- 〈学習のポイント〉テキスト第5章の通りPCで実際にデータ処理
- 5回 t検定②：対応のないデータの場合（教科書・PCによる独習）
 〈身につく資質・能力〉対応のないデータの平均値の有意差検定の方法
 〈学習のポイント〉テキスト第5章の通りPCで実際にデータ処理
- 6回 相関とその検定（教科書・PCによる独習）
 〈身につく資質・能力〉相関係数の知識・相関係数の有意性検定の方法
 〈学習のポイント〉テキスト第8章の通りPCで実際にデータ処理
- 7回 カイ2乗検定（教科書・PCによる独習）
 〈身につく資質・能力〉観測度数、期待度数等の知識、カイ2乗検定の方法
 〈学習のポイント〉テキスト第12章の通りPCで実際にデータ処理
- 8回 通信授業での独習部分の復習①
 〈身につく資質・能力〉通信授業で扱ったデータ分析の研究への活用法
 〈学習のポイント〉テキストの復習と発展学習
- 9回 通信授業での独習部分の復習②
 〈身につく資質・能力〉通信授業で扱ったデータ分析の研究への活用法
 〈学習のポイント〉テキストの復習と発展学習
- 10回 1要因分散分析
 〈身につく資質・能力〉分散分析の知識・技能・結果解釈の方法
 〈学習のポイント〉実験計画法、多重比較
- 11回 2要因分散分析①
 〈身につく資質・能力〉分散分析の知識・技能・結果解釈の方法
 〈学習のポイント〉主効果
- 12回 2要因分散分析②
 〈身につく資質・能力〉分散分析の知識・技能・結果解釈の方法
 〈学習のポイント〉交互作用と単純主効果検定
- 13回 因子分析①
 〈身につく資質・能力〉因子分析の知識・技能
 〈学習のポイント〉変数の要約
- 14回 因子分析②
 〈身につく資質・能力〉因子分析の知識・技能
 〈学習のポイント〉尺度開発への応用
- 15回 回帰分析
 〈身につく資質・能力〉回帰分析の知識・技能
 〈学習のポイント〉相関関係から予測関係へ、独立変数の影響力の評価
- 試験 教科書に載っていないサンプルデータと調べたい内容の書かれた課題に対し、どの手法で分析したらよいかを考え、実際にPCで分析し、結果の表やグラフ、文章を、PCで論文スタイルのレポートにまとめて提出する。

レポート課題

第1課題

教科書の第5、8、12章についての学修プロセスをまとめる。

（教科書のサンプルデータを統計ソフトでデータ処理し、分析結果を印刷して貼るかワードに貼りこんで、学修したことを証明する文書を作成して下さい。どの分析法を用いたのか、また、出力された結果の説明の文章もつけて下さい。論文調である必要はありません。HAD以外のソフトの場合はそのソフト名も明記すること）

No.

Q048

児童学研究法特論（Ⅱ）

都丸 けい子

ヒューマン・ケアの実践領域で活かす質的研究法

領域

2 単位

通信

面接

共通科目（選択必修）

到達目標

1. 実践での種々の現象を質的な研究方法を用いて探求することの重要性と楽しさを体験する。
2. 質的研究法の一つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて実際に分析する。

学習成果

1. 質的研究法の概要について理解できる
2. 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて、概念やカテゴリー生成のプロセスを体験できる。

基本文献

1. 佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』（新曜社）2008
2. サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実『質的研究法マッピング 特徴をつかみ活用するために』（新曜社）2019
3. 木下康仁『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』（弘文堂）2003
4. 木下康仁『ライブ講座M-GTA』（弘文堂）2007

評価の要点

- (1)基本文献1（佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』（新曜社）2008）を熟読した上で、その内容をレポート課題1に簡潔にまとめることができる。
- (2)基本文献1（サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実『質的研究法マッピング 特徴をつかみ活用するために』（新曜社）2019）を熟読した上で、自分自身の課題を明確にし説明できる。
- (3)面接授業において積極的に参加できる。

評価方法と採点基準

1. 評価方法
 - (1)レポート課題1（40%：但し、レポートに合格しないと面接授業は受けられない）
 - (2)面接授業での参加度及び毎回のリフレクション・シート（60%）
2. 採点基準
 - (1)基本文献1の理解度
 - (2)記述内容の充実度

履修上の注意事項や学習上の助言

1. 「レポート課題1」は、体裁と内容を備えるようにしてください。
2. 基本文献1は、少なくとも2度は熟読してください。それ以外の基本文献もできるだけ通読してください。
3. 面接授業の際には、添削したレポート及び基本文献1・基本文献2・基本文献3・基本文献4は必ず持参してください。

授業回数別教育内容

- 1回 ●ガイダンス
研究への取り組みについて 研究テーマ、研究目的、研究方法の一貫性
〈身につく資質・能力〉研究テーマと研究方法との関連の理解 〈学習のポイント〉研究とはなにかを再確認する
- 2回 ●質的研究の概要の理解①
演繹的推論と帰納的推論 定量的データと定性的データ
〈身につく資質・能力〉研究的思考とデータの扱い方 〈学習のポイント〉研究の基本的事項を理解する
- 3回 ●質的研究の概要の理解②
質的研究の意義と適用、質的研究の特徴とプロセス Mixed Method
〈身につく資質・能力〉質的研究の活用の理解 〈学習のポイント〉質的研究の種々の方法を理解する
- 4回 ●質的研究の概要の理解③
研究計画の立案
〈身につく資質・能力〉研究計画立案の方法 〈学習のポイント〉研究計画立案の際の留意点と重要点
- 5回 ●質的研究の概要の理解④
研究の実施と研究倫理
〈身につく資質・能力〉研究倫理についての理解 〈学習のポイント〉研究フィールド及び研究対象者への配慮
- 6回 ●質的研究の概要の理解⑤
研究の評価基準
〈身につく資質・能力〉質的研究の特徴と評価基準との関係性の理解 〈学習のポイント〉評価基準の理解

- 7回 ●修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの概要①
理論特性、手順プロセス、分析テーマと分析焦点者、データの範囲と収集法
〈身につく資質・能力〉研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者の重要性の理解 〈学習のポイント〉分析の要点の理解
- 8回 ●修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの概要②
解釈プロセス、概念とカテゴリーの生成、継続的比較分析
〈身につく資質・能力〉継続比較分析的思考 〈学習のポイント〉分析の要点の理解
- 9回 ●データ分析の手法の実際①
データの扱い方、分析ワークシートの使用方法
〈身につく資質・能力〉継続比較分析的思考 〈学習のポイント〉分析のプロセスの実際を模擬的に体験
- 10回 ●データ分析の手法の実際②
模擬データを用いた分析演習：分析テーマ・分析焦点者の設定
〈身につく資質・能力〉継続比較分析的思考 〈学習のポイント〉分析のプロセスの実際を模擬的に体験
- 11回 ●データ分析の手法の実際③
模擬データを用いた分析演習：概念生成
〈身につく資質・能力〉継続比較分析的思考 概念化する力 〈学習のポイント〉分析のプロセスの実際を模擬的に体験
- 12回 ●データ分析の手法の実際④
模擬データを用いた分析演習：概念及びカテゴリーの生成
〈身につく資質・能力〉継続比較分析的思考 概念化する力 〈学習のポイント〉分析のプロセスの実際を模擬的に体験
- 13回 ●データ分析の手法の実際⑤
ストーリーラインと結果図の書き方
〈身につく資質・能力〉論理的思考力 文章作成力 プレゼンテーション力 〈学習のポイント〉研究結果の表現方法
- 14回 ●論文の作成の仕方
文章作法
〈身につく資質・能力〉論理的思考力 文章作成力 プレゼンテーション力
〈学習のポイント〉研究結果の表現方法 論理的な文章の書き方
- 15回 ●まとめ
前14回までの重要ポイントの確認と追加
〈身につく資質・能力〉統合する力 俯瞰して考える力
- 試験 実施しない

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

第1課題

- 1 基本文献1（佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』（新曜社）2008）を読んで以下の要領で要約してください。
- 基本文献1の「第1部 質的データ分析の基本原則（p1-p73）」までの第1章から第5章までを熟読して要約してください。
 - レポートの体裁は A4判 40字×35行 11ポイントで作成する。表紙を除き4枚以内。

No.

Q017

保育史特論

古橋 和夫

領域

保育学

2 単位

通信

到達目標

J. デューイの教育に関する代表的著作『学校と社会』『民主主義と教育』『経験と教育』を柱として、彼の教育思想とその思想的発展について考察する。現在の幼稚園教育は「環境を通して行う」ことを基本としているが、「環境」「経験」「興味と訓練」「活動的作業」「衝動・習慣・知性」など幼児教育理論において重要な基本概念を再考することを目的に考察を進める。この学習を通して、幼児教育に関して多角的な視野に立って考察、研究する能力を身に付ける。

学習成果

「ひとつの経験をもつ」「興味と訓練」「衝動・習慣・知性」に関するデューイの教育思想を説明することができる。
実際の子どもの遊びや活動的な作業などをデューイの用語を活用して説明することができる。

基本文献

デューイ著 宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫）
デューイ著 松野安男訳『民主主義と教育（上）』（岩波文庫）
デューイ著 松野安男訳『民主主義と教育（下）』（岩波文庫）
デューイ著 市村尚久訳『経験と教育』（講談社学術文庫）

参考文献

杉浦宏編『現代デューイ思想の再評価』世界思想社
杉浦宏『デューイの自然主義と教育思想』明治図書
杉浦美朗『真の知の教育—デューイ教育学の再構築』風間書房

評価の要点

第1課題、第2課題についてはレポートを提出する。課題に関する要点を適切に把握しているか、またその要点を適切に整理し論理的に構成しているかを見る。

科目終了試験については、第1課題と第2課題の内容を踏まえ論が適切に展開されているか、記述内容が正確であるかを評価する。

評価の方法と採点基準

出題者の考える要点が書かれているか、内容が正確であるか、論の展開の仕方は適切かの点から評価する。90点以上をS、以下、80点、70点、60点以上をA、B、Cと評価する。60点未満をD評価とする。

履修上の注意事項や学習上の助言

保育史特論のテキストは、各回、デューイの教育論に関する重要事項をテーマとして、内容をまとめ考察したものになっている。まずはこれをよく読み、基本文献や研究書の考察を進むことが理解を深めることになる。

また、基本文献のなかで『学校と社会』の第1、2、3章は、シカゴ大学付属小学校における教育実践をまとめた連続講演であるので比較的読みやすく、デューイの教育思想を考えるうえで、必読の文献となっている。『経験と教育』は、経験にもとづく教育の実践理論の哲学的考察がなされているもので、「総合的学習」の理論、方法や技法に大きな示唆をあたえるものである。訳書も読みやすいものである。『民主主義と教育』は、デューイの主著であり教育学史上においても古典的な文献であるが、やや難解なところもあるので、『学校と社会』『経験と教育』をもとに考察し、これらの文献との関連において学ぶことが適当である。

授業回数別教育内容

- 1回 デューイの初期の教育理論 —社会的事態の変化と伝統的教育の欠陥
- 2回 デューイの初期の教育理論 —社会生活と結びつく理想的学校の構想
- 3回 デューイの初期の教育理論 —活動的作業を中心とするカリキュラム
- 4回 実験的経験論と教育哲学
- 5回 新しい経験の概念—経験とは何か
- 6回 経験の改造としての教育
- 7回 経験の発達と共同生活への参加
- 8回 人間の成長と習慣
- 9回 教育の目的—活動の中で発生し作用する目的
- 10回 興味と訓練—“ひとつの経験をもつ”
- 11回 経験主義教育における知識学習—問題解決学習の5段階
- 12回 自己教育としての教育と教師の役割

13回 教育課程における遊びと仕事—作業の課程

14回 地理および歴史の意義—情報の課程

15回 教育課程における科学—科学的知識

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字以内】

3題中1題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。

- 1 『学校と社会』にもとづいて、デューイの構想する理想的な学校について明らかにし、その教育的意義について論述しなさい。
- 2 「教育とは、経験の意味を付加し、次の経験の進路を方向づける能力を増大させるところの、経験の改造ないし再組織である」とデューイは述べている。教育に関するデューイの定義について具体的な事例をもとに論述しなさい。
- 3 子どもの遊び、活動的な作業、学習などを例にして「問題解決学習」について具体的に論述しなさい。

第2課題【2400字以内】

3題中1題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。

- 1 「教師の指導は、環境を準備することによる間接的なものである」とデューイは述べているが、どのような意味か。具体的な事例をもとに教師の指導と役割について論述しなさい。
- 2 『学校と社会』（宮原誠一訳、岩波文庫）の中で報告されている「裁縫・織物」の実践事例（31～33頁）、「料理をつくる」活動事例（49～51頁）についてまとめ、その教育的意義について論述しなさい。
- 3 「経験は、その生きた姿においては実験的であり、与えられたものを変化しようとする努力であって、企画と未知なるものへの探索とを、その特徴にしている。要するに未来との関連（connection with a future）こそが、経験の著しい特色である」とデューイは述べている。子どもの遊びの経験など具体的な事例をもとに、このことを説明しなさい。

No.

Q018

保育社会学演習

小玉 亮子

幼児教育・保育の理解を深め、広げる

領域

2 単位

通信

面接

幼児教育学・保育学

到達目標

幼児教育・保育という小集団的な営みは、すぐれて社会的な営みである。この科目を学ぶことによって、園の活動や家庭のしつけを社会的できごととして、社会と、更には社会変動と関連づけて考えることを習得する。日々の教育・保育活動を客観的に把握しつつ、理論につなげることを学び、問題解決のための議論に資する知見を蓄積していくことを目標とする。

学習成果

1. 通信で学ぶ1回～7回の構成と、得られる学習成果は次のとおりである。
 - ・子どもを社会的に理解する学習から始まって、社会変化の流れを子どものしつけや教育の変化と関わらせて考察する。巨視的に社会をとらえ、そこに保育を位置づけることができるようになる。
 - ・幼稚園・保育園・こども園に焦点化し、社会でこれまで提起されてきた議論を学ぶ。
 - ・子どもと家族に焦点を合わせて、社会や家族の変化が幼児教育をどう変質させたかを考える。ここでは歴史、社会史の知見から保育を考えることができるようになる。
2. 面接授業においては、家族、園、地域、そして政策的にも就学前教育に関する制度や議論の変化が著しい実態をうけて、その意味を考える。同時に、社会学的研究の視点から自らの研究を考察する。

基本文献

小玉亮子編『幼児教育』（ミネルヴァ書房）2020

参考文献

適宜、参考文献を指定する。

評価の要点

1. 近代以降の社会変化を理解し、それが幼児教育と保育にどう関わっているかを説明できる。
2. 幼稚園・保育園・こども園における活動について社会学的に説明できる。
3. 現代社会における幼児教育と保育の現状について自らの視点で考察できる。

評価方法と採点基準

上記、評価の要点で示したことについて広く、社会学的に考察する力を獲得したかを、論述式のレポートで評価する。その際にはレポートの構成は適切か、内容は間違いがないか、論理的な文章で記述されているか、出典の記述は適切か等を重視して採点する。

履修上の注意事項や学習上の助言

1. テキストのみならず興味をもったことに関する文献を、積極的に読んでください。
2. 面接授業は、履修者の文献レポートと討論を中心に演習形式で行います。大いに議論に加わって発言して下さい。

授業回数別教育内容

- 1回 幼児教育とは何かについて考える（テキスト第1章）
〈身につく資質・能力〉幼児教育についての基本的なイメージをもつ
- 2回 幼児教育の変遷を理解する（テキスト第2章）
〈身につく資質・能力〉幼児教育を歴史的に見る視点をもつ
- 3回 日本における幼児教育の展開の意味を問う（テキスト第3章）
〈身につく資質・能力〉日本の幼児教育の現状と課題を理解する
- 4回 諸外国における幼児教育の展開の意味を問う（テキスト第4章）
〈身につく資質・能力〉世界の幼児教育の現状と課題を理解する
- 5回 幼児教育施設と経営の現状を知る（テキスト第5章）
〈身につく資質・能力〉幼児教育施設について説明できる
- 6回 幼児の発達と教育について、社会学的に考える（テキスト第6章）
〈身につく資質・能力〉発達論について社会学的な視点をもつ
- 7回 幼児教育について、自らの疑問、関心を深める
〈身につく資質・能力〉テキストから考えたことを言説化する
- 8回 以下は面接授業となる。
幼児教育を長期的スパンで捉える
〈身につく資質・能力〉歴史的に巨視的な視点をもつ

- 9回 幼児教育を中期的スパンで捉える
〈身につく資質・能力〉中期的な変化から分析する視点をもつ
- 10回 幼児教育のグローバルな展開を捉える
〈身につく資質・能力〉グローバルな視点をもつ
- 11回 現代の幼児教育の課題を分析する
〈身につく資質・能力〉ローカルな視点をもつ
- 12回 子育て支援・連携の現状について検討する
〈身につく資質・能力〉施設と家族の関係を社会的に見る視点をもつ
- 13回 グローバル化社会の動向を理解する
〈身につく資質・能力〉グローバルな課題を社会的にみる視点をもつ
- 14回 こどもと経済的な課題を検討する。
〈身につく資質・能力〉社会経済的な視点から議論することができる。
- 15回 まとめ、何を理解し、どのような課題を見出したのかをまとめる
〈身につく資質・能力〉社会的に自らの問題意識を議論する

レポート課題

提出数
1手書き
不可

第1課題【3600字程度】

以下の二つの課題の両方に解答してください。

- 1 テキストの第一章から第6章までを読んで、疑問におもったこと、あるいは、もっと知りたいと思ったことについて、各章について2点以上書いてください。その際、必ず、テキストの中で関係するページ数を明記すること（1600字程度）。
- 2 上記の各自の、疑問点ないしはもっと知りたいことの中から一つをとりあげ、それについて自分自身で調べてみて、その結果わかったことをまとめてください。その際、必ず自分が調べた文献等からの引用を使って論じるようにしてください（2000字程度）。

No.

Q019

乳幼児発達心理学演習

村田 カズ

乳幼児期の子どもの発達的变化に伴う心理学的特性を理解する

領域

2 単位

通信

面接

保育学

到達目標

子どもの多面性と全体性の両面から児童問題を深く考えるために、この科目は次のような到達目標を定める。

- ①乳幼児の発達にかかわる心理学の基礎を習得し、乳幼児への理解を深める。
- ②乳幼児の力とその発達を理解して、乳幼児が生活と遊びを通して経験を深めていく過程を知る。

学習成果

乳幼児の具体的な姿をイメージしながら、理論を学び、理論をもとに実践を考え、現実の乳幼児の姿が反映された自分なりの理論を作り上げることができる。

基本文献

相良順子・村田カズ・大熊 光穂・小泉左江子著『保育の心理学—子どもたちの輝く未来のために—第3版』（ナカニシヤ出版）2018

評価の要点

次の世代を担う子どもたちを育てる立場の者としての学識・能力を問う。

- ①レポート課題への取り組みの姿勢を重視する。発達心理学についての広い学習を終えた後、レポート課題3題全てに組み込み、その中で最もまとまったレポートを提出して欲しい。
- ②面接授業の最後に課すレポートにより、この科目で学んだことについてさらに主体的に自分の考えを持つことできたかどうかを評価する。

評価方法と採点基準

評価の要点の①を50点、②を50点の割合で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・子どもの発達全般に関するニュース、話題に関心をもって欲しい。
- ・基本文献は一冊なので、よく読んでから授業に出席すること。

授業回数別教育内容

- 1回 なぜ子どもの発達を学ばなければならないのかを考える。
〈身につく資質・能力〉思考力 〈学習のポイント〉発達とは
- 2回 子ども心の健やかな発達に必要な環境について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉創造力 〈学習のポイント〉育つ環境
- 3回 感情のコントロールの発達について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉内省力 〈学習のポイント〉自己抑制
- 4回 認知発達の広がりによって直接かかわっている乳児の姿勢運動について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉観察力 〈学習のポイント〉姿勢、微細運動、粗大運動
- 5回 見ること、聞くこと、考えることの発達を学ぶ。
〈身につく資質・能力〉思考力 〈学習のポイント〉認知
- 6回 乳幼児の言語発達について考える。
〈身につく資質・能力〉思考力 〈学習のポイント〉ことば
- 7回 ことばを理解するとは、どのようなことかを学ぶ。
〈身につく資質・能力〉傾聴力 〈学習のポイント〉指さし
- 8回 子どもが抱く、養育者への基本的信頼感について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉共感力 〈学習のポイント〉愛着
- 9回 乳幼児が周りの人との相互的かわりを通して発達していくことを学ぶ。
〈身につく資質・能力〉共感力 〈学習のポイント〉人間関係
- 10回 乳幼児の人との出会い、ものとの出会いについて考える。
〈身につく資質・能力〉想像力 〈学習のポイント〉ふれあい
- 11回 友人関係はどのように育つのかについて学ぶ。
〈身につく資質・能力〉共感力 〈学習のポイント〉仲間
- 12回 人の生涯にわたって、発達を援助することの意味を学ぶ。
〈身につく資質・能力〉思考力 〈学習のポイント〉発達
- 13回 胎児期および新生児期についての研究を概観する。
〈身につく資質・能力〉想像力 〈学習のポイント〉赤ちゃん
- 14回 乳児期、幼児期についての心理学的研究を概観する。

〈身につく資質・能力〉内省力 〈学習のポイント〉乳幼児
 15回 学童期から青年期についての心理学的研究を概観する。
 〈身につく資質・能力〉内省力 〈学習のポイント〉思春期
 試験 面接授業の最後にレポートを課す。

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

第1課題【2400字程度】

3題中1題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。

- 1 認知発達に関わるピアジェ (Piaget, J.) 理論とヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) 理論を比較・対照して論じなさい。そして、今、なぜヴィゴツキーの理論が再評価されてきているのかを考えなさい。
- 2 反社会的・非社会的行動をとる児童および青年達の乳幼児期における家族関係を愛着・愛着障害に関する文献を通して発達心理学的に考察し、彼等の社会的適応をサポートするための方策を関係論的に述べなさい。
- 3 下記の図書の第2・3章を読んで乳幼児期の発達についての臨界期、敏感期について従来の発達心理学、教育心理学で云われてきた理論と比較しながら私見を述べなさい。

対象図書：榊原洋一著「子どもの脳の発達 臨界期・敏感期 - 早期教育で知能は大きく伸びるのか? -」講談社+α新書 2004年
781円（税別）

No.

Q020

家庭教育特論

奥村 典子

家庭教育の未来を展望する

領域

保育学

2 単位

通信

到達目標

以下の2点を目指す。

- ①家庭教育ならびに家族について、その多様性および歴史的な性格への理解を深める。
 ②家庭教育ならびに家族を巡る課題を広い視野から捉え、歴史的な背景を踏まえた上で、将来を展望する視座を培う。

学習成果

日本における家庭教育ならびに家族の現状について、適当な課題を設定し、その解決に向けて探求し、歴史的な背景を踏まえた明確な論拠を示しながら結果を述べるができる。

基本文献

- ①奥村典子『動員される母親たち』（六花出版）2014年
 ②志田未来『社会の周縁を生きる子どもたち』（明石書店）2021年

評価の要点

- 評価は、科目終了試験の成績のみに基づいて行う。レポートの評価は成績に反映しない。
 ○科目終了試験は論述形式である。評価の観点には以下の通り。
 ①解答内容が適切であること ②論構成が適切であること ③文法的誤りや誤字脱字がないこと ④総じてみたときに深い専門性と豊かな独創性が感じられること

評価方法と採点基準

- ①解答内容 80% ②論構成 15% ③誤字脱字等 5%

履修上の注意事項や学習上の助言

- スタディ・ガイドに即して、配布テキストを熟読すること。
 ○スタディ・ガイドの各回の講義には「学習と研究の課題」が載せてある。その全てについて600～800字程度で考えをまとめておくこと。

授業回数別教育内容

- 1回 1930～45年における家庭教育政策① – 1930年代の施策の動向 –
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①pp.1-59
- 2回 1930～45年における家庭教育政策② – 1940年代前半における施策の動向 –
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①pp.98-143
- 3回 1930～45年における家庭教育政策③ – 政策を支える講座方式の家庭教育振興事業の動向 –
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①pp.144-176
- 4回 1930～45年における家庭教育政策④ – 小学校「母の会」の展開 –
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①pp.177-218
- 5回 1930～45年における家庭教育政策⑤ – 地域組織の統制の展開 –
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①pp.219-250
- 6回 1930～45年における家庭教育政策⑥ – 家庭教育振興政策の特質 –
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①pp.251-260
- 7回 非標準的な家庭経験
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.7-34
- 8回 分析の視点と調査概要
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.35-66
- 9回 家族構造をめぐる承認
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.67-106
- 10回 家族機能をめぐる承認
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.107-130
- 11回 承認獲得手段としての逸脱ネットワーク
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.131-162
- 12回 日本における非標準家庭の生徒を支える学校
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.163-202
- 13回 アメリカにおける非標準家庭の生徒を支える学校
 〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.203-254

14回 社会の周縁を生きるこどもたち

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト②pp.255-277

15回 まとめ

〈身につく資質・能力〉読解力、思考力、文書作成力 〈学習のポイント〉テキスト①②

- 試験 ○第1、第2課題についてレポートを提出し、内容が十分であると認められた者に科目終了試験の受験資格が与えられる。
○科目終了試験では、スタディ・ガイドに示した「学習と研究の課題」に対する受講生の取組みの成果を問う。
○科目終了試験は、合格するまで繰り返し受けることができる。合格した時点における試験の成績が、この科目の成績となる。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【800字以内】

スタディ・ガイド第1回～第6回の各回に載せてある「学習と研究の課題」の中から5題を選んで、各800字程度で答えてください。ただし、同じ回から2題選んではいけません。参考文献は字数に含みません。

〈書式等について〉

必ず最初に選んだ講義回、課題番号・題目を記入し、1行あけてから書き始めてください。題名は制限字数に含みません。課題ごとに頁を改め、書式は以下のように設定してください。必ず文末に使用テキストと参考文献名を記載してください。

*PC：A4版用紙 40字×30行に設定 横書き
手書きは不可

第2課題【800字以内】

スタディ・ガイド第7回～第15回の各回に載せてある「学習と研究の課題」の中から5題を選んで、各800字程度で答えてください。参考文献は字数に含みません。

〈書式等について〉

必ず最初に選んだ講義回、課題番号・題目を記入し、1行あけてから書き始めてください。題名は制限字数に含みません。課題ごとに頁を改め、書式は以下のように設定してください。必ず文末に使用テキストと参考文献名を記載してください。

*PC：A4版用紙 40字×30行に設定 横書き
手書きは不可

No.

Q021

育児相談特論

村田 カズ

領域

保育学

2 単位

通信

到達目標

最近、育児に悩む親が増えていることが懸念されている。子育てに対する不安は、親子関係を歪ませ、子どもたちの成長に影響を及ぼすばかりか、幼児虐待などにもつながっているとされている。

そこで、子育ての不安の実情や背景、家庭の変化、子どもたちの変化を捉えて、子どもたちの成長・親の子育てを支援していく方法としての育児相談事業、幼稚園や保育所の役割を理解し、保育者としての高度な実践力、研究者としての優れた研究能力を身に付ける。

基本文献

柏女霊峰『保育相談支援』（ミネルヴァ書房）

深谷昌志『育児不安の国際比較』（学文社）

内閣府等の白書、諸調査

評価の要点

次の視点から総合的に評価する。

- ・ 先行研究、諸調査を分析し、考察できる。
- ・ 育児不安の内容、実態を把握し、その原因等について説明できる。
- ・ 育児不安を解消するための国の施策等を概観し、支援の実態具体方法が説明できる。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・ 学習は、スタディガイドに沿って複数の文献を十分に読みこなし、学びを深めてください。
- ・ 課題の内容によっては、先行調査などを調べ、理論と具体の両面から把握してください。
- ・ 課題に対する用語の定義等を文献などで調べてください。
- ・ レポート作成は、シラバスに沿った学習に基づき、複数の文献を参考にしながら、課題を的確にとらえて、自分自身の考えをまとめてください。

レポート課題

提出数
2手書き
不可

⚠ 図表は字数外とすること

第1 課題【2400字以上】

育児不安の実態と背景について、諸調査を考察し、論じなさい。

第2 課題【2400字以上】

育児を支援するための方策と問題点について、国の施策や様々な具体的実践に触れながら論じなさい。

No.

Q023

保育課程特論

岡田 耕一

幼稚園、保育所の教育・保育内容の理解と保育実践についての学習・研究

領域

保育学

2 単位

通信

到達目標

- (1) 幼稚園の教育内容について深く学習・研究し、現在の幼稚園教育の諸問題について解決する能力を獲得する。
- (2) 保育所の保育内容について深く学習・研究し、現在の保育所保育の諸問題について解決する能力を獲得する。
- (3) 幼稚園の教育、保育所の保育と関連する現代的な問題について学習・研究し、解決する能力を獲得する。

学習成果

- (1) 幼稚園教育について詳細に説明することができ、幼稚園教育の現場で実践する能力が獲得できる。
- (2) 保育所保育について詳細に説明することができ、保育所保育の現場で実践する能力が獲得できる。
- (3) 学習成果を乳幼児教育に関わる諸問題の解決に応用することができる。

基本文献

- (1) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 平成30年
- (2) 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 平成30年

参考文献

参考書については、各授業で提示する。

評価の要点

- (1) 各回の授業において、学習・研究を確実にしたうえで、授業テーマについて自分の意見を明確に持つことが大切である。
- (2) 2回の課題レポート提出においても、(1)の内容を反映したレポートを書くように努めるようにする。
- (3) 終了試験においても、(1)の内容を反映した解答をするように努める。

評価方法と採点基準

- レポートでは、テーマに関わる内容を執筆したうえで、自分の意見を述べるように努めること。
- 終了試験は、原則として論述問題を2題程度出題する。出題テーマは、毎回の授業の「レポートテーマ」に関連した内容である。その場合、1題50点として採点するので、必ず2題とも解答すること。内容にふさわしい解答とともに、自分の意見を述べること。

履修上の注意事項や学習上の助言

- 通信教育であるために、各回の授業内容及び学習・研究方法などについて、比較的詳しく解説している。従って、内容をよく読んで、指示に従って学習・研究を進めること。
- 各回の授業では、テキストをベースにししながら、参考資料を掲載したり、参考文献を提示しているの、是非、活用すること。

授業回数別教育内容

- 1回 幼稚園教育要領の改訂
 - (1) 幼稚園教育要領の改訂の要点を理解する (2) 1954年版幼稚園教育要領と現在の幼稚園教育要領を比較する
 〈身につく資質・能力〉資料の比較・分析力 〈学習目安時間〉4時間程度
- 2回 保育要領の現代への翻案
 - (1) 保育要領「幼児の保育内容—楽しい幼児の経験」の12項目を理解し、どのように活かすことができるか考察する
 〈身につく資質・能力〉文献の理解と活用する能力 〈学習目安時間〉4時間程度
- 3回 乳児、1歳以上3歳未満児の発達と保育
 - (1) 乳児、1歳以上3歳未満児の発達について理解する (2) 発達に相応しい保育を考える
 〈身につく資質・能力〉保育能力 〈学習目安時間〉3時間程度
- 4回 3歳以上児の発達と保育
 - (1) 3歳以上児の発達について理解する (2) 発達に相応しい保育を考える
 〈身につく資質・能力〉保育能力 〈学習目安時間〉3時間程度
- 5回 幼稚園教育の内容理解
 - (1) 幼稚園教育の幾つかのキーワードをもとに、幼稚園教育の内容を理解する
 〈身につく資質・能力〉幼稚園教育を説明する能力 〈学習目安時間〉4時間程度
- 6回 保育所保育の内容理解
 - (1) 乳児保育の内容・方法を理解する (2) 1歳以上3歳未満児、3歳以上児の保育の内容・方法を理解する
 〈身につく資質・能力〉保育所保育を説明する能力 〈学習目安時間〉4時間程度
- 7回 子どもの遊びとその教育的意義
 - (1) 遊びを通しての総合的指導について深く追究する (2) 偉大な教育家の遊び論について学習・研究する

- 〈身につく資質・能力〉遊びを指導する能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 8回 カリキュラム・マネジメントと保育評価
 (1) 幼稚園教育のカリキュラム・マネジメントを理解する (2) 保育所保育のPDCAを理解する
 〈身につく資質・能力〉教育をマネジメントする能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 9回 モンテッソーリ教育の教育課程
 (1) 保育指針に示された生活習慣の指導について理解する (2) モンテッソーリ教育の日常生活の訓練について理解する
 〈身につく資質・能力〉保育理論を応用する能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 10回 倉橋惣三の教育理論
 (1) 倉橋の誘導保育論について理解する (2) 誘導保育論を現代の幼稚園教育にどのように活かすことができるか考察する
 〈身につく資質・能力〉保育理論を応用する能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 11回 倉橋惣三の理想とする「幼稚園の一日」
 (1) 倉橋の理想とする「幼稚園の一日」について理解する (2) 現在の幼稚園の一日の理想的な姿を考察する
 〈身につく資質・能力〉保育理論を応用する能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 12回 「応答的保育」による、普通の保育の見直し
 (1) 応答的保育について理解する (2) 応答的保育を普通の保育にどのように活かすか考察する
 〈身につく資質・能力〉保育理論を応用する能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 13回 幼稚園、保育所の子育て支援
 (1) 幼稚園、保育所それぞれの子育て支援について学習する (2) 両施設の子育て支援の特色について考察する
 〈身につく資質・能力〉子育て支援をする能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 14回 幼稚園、保育所以外で行われる子育て支援
 (1) 幼稚園、保育所以外の施設で行われる子育て支援を理解し、幼稚園、保育所との連携について考察する
 〈身につく資質・能力〉子育て支援をする能力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 15回 保護者との連携
 (1) 保護者との信頼関係づくりについて学習する (2) 保護者の苦情への対応について学習する
 〈身につく資質・能力〉保護者への対応力 〈予習目安時間〉4時間程度
- 試験 全15回の学習・研究成果を確認し、評価するために定期試験を実施する。試験は主に論述試験であり、各回のレポート課題に関連した内容を出題する。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字以内】

次の7題中1題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。

- 1 幼稚園教育要領の改訂の歴史を学んだ上で、幼稚園教育において変わらない、本質的なものは何か、述べなさい。
- 2 「保育要領」を読み、現在の幼稚園教育や保育所保育に参考となる内容について述べなさい。
- 3 乳児～3歳未満児の発達と保育について述べなさい。
- 4 3歳以上児の発達と保育について述べなさい。
- 5 幼稚園教育要領の「ねらい」「内容」「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を取り入れて、幼稚園教育の内容について説明しなさい。
- 6 乳児保育、1歳以上3歳未満児、3歳以上児の保育の内容の特色について述べなさい。
- 7 「遊びを通しての総合的指導」について述べなさい。教育要領解説の内容を踏まえながら、あなた自身の意見を述べてもかまわない。

第2課題【2400字以内】

次の8題中1題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。

- 1 カリキュラム・マネジメントについて述べなさい。
- 2 モンテッソーリ教育の日常生活の訓練を保育所保育や幼稚園教育にどのように活かすことができるか、述べなさい。
- 3 倉橋惣三の誘導保育論を現在の幼稚園教育にどのように活かすことができるか、述べなさい。
- 4 倉橋惣三の理想とする「幼稚園の一日」を現在の幼稚園教育にどのように活かすことができるか、述べなさい。
- 5 応答的保育に対するあなたの意見を述べなさい。
- 6 学習成果を踏まえて、これからの幼稚園、保育所の子育て支援の在り方について、あなたの意見を述べなさい。
- 7 学習成果を踏まえて、これからの地域における子育て支援の在り方について、あなたの意見を述べなさい。
- 8 保護者からのクレーム対応について述べなさい。

No.

Q027

障害児保育特論

腰川 一恵

領域

保育学

2 単位

通信

到達目標

特別な保育ニーズのある乳幼児に対する早期発達支援の体制、保育の現場での支援や配慮、保護者への支援を理解する。また、特別な保育ニーズのある乳幼児の発達評価や支援方法についても学び、特別な保育ニーズのある乳幼児の支援や連携、園内委員会や個別の指導計画について現状と課題を把握する。

基本文献

秦野悦子・山崎晃編『保育のなかでの臨床発達支援』（ミネルヴァ書房）2011年
七木田敦編『実践事例に基づく障害児保育－ちょっと気になる子へのかかわり－』（保育出版）2011年
渡部信一・本郷一夫・無藤隆編『障害児保育－保育の内容・方法を知る－』（北大路書房）2009年

評価の要点

レポートについては、課題で求められていることを的確にとらえることが重要。課題の内容に関して基本文献や参考文献を踏まえて基本的な内容が理解されているか、具体例も交えながら意見を的確にかつ論理的に述べているかについて評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

特別な保育ニーズのある乳幼児に関連する早期発達支援の体制、保育現場における現状と求められる専門性、発達支援や配慮について学習されることが必須となります。基本文献、他の参考文献を利用して、特別な保育ニーズのある乳幼児に関連する基本的な知識を得てください。現在、保育現場では特別な保育ニーズのある乳幼児への支援がどのように行われているのか、課題は何かという目的意識を持って文献を探して読まれる、現場に足を運ぶことも理解を深めることになるでしょう。

授業回数別教育内容

- 1回 特別な保育ニーズのある乳幼児とは
- 2回 地域における早期発達支援の制度
- 3回 気になる子の支援の現代的問題と支援の場
- 4回 保育現場の現状とその背景
- 5回 保育現場で子どもの発達をどうとらえるか
- 6回 保育現場で求められる発達支援の専門性
- 7回 保育支援における連携
- 8回 特別な保育ニーズのある乳幼児の言語発達と言語支援
- 9回 言語発達評価と診断の要点
- 10回 言語発達段階・場に即した対応
- 11回 言語発達評価と支援の実際
- 12回 気になる行動への支援の実際
- 13回 保護者の支援と連携
- 14回 小学校への接続とその課題
- 15回 特別な保育ニーズのある幼児に関する新たな方向

レポート課題

提出数
2手書き
不可

第1課題【2400字程度】

次の2題中1題を選択して、レポートしなさい。

- 1 障害の早期発見、早期支援システムの果たす役割と意義について考察しなさい。
- 2 保育所、幼稚園、認定こども園における特別な保育ニーズのある幼児の現状とその課題について考察しなさい。

第2課題【2400字程度】

次の2題中1題を選択して、レポートしなさい。

- 1 幼児期における言語発達の気になる子をどのような観点でアセスメントし、支援していくのかについて具体例を含めて論じなさい。
- 2 情動と行動の調整が困難な幼児を想定し、集団保育の中でどのように支援するのか、支援に当たって留意する点について論じなさい。

No.

Q007

幼児教育学特論

奥村 典子

領域

児童教育学

2 単位

通信

到達目標

戦後最大ともいえる幼児教育制度改革に直面している今日、求められているのは、質の高い専門性を持った研究者であり実践者、指導者である。本科目はこれまでの幼児教育の歴史、今日の課題そして未来を創造する力を持った研究・実践の力の習得を目標とする。

まず、レポート並びに試験のためには基本文献他、幼児期の教育に関する諸文献にあたり、現在の教育目標、計画、指導の実際、保護者の実態等を具体的に学習することが望ましい。

評価の要点

レポート課題、並びに科目終了試験において次の2点から評価する。

- ① 論述の姿勢が、研究的であり論旨が的確であるか。
- ② 現場において指導する知見が述べられているか。

基本文献

藤田輝夫『育てる幼児教育』（大空社）
岩田純一・河嶋喜矩子『新しい幼児教育を学ぶ人のために』（世界思想社）
本田和子『子どもが忌避される時代』（新曜社）
民秋言（他）『幼稚園教育要項・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要項の成立と変遷』（萌文書林）2017

参考文献

竹内通夫『戦後幼児教育問題史』（風媒社）2011

レポート課題

提出数
2手書き
不可

第1課題【2400字以内】

幼児期の教育は、幼児期の特性を踏まえ『環境を通して行うものである』ことを基本とするとありますが、特性を具体的に挙げ、それはどういふことか述べなさい。

第2課題【①④各1200字以内か②2000字以内(①か②のいずれか選択)】

下記の2つの課題のいずれかについて述べなさい。

- ① 幼児期にふさわしい、④主体的な活動が展開されるためには、どのような条件と状態が保障されることが必要か。④又、『協同性』ということが新しい改訂で加えられているが、その根拠を述べなさい。
- ② 遊びを通して『発達を総合的に』達成するようになるとは、どういうことか。総合性ということに焦点をあて、遊び、生活場面の具体例を挙げて述べなさい。

No.

Q004

児童教育史特論

山崎 奈々絵

領域

児童教育学

2 単位

通信

到達目標

歴史的に見れば、一部を除いては、社会的弱者の立場におかれた子どもにとって、人間の社会は必ずしも居心地の良いものではなく、その歴史は受難の歴史でもあった。ここでは、主として子どもが大人に対して固有の価値を認められる存在になる近代以降の時期を対象にして、特に公教育の整備の歩みをふまえながら子どもの存在と子どもを教育する事の意義を歴史的な視点から考察する。

17世紀後半の英国の経験主義の「教育論」、18世紀後半のルソーの「エミール」、それにフレーベル、デューイ、モンテッソーリの教育論等を通して子どもが中心となる教育学の歴史的意義を検討する。

基本文献

デューイ『民主主義と教育（上）』（岩波文庫）

デューイ『民主主義と教育（下）』（岩波文庫）

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【各1400字～1600字程度×2題】

4題中2題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。文末に必ず参考文献を明記すること。参考文献は字数に含まないものとします。

- 1 コメニウスが『大教授学』を書いて解決しようとした課題は何であったか、考察しなさい。
- 2 ルソーの『エミール』前後のヨーロッパにおける子ども観について考察しなさい。
- 3 江戸時代の寺子屋の普及の理由について考察しなさい。
- 4 「教育勅語」の発布とその影響について述べなさい。

第2課題【各1400字～1600字程度×2題】

4題中2題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。文末に必ず参考文献を明記すること。参考文献は字数に含まないものとします。

- 1 フレーベルの子ども観について説明しなさい。
- 2 モンテッソーリ教具の種類と構成、および「子どもの家」における教育法を整理して述べなさい。
- 3 日本の小学校の義務制が確立していく過程を説明しなさい。
- 4 デューイの『学校と社会』における子ども観について考察しなさい。

No.

Q005

児童教育社会学演習

石黒 万里子

子ども・学校・教師を社会的に考える

領域

2 単位

通信

面接

児童教育学

到達目標

私たちの身近に見られる教育事象について、社会的な視点から把握できるようになることを目指す授業である。到達目標は以下の通りである。

1. 教育に関する質的・量的な実証データを読み解くことができる。
2. 様々な教育事象について、地域的・歴史的・文化的視点から説明できる。

学習成果

1. 児童をめぐる教育事象について、エビデンスをふまえて理解することができる。
2. 様々な教育事象について、多角的な視野から説明することができる。

基本文献

飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』（ミネルヴァ書房）2018

参考文献

高橋均編『想像力を拓く教育社会学』（東洋館）2019

評価の要点

1. 通信授業では、課題が求めているものを正確に把握し、それに応じた文章を書くことができる。
2. 解答となるレポート内容を適切に構成し、論理的な文章で記述し、出典記載についても適切に書くことができる。
3. 面接授業では発表を適切にまとめ、伝えることができる。

評価方法と採点基準

課題に応じた解答となっているか、文章は論理的か、出典は適切に記載されているかなどの観点から総合的に評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

レポートでは文献を適切に引用してください。
面接授業では積極的に発言してください。

授業回数別教育内容

- 1回 教育社会学とはなにか
〈身につく資質・能力〉教育社会学の基本的視座 〈学習のポイント〉基本文献第1章
- 2回 教師・児童生徒・カリキュラム
〈身につく資質・能力〉教師・児童生徒・カリキュラムについて理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第2章
- 3回 教育機会と進路選択
〈身につく資質・能力〉教育機会の偏在について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第3章
- 4回 高等教育
〈身につく資質・能力〉高等教育の課題について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第4章
- 5回 学業世界と職業世界
〈身につく資質・能力〉学校から職業への移行のあり方について検討する力 〈学習のポイント〉基本文献第5章
- 6回 市民社会と学校教育の課題
〈身につく資質・能力〉国民国家、市民社会と学校との関係について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第6章
- 7回 マイノリティから見た学校空間
〈身につく資質・能力〉マイノリティ、マジョリティにとっての学校について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第7章
- 8回 8回以上は面接授業となる。
ジェンダーと学校教育
〈身につく資質・能力〉ジェンダーと学校教育について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第8章
- 9回 子どもの問題の現在
〈身につく資質・能力〉子どもの問題について社会的背景から理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第9章
- 10回 学校という空間と社会
〈身につく資質・能力〉学校空間の特性について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第10章
- 11回 家族のあり方と学校制度のかかわり
〈身につく資質・能力〉家族と学校のかかわりについて理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第11章

- 12回 子どものメディア利用とそのゆくえ
〈身につく資質・能力〉子どもとメディアのかかわりについて理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第12章
- 13回 教育社会学の課題と展望
〈身につく資質・能力〉教育社会学の展開について理解する力 〈学習のポイント〉基本文献第13章
- 14回 教育をめぐる最新事情について教育社会学の見地から考える
〈身につく資質・能力〉教育的課題について教育社会学の見地から考える力 〈学習のポイント〉予習・復習 各30分
- 15回 授業を通して学んだこと、考えたことを課題としてまとめる
〈身につく資質・能力〉教育的課題について教育社会学の見地から発表する力 〈学習のポイント〉予習・復習 各30分

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

第1課題【各2000字程度】

下記の問題1・2・3に解答しなさい。引用した場合は出典を、著者・書名・出版社・出版年・引用ページの順に記すこと。

- 1 高度経済成長期までと比べて、1980年代以降の子どもたちの生活はどのように変わったか、データにもとづいて説明しなさい。
- 2 1970年代半ばあたりを境にして、日本の学校に期待されてきた社会的機能に変化が見られます。それは具体的にはどのようなものですか。
- 3 戦後日本における教職への社会のまなざしの変貌についてデータをもとに説明しなさい。

No.

Q006

比較児童教育学特論

森 貞美

日本と世界の教育を比較する。

領域

児童教育学

2 単位

通信

到達目標

- (1)目的：比較教育学の目的と研究方法について理解し、グローバルな視点から日本を含む諸外国の教育の実態と改革の方向性を比較・考察する。
 (2)到達目標：
 ①比較教育学の目的と比較の視点および研究方法について理解する。
 ②日本と世界各国の教育を比較・検討し、その類似点と相違点、教育改革の動向について理解する。
 ③グローバルな教育交流による各国の教育への影響および課題について理解する。
 ④比較の視点から日本の教育について深く理解し、示唆点を得ることができる。

学習成果

- ①比較教育学の目的と比較の視点を学び、研究方法を身に付け、教育研究の探求能力が高まる。
 ②世界各国の教育制度、学校教育・就学前教育について理解し、その特徴を述べることができる。
 ③世界各国の教育改革の動向について理解し、その背景にある社会的・文化的諸要因について分析を行い、総合的・複合的な視点から教育現象を捉えることができる。
 ④国際的な教育交流や協力が各国の教育に与える影響について理解し、その成果及び課題について分析することができる。
 ⑤世界各国と日本の教育について比較し、日本の教育の特色および教育課題について考察できる。

基本文献

二宮皓編著『新版 世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで』（学事出版）2014年

参考文献

泉千勢編著『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか』（ミネルヴァ書房）2017年
 杉本均・南部広孝著『比較教育学原論』（協同出版）2019年

評価の要点

- ①諸外国の教育の実態と課題について相互間あるいは日本との比較で説明できる。
 ②諸外国の教育改革の動向とその成果・課題について相互間あるいは日本との比較で説明できる。
 ③諸外国の教育を比較分析する枠組みや観点を習得し活用できる。

評価方法と採点基準

1. 評価方法
 レポートの添削過程での学習成果の判定と科目終了試験の結果に基づいて総合的に評価する。
 2. 採点基準
 ①レポート課題探求にあたって、どれほどの先行研究や参考文献を熟読し活用しているか。
 ②レポート課題および科目終了試験において、学術用語の探索及び理解がなされ活用されているか。
 ③レポートおよび科目終了試験が小論文として論理的に構成され、論文文章として記述されているか。

履修上の注意事項や学習上の助言

1. 大学院の通信教育における「レポート」は、学術論文としての体裁と内容を備えることが求められる。
 2. 「レポート」作成、提出にあたっては、課題分野に関わる主な先行研究や関連文献を可能な限り多数収集して熟読し、先行研究の集約・総括を紹介し、それをふまえた独自の分析・考察が主な論旨になるよう留意する。
 3. 必読の参考文献としては
 長島啓記編著『基礎から学ぶ比較教育学』（学文社）2014年
 文部科学省『諸外国の教育動向2019年度版』（明石書店）2020年
 文部科学省『諸外国の初等中等教育』（明石書店）2016年
 アンドレアス・シュライヒャー著『デジタル時代に向けた幼児教育・保育－人生初期の学びと育ちを支援する』（明石書店）2020

授業回数別教育内容

- 1回 グローバル化する世界の学校を旅する（世界の学校類型と比較教育学の視点の検討）
 〈身につく資質・能力〉比較教育文化論の視点の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト序章・関連資料の熟読
 2回 「半日制」の伝統をもつ学校－ドイツ（ドイツの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
 〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト1章・関連資料の熟読
 3回 親と一緒に登校する学校－フランス（フランスの教育制度・学校文化・教育改革の検討）

- 〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト2章・関連資料の熟読
- 4回 高い学力と平等性を誇る学校－フィンランド（フィンランドの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト3章・関連資料の熟読
- 5回 大国ロシアの発展を支える学校－ロシア（ロシアの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト6章・関連資料の熟読
- 6回 「世界の工場」から「世界の市場」へと変貌する学校－中国（中国の教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト8章・関連資料の熟読
- 7回 伝統と急進が混在する学校－イギリス（イギリスと教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト10章・関連資料の熟読
- 8回 多文化社会を標榜する学校－オーストラリア（オーストラリアの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト11章・関連資料の熟読
- 9回 忠誠宣言とスクールバスがある学校－アメリカ（アメリカの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト12章・関連資料の熟読
- 10回 強靱な学力を鍛え上げる学校－シンガポール（シンガポールの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト13章・関連資料の熟読
- 11回 「インド式教育」で魅力を高める学校－インド（インドの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト14章・関連資料の熟読
- 12回 イスラムの教えを映す成長著しい国の学校－マレーシア・ブルネイ（マレーシアの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト15章・関連資料の熟読
- 13回 教育・IT先進国を目指す学校－韓国（韓国の教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト19章・関連資料の熟読
- 14回 グローバル化時代を生き抜く人材の育成学校－タイ（タイの教育制度・学校文化・教育改革の検討）
〈身につく資質・能力〉教育制度・学校文化の理解 〈学習範囲等予習目安時間〉テキスト20章・関連資料の熟読
- 15回 日本の学校のあり方について（これまでの学習を踏まえ、今後の日本の教育について考える。）
〈身につく資質・能力〉教育の比較検討 〈学習範囲等予習目安時間〉授業内容の総復習
- 試験 学習した内容に基づき、レポート課題を作成する。レポート課題に合格した後、科目終了試験を受験する。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【3600字程度】

4設題中1題を選択してください。レポートは3,600字程度で作成してください。また、参考文献を三つ以上熟読し、文末に参考文献リストを明記してください（文字数に含めない）。

- 1 二つの国を取り上げ、就学前教育の制度および教育内容、教育の特徴について比較検討して下さい。
- 2 二つの国を取り上げ、初等・中等教育の制度および教育内容、教育の特徴について比較検討して下さい。
- 3 二つの国を取り上げ、教育改革の特徴および社会文化的背景について比較検討して下さい。
- 4 二つの国を取り上げ、児童生徒の学力の実態と学力向上のための取り組みについて比較検討して下さい。

第2課題【3600字程度】

4設題中1題を選択してください。レポートは3,600字程度で作成してください。また、参考文献を三つ以上熟読し、文末に参考文献リストを明記してください（文字数に含めない）。

- 1 二つの国を取り上げ、教員養成の状況および教員養成改革について比較検討して下さい。
- 2 二つの国を取り上げ、教育の質保証のための取り組みと改革の方向性について比較検討して下さい。
- 3 二つの国を取り上げ、多文化背景を持つ子どもの実態と多文化教育の取り組みについて比較検討して下さい。
- 4 二つの国を取り上げ、教育格差の実態と教育の機会均等を目指す取り組みについて比較検討して下さい。

No.

Q049

生涯学習特論

長江 曜子

領域

児童教育学

2 単位

通信

到達目標

21世紀の日本は、少子高齢社会の中、子どもから高齢者が生涯に渡って学び続ける事が求められる社会に急激に変化して来ている。特に、戦後生まれの団塊の世代（800万人）が65歳以上の人口に突入、全人口に占める高齢者の割合は、26.5%で世界一となった。生涯学習は、子どもから高齢者まで生涯に渡り①自己を磨き・充実②生活の豊かさ③職業能力・技術開発と向上が3本柱の生涯学習に対する理解を深めることを目標とする。

学習成果

生涯学習は、家庭教育・学校教育・社会教育すべてに関わる「人間形成」の基本的な学習である。そして、失われつつある地域再生や、まちづくりにも関わる、産官学民の「連携」と地域創生力であることに気づくとともに、単なる座学でなく、企画・立案・実践、コーディネーター力を身につけることを学習の成果とする。

基本文献

香川正弘・鈴木真理・永井健夫編『よくわかる生涯学習 改訂版』（ミネルヴァ書房）

評価の要点

レポート課題に沿ってレポートを作成し、試験に合格すること。

評価方法と採点基準

レポート提出と科目終了試験で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

基本文献（教科書）の内容をよく理解すること。

基本文献をよく理解した上で、身近な生涯学習の事例を調査・研究し、レポート課題に取り組むこと。

授業回数別教育内容

- 1回 生涯学習とは何か？
〈身につく資質・能力〉生涯学習の概念を理解
- 2回 生涯にわたる人間形成とは？
〈身につく資質・能力〉子どもから高齢者を含む生涯学習を理解
- 3回 生涯学習を支える思想について学ぶ
〈身につく資質・能力〉生涯学習の歴史の変遷を理解
- 4回 生涯学習の現代的課題について学ぶ
〈身につく資質・能力〉現代的課題について理解
- 5回 生涯学習の多様な学習方法について学ぶ
〈身につく資質・能力〉通信教育・eラーニング等の理解
- 6回 行政による生涯学習の振興策について学ぶ
〈身につく資質・能力〉国の法律・区市町村の条例の理解
- 7回 民間団体・機関による生涯学習支援とは？
〈身につく資質・能力〉指定管理者制度等の理解
- 8回 生涯学習支援としての大学開放とは？
〈身につく資質・能力〉大学の公開講座・生涯学習の理解
- 9回 生涯学習にかかわる人的支援の仕方とは？
〈身につく資質・能力〉生涯学習の企画・運営を知る
- 10回 施設に基づいた生涯学習活動について学ぶ
〈身につく資質・能力〉公民館・図書館・児童館等の活動の理解
- 11回 職業能力開発の生涯学習について学ぶ
〈身につく資質・能力〉第3の柱、各年齢層の職業教育を理解
- 12回 伝統として息づく日本の生涯学習とは？
〈身につく資質・能力〉青年学級・子ども会、まちづくり、NPO活動の理解
- 13回 諸外国の生涯学習の成り立ち・現状・課題とは？
〈身につく資質・能力〉欧米・アジア等の生涯学習を理解
- 14回 身近なまちの生涯学習について調査研究する
〈身につく資質・能力〉自分の地域における生涯学習について理解

15回 大学の生涯学習の取り組みについて調査研究する
〈身につく資質・能力〉大学の生涯学習の取り組みを研究できる力

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2000字～2400字】

- 1 大学における生涯学習の取り組みについて、地域連携・社会貢献の視点から分析して述べなさい。
(大学を二つ選び比較検討すること。)

第2課題【2000字～2400字】

- 1 幼児教育における、生涯学習の必要性について述べなさい。
(学校教育・家庭教育・社会教育の関わりを明確にして論じること。)

No.

Q008

生徒指導・進路指導

石川 満佐育

領域

児童教育学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（8. 進路指導・教育相談領域）です。

2 単位

通信

授業概要

学校における生徒指導・進路指導について、基礎的な内容を全般的に取り上げる。生徒指導は、児童・生徒の自己実現の基盤を形成するものであり、個々の社会的な適応上の課題の解決を援助する教育活動である。個と集団の両面から児童・生徒の健全な成長発達を促すために、教師が携えていなくてはならない理論と方法について学習することを通して、児童・生徒への援助者としての役割を具現化できるよう学んでいただきたい。

到達目標

- (1) 教育課程における生徒指導の位置付け、意義について説明できる。
- (2) すべての児童生徒を対象とした日々の生徒指導の具体的方法について例示することができる。
- (3) 教育課程におけるキャリア教育の位置付け、意義について説明できる。
- (4) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の指導の在り方を例示することができる。

基本文献

文部科学省『生徒指導提要』2010（インターネットからダウンロード可能）

文部科学省「生徒指導提要」（改訂版）2022（インターネットからダウンロード可能）

※2022年12月に文部科学省は生徒指導提要を全面的に改訂しています。2023年度は移行期と考え、旧版（2010のもの）からシラバスを構成していますが、2024年度から改訂版（2022）を基にシラバス等を全面的に改変いたしますことご承知おきください。レポート等を作成する際は改訂版も参考にいただければと思います。

評価の要点

レポート課題の評価の観点

- ①留意すべき点について、レポート作成者（以下：作成者）自身の考えが3点述べられているか
- ②3点それぞれに具体例が示されているか
- ③作成者自身の考え、主張を裏付けるために引用を用いて論じているか
- ④生徒指導、キャリア教育の意義について述べられているか
- ⑤現代社会における学校・子どもを取り巻く環境についての課題に基づいて留意すべき点が述べられているか
- ⑥必要に応じて、生徒指導、キャリア教育に関する近年の国の動向（法令、施策、答申など）に基づいて、作成者の考えが述べられているか
- ⑦課題に対して論旨が論理的に述べられているか
- ⑧文章や表現が的確・適切で、誤字脱字がないか、体裁は整っているか
- ⑨引用文献リストは作成されているか

科目終了試験

第1回から第15回までの学習・研究の課題の成果及びレポート課題が活用されるよう考慮した問題を出題する。

履修上の注意事項や学習上の助言

●スタディガイドについて

生徒指導、進路指導に関連する国の施策、出版物、データ等は、スタディガイド作成時から更新、改訂されているものがあります（例えば、学習指導要領、問題行動・不登校調査など）。各自インターネット等で必ず最新の動向を押さえるようにしてください（レポート作成時と同様）。

●レポート課題における留意事項

課題1、課題2ともに、ある程度自由に論じることが可能なテーマを設定しています。自由に論じる内容ではありませんが、それぞれ、条件（課題内下線）が示されているので、その条件をいったレポートを作成してください。その条件を検討することで、生徒指導、キャリア教育に関する理解が深まると考えています。したがって、条件を検討する際には、複数の文献を参照する必要がある点に留意してください。

また、レポートを作成する際には、以下の点を必ず順守してください。

※具体例を示す際は、作成者が想定している立場（学校段階、職種など）を明確にして論じてください。

※引用文献リストは必ず作成してください（インターネットの情報も含む）。引用の記載方法、引用文献リストの作成方法は、作成者自身の研究領域の書式に従って記載してください。研究領域が不明確な場合は、「心理学研究 2015年改訂版執筆・投稿の手引き」（pp.31-32、pp.38-40）を参考に作成してください。

●科目終了試験における学習上の助言

スタディガイドにおける各回の重要語句、学習課題について確認しておくようにしてください。

授業回数別教育内容

- 第1回 生徒指導の意義と原理
- 第2回 教育課程と生徒指導
- 第3回 児童・生徒の発達と児童・生徒理解①
- 第4回 児童・生徒の発達と児童・生徒理解②
- 第5回 学校における生徒指導体制
- 第6回 教育相談
- 第7回 生徒指導の進め方
- 第8回 学校心理学の観点からみた教育相談・生徒指導
- 第9回 個別の課題を抱える児童生徒への指導
- 第10回 生徒指導に関する法制度等
- 第11回 学校と家庭・地域・関係機関との連携
- 第12回 キャリア教育の意義と必要性
- 第13回 キャリア教育の前史
- 第14回 キャリア教育推進施策
- 第15回 キャリア教育実践を支える基礎理論

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2500字程度(引用文献リストは文字数に含めない)】

教職員がすべての児童生徒を対象とした日々の生徒指導を行う際に、留意すべき点を、あなたの考えに基づいて3点、具体例を示しながら論じてください。その際、現代社会における学校・子どもを取り巻く環境についての課題、生徒指導の意義(役割、原理、機能など)、生徒指導に関する近年の国の動向等をふまえながら論じてください。

第2課題【2500字程度(引用文献リストは文字数に含めない)】

系統的・組織的にキャリア教育を推進するために、学校、教職員が留意すべき点を、あなたの考えに基づいて3点、具体例を示しながら論じてください。その際、現代社会における学校・子どもを取り巻く環境についての課題、キャリア教育の意義、キャリア教育に関する近年の国の動向等をふまえながら論じてください。

No.

Q009

生徒指導・進路指導演習

石川 満佐育

領域

2 単位

通信

面接

児童教育学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（2. 学校カウンセリング・コンサルテーション基礎実習領域）です。

授業概要

学校現場では生徒指導・進路指導に関する課題への対応が求められている。Q008「生徒指導・進路指導」では主に生徒指導・進路指導の理論的な学習が中心であったが、Q009「生徒指導・進路指導演習」では、生徒指導・進路指導上の課題の理解、ならびに、その支援方法に焦点をあてる。事前課題では、生徒指導・進路指導上の課題の現状の理解、ならびに、基本的な支援方法の理解を目指す。スクーリングでは、事例検討及びカウンセリングの技法を取り入れた体験的な学習を通して、支援場面における状況の的確な把握と児童生徒理解に基づいた実践的な方法について、多面的に学ぶ。

到達目標

- (1) 生徒指導上の諸課題についての現状について説明できる。
- (2) 校内外の連携（＝チーム支援）の在り方について説明できる。
- (3) 事例における見立てについて、自身の考えを示すことができる。
- (4) 事例における具体的な支援方法について、自身の考えを示すことができる。

基本文献

文部科学省『生徒指導提要』2010（インターネットからダウンロード可能）

文部科学省「生徒指導提要」（改訂版）2022（インターネットからダウンロード可能）

※2022年12月に文部科学省は生徒指導提要を全面的に改訂しています。2023年度は移行期と考え、旧版（2010のもの）からシラバスを構成していますが、2024年度から改訂版（2022）を基にシラバス等を全面的に改変いたしますことご承知おきください。レポート等を作成する際は改訂版も参考にさせていただければと思います。

評価の要点

レポート課題の評価の観点

- ①取り上げた生徒指導上の諸課題について、最新のデータ等に基づいて説明されているか
- ②取り上げた生徒指導上の諸課題について、適切な文献等を用いて近年の現状、特徴、背景について説明されているか
- ③取り上げた生徒指導上の諸課題の解決、軽減のために、「集団への指導」と「個別への指導」のそれぞれの点から、適切で具体的な実践が述べられているか。
- ④実践の妥当性を裏付けるために適切な引用が用いられているか。
- ⑤課題に対して論旨が論理的に述べられているか
- ⑥文章や表現が的確・適切で、誤字脱字がないか、体裁は整っているか
- ⑦引用文献リストは作成されているか

履修上の注意事項や学習上の助言

●Q008「生徒指導・進路指導」との関係

本科目の前にQ008を履修していくことが望ましいですが、必須とはしません。Q009を先に履修していただいても結構です。

●スタディガイドについて

生徒指導、進路指導に関連する国の施策、出版物、データ等は、スタディガイド作成時から更新、改訂されているものがあります（例えば、学習指導要領、問題行動・不登校調査など）。各自インターネット等で必ず最新の動向を押さえるようにしてください（レポート作成時と同様）。

●レポート課題における留意事項

※引用文献リストは必ず作成してください（インターネットの情報も含む）。引用の記載方法、引用文献リストの作成方法は、作成者自身の研究領域の書式に従って記載してください。研究領域が不明確な場合は、「心理学研究 2015年改訂版執筆・投稿の手引き」（pp31-32、pp.38-40）を参考に作成してください。

●スクーリング

事前学習に取り組んだ上で、受講すること。事例検討を中心とした演習を行います。

授業回数別教育内容

- 第1回 個別の課題を抱える児童生徒への指導、チーム支援
- 第2回 発達に関する課題と対応①
- 第3回 発達に関する課題と対応②
- 第4回 喫煙、飲酒、薬物乱用/少年非行/家出

- 第5回 暴力行為
- 第6回 いじめ①
- 第7回 いじめ②
- 第8回 インターネット・携帯電話にかかわる課題
- 第9回 性に関する課題、命の教育と自殺の防止
- 第10回 児童虐待への対応
- 第11回 不登校/中途退学①
- 第12回 不登校/中途退学②
- 第13回 キャリア教育実践の在り方
- 第14回 小・中・高におけるキャリア教育実践の在り方
- 第15回 一人一人のキャリア発達を支援するキャリア教育実践の在り方

レポート課題

提出数
1手書き
不可

第1課題【①1000～1500字程度、②1500～2000字程度(引用文献リストは文字数に含めない)】

- ① 学校現場における生徒指導上の諸課題の中(教育内容第2回～第12回)から1つ取り上げ、その諸問題の現状、特徴および背景等について説明してください。その際、可能な限り最新のデータを引用しながら述べてください(インターネット上の資料についても引用文献リストに記載すること)。
- ② ①で取り上げた諸課題の解決、軽減のために、あなたが支援者としてどのような実践ができるか、「集団への指導」と「個別への指導」のそれぞれの点から具体的に述べてください。その際、指導の対象学年、あなたの支援者としての役割(例:教師、スクールカウンセラー、保護者、地域の大人など)を明確にして述べてください。(インターネット上の資料についても引用文献リストに記載すること)。

No.

Q011

児童発達学特論（I）

齋藤 有

乳幼児、児童の発達とその理解

領域

2 単位

通信

児童心理学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（3. 発達心理学領域－乳幼児・児童期）です。

到達目標

児童期までの発達心理学の基本的な理論や用語などを正確に理解した上で、児童心理学領域の専門知識を習得する。
また、その知識をもとに教育や保育の問題に関連づけることができ、児童について多角的に考察できる。

学習成果

1. 発達心理学の理論や用語を理解しており、それらについて説明ができる。
2. 教育や保育の現場の子どもの行動を、発達心理学的な視点で分析することができる。

基本文献

高橋・藤崎・仲・野田『子どもの発達心理学』（新曜社）1993

評価の要点

スタディガイドや参考文献をよく読み、発達理論や用語を理解しているかを問う。

評価方法と採点基準

選択式のレポートはA、B、C、D（不合格）の4段階で評価する。Aは8割以上、Bは7割以上、Cは6割以上の正答数とする。
試験は理解度に応じてS、A、B、C、D（不合格）の5段階で評価する。総得点に対する同上の割合を評価の基準とする。Sは9割以上。

履修上の注意事項や学習上の助言

スタディガイドだけでなく、各テーマに応じた参考文献をすべて読みこなしてください。自分の経験やインターネットの記事をもとに回答するのではなく、専門家の書いた教科書を複数読むことが大切です。

授業回数別教育内容

- 1回 発達の定義と発達の規定因 発達を規定する遺伝や環境要因との関連や初期経験について理解する。
〈身につく資質・能力〉発達の規定要因に関する理論の理解
- 2回 乳児の世界認識 乳児の知覚や認知の発達とそれに関する様々な実験について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉乳児期の知覚や認知の理解
- 3回 愛着の形成 愛着を形成する意味について理解する。
〈身につく資質・能力〉愛着の意味の理解
- 4回 乳幼児の言語発達 言語発達のプロセスとそれに関する理論を学ぶ。
〈身につく資質・能力〉言語発達についての理解
- 5回 幼児の認知発達 主にピアジェの発達理論にもとづき、幼児期の認知発達を学ぶ。
〈身につく資質・能力〉幼児の認知発達を理解
- 6回 遊びの発達 幼児期の遊びの役割と遊びを通じた仲間関係について学ぶ
〈身につく資質・能力〉遊びの意味についての理解
- 7回 自己意識の発達 乳児から幼児にかけての自己意識の発達を学ぶ。
〈身につく資質・能力〉自己意識の発達についての理解
- 8回 思考と記憶の発達 児童期の認知発達と乳幼児期から児童期に至るまでの記憶について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉児童期の認知発達についての理解
- 9回 道徳性の発達 幼児期から児童期にかけての道徳性判断について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉道徳性の発達を理解
- 10回 性役割の発達 幼児期から児童期にかけての性役割の発達について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉性役割の発達を理解
- 11回 パーソナリティの発達 パーソナリティを測る方法やその規定要因について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉パーソナリティ形成に関連する要因の理解
- 12回 子どもとメディア 子どもを囲むメディアと発達への影響について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉メディアの影響についての理解
- 13回 ピアジェの認知発達理論とピアジェ以降 ピアジェ以後の発達理論について学ぶ。
〈身につく資質・能力〉近年の発達理論の動向についての理解
- 14回 エリクソンの心理社会的発達理論
〈身につく資質・能力〉エリクソンの理論の理解
- 15回 人間発達の可塑性 虐待を受けた子どもたちの例から人間発達の可塑性について考える。

〈身につく資質・能力〉人間の発達の可塑性の理解

試験 評価の要点に基づき、試験を行う。

レポート課題

巻末
解答用紙

提出数
2

第1 課題

問1. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① 人間は生まれながらに環境に対する独特の反応様式をもっており、これを気質という。
- ② 乳幼児期に母親の世話と愛情が剥夺されると温かみのない性格が形成されるという説があるが、現在これを証明する証拠は得られていない。
- ③ 1卵生双生児は遺伝的要因が全く同一なので、この2人に差がみられる場合、環境要因の影響とみなすことができる。
- ④ 双生児研究からわかる知能の遺伝率は、年齢とともに環境の影響を受けるため、低くなる。
- ⑤ ボウルビイによると、愛着が形成されるなかで内的表象モデルが形成されると考えられている。

問2. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① 子どもは、日常の文脈やなじみのある状況ではかなり困難な課題でも解決できる。
- ② コールバーグによれば、性の恒常性の獲得はピアジェのいう保存概念の獲得と関連している。
- ③ ピアジェによれば、各発達段階の子どもの思考は質的に異なるものである。
- ④ 発達段階説とは異なり、領域により発達のしかたは異なるという考えかたを領域固有の発達論とよぶ。
- ⑤ ピアジェ理論では、具体的操作期の理論モデルは束群、形式操作期では群生体と呼ばれる。

問3. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① レディネスとは、子どもがある教育を受けるためにそれを可能とするような発達の、能力的、経験的な準備状態のことである。
- ② 最近接領域とは、子どもが独力で解決できる水準と他者の援助があれば解決できる水準の間のことである。
- ③ ハヴィガーストは、発達課題は身体的成熟、社会の文化的圧力、親の価値観を基本的要因として学習によって形成されるものと考えた。
- ④ ヴィゴツキー理論の特徴は、人間の発達において歴史的・社会的な環境を重視した点にある。
- ⑤ ポルトマンによると人間は二次的の就業性である。

問4. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① ピアジェによれば、規則の認識は他律的なものから自律的なものへと変化する。
- ② ピアジェによれば道徳判断は、動機論的判断から結果的判断へ移行する。
- ③ 精神分析理論では、「超自我」が本能的な衝動を禁止したり、すべきことをしたりするような道徳的な機能をもつものとされる。
- ④ 社会的学習理論では、よい行動に対する強化だけでなく、モデルの観察によって道徳的な行動が獲得されると考える。
- ⑤ コールバーグは、道徳性の発達を6段階に分類した。

問5. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① 子どもの筋力は、小学校中学年までは男女差があまりみられないが、高学年になると性ホルモンのために男子が女子の筋力を上回るようになる。
- ② 児童期では、友人との比較によって客観的な自己概念をもつようになる。
- ③ 一般に、小学校5,6年生ころに、最も重要な他者が親から友人に変わっていく。
- ④ 小学校の中学年にみられるギャング集団は、基本的に同性から成る集団である。
- ⑤ 「10歳の壁」とは、抽象的思考から具体的思考へ移行する段階でおこるつまずきともいえる。

問6. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① 具体的操作期に入るところになると、記憶する際に符号化方略をとる傾向がみられる。
- ② 6歳から10歳くらいの間に比較語(「多い」「小さい」)の理解が変化し、年長者は比較語を絶対的に用いる傾向が強い。
- ③ 宣言的知識とは、「～は～である」という命題で定義できる知識のことで、一般的な意味の知識や概念のことをさす。
- ④ 物には階層構造に応じて他の物との関連でさまざまな名称があることを理解できるのは小学校中学年以降である。
- ⑤ 論理的な思考ができるようになるという意味で、形式的操作期の子どもの思考は成人とほぼ同じといえる。

問7. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① 乳児とのかかわりにおいて、父親は母親と比べ身体的な遊びや手荒な遊びを好む傾向があり、子どもも父親に抱かれると積極的な反応を示す。
- ② 精神分析によると幼児期に男児はエディプスコンプレックスを抱き、それが父親との同一視を導き、父親の行動や考えかたを身につけるようになる。と考える。
- ③ 近年の研究では、父親自身の自我同一性の発達は、子どもや妻とのコミュニケーションと家事への参加と相関があると報告されている。
- ④ サイモンズは親の養育態度を支配一服従、拒否一保護の2つの次元を取り出し、かまひすぎ型、残忍型、甘やかしすぎ型・無視型の4つの型を設定した。
- ⑤ ブルーナーの相乗的相互作用モデルによると、子どもの発達には、親から子だけでなく子ども自身の親への動きかけも重要だと考える。

問8. つぎの①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるものを一つ**選びなさい。

- ① 愛他行動とは、報酬を期待することなしに他人のためになることをしようとする行動である。
- ② 向社会的行動の定義は研究者によってまちまちだが、感情レベル、内的過程レベル、行動レベルのどの側面でもらえるかによって異なる。
- ③ クラスの社会的地位は子どもの行動特徴と関係しており、一般に無口で引っ込み思案な子どもは無視され、攻撃的、自分勝手な子どもは嫌われがちである。
- ④ 向社会的行動は年齢とともに増加するが、この背景には、視点取得能力の増加と共感とが関連が深いといわれている。
- ⑤ アイゼンバーグは、コールバーグが罪や罰のような禁止された道徳性の側面に焦点を当てたのに対し、向社会的な側面の道徳性を研究した。

- ④ ピアジェ課題における保存課題のうち、数、液量、重さ、体積といったそれぞれの保存課題は、子どもにとって難しさは異なる。
- ⑤ 心の理論とは、幼児が相手の感情をよみとることに関する理論である。

問8. つぎの①～⑤の記述の中から、不相当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 自分のやっていることを客観的にみることをメタ認知といい、5歳くらいからメタ認知が機能して自分のやっていることが正しいのか、他とどう違うかなどを考えるようになる。
- ② ピアジェは幼児のひとりごとを社会的発話の未熟な形と考えたが、ヴィゴツキーは、内言の原型であると考え、ひとりごとは論理的思考のもとになるものにとらえた。
- ③ 幼児が早期に数を数えることができるのは、制約という情報の選択性はたらくためと考えられる。
- ④ 自閉症は、知的障害児と同様に「心の理論」を理解する仕組みをもたない障害であるという説がある。
- ⑤ 幼児にとって空想（fantasy）は、自分の要求を解消させる働きがあり、空想によって阻止された情緒や動機を満足させることができる。

問9. つぎの①～⑤の記述の中から、不相当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① 象徴機能が成立すると、ままごとやお母さんごっこのようなごっこあそびが現れる。
- ② 2歳くらいまでのごっこ遊びは、他の遊びより養育者の言語的応答を多く引き出す傾向があり、それがさらに子どものごっこ遊びを促進していると考えられる。
- ③ 自然の状況下では、子どもは3歳前後から遊びの相手として異性より同性を好む傾向がみられる。
- ④ パーテンによると、子どもの集団遊びは、傍観→一人遊び→平行遊び→協同遊び→連合遊びの順に現れる。
- ⑤ 一人遊びは、パーテン説のように遊びの未熟な段階ではなく、年長にもみられる遊びで目標を持った遊びであるという説もある。

問10. つぎの①～⑤の記述の中から、不相当と思われるものを一つ選びなさい。

- ① アタッチメントとは人間（動物）が特定の個体に対して持つ情愛的な結びつきのことである。
- ② 愛着のタイプとしてエインズワースらに見出された無関心タイプ（Dタイプ）は、臨床的に注目されている。
- ③ 子どもにとって愛着の対象は、探索行動における安全基地の役割を果たす。
- ④ アタッチメント行動とは接近や接触を促進する具体的な行動である。人間の乳児の場合、近寄ることや後追い、しがみつきといった接近、接触を求める行動や、微笑、泣き、よびかけといった信号的行動がこれに含まれる。
- ⑤ Strange Situationの実験手続き（SSP）は、日本の子どもにはストレスが強すぎるという意見がある。

No.

Q012

児童発達学特論(Ⅱ)

室田 洋子

自分を知り、他者を理解する

領域

2 単位

通信

児童心理学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（3. 発達心理学領域－児童・青年期）です。

到達目標

発達心理学の視点から思春期・青年期の発達と適応についての理解を深める。またこれらをもとに将来臨床発達心理士および学校心理士として適切な支援ができるよう臨床心理学の知識と技術も身につけ、学校心理士、臨床発達心理士としての専門的な知識・技能・能力が身につくようにする。

学習成果

思春期・青年期の発達について理解し、臨床発達心理士や学校心理士として児童生徒の発達と適応について適切な支援ができるようになる。また、保護者への支援および関連領域との連携についても適切に行うことができるようにする。

基本文献

「図解心理学」（学術図書出版）
『発達心理学入門Ⅱ』（東京大学出版会）
『発達と教育のための心理学初歩』（ナカニシヤ出版）
西平直喜・久世敏雄『青年心理学ハンドブック』（福村出版）

評価の要点

レポートと科目終了試験により評価する
レポートは指定文献、関連文献を読み、正しい理解が得られているかを判断し評価する。

評価方法と採点基準

レポートと科目終了試験
科目終了試験は専門内容についての理解の確かさを評価。スクーリングは授業を通しての質問や応答関係も含めて理解の程度を確かめ評価する。専門知識の獲得とともに、学校心理士・臨床発達心理士として現場に役立つ知識・技能の獲得の程度を確かめ評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

指定教科書および関連図書を丁寧に読むこと

授業回数別教育内容

- 1回 児童期・思春期・青年期の定義
〈身につく資質・能力〉 Puberty.youthの理解ができるようになること期待される 〈学習のポイント〉生涯発達の中での位置づけ
- 2回 思春期危機 身体発達と精神発達
〈身につく資質・能力〉 スカモンの発達曲線の理解ができるようになること期待される 〈学習のポイント〉発達の相互作用
- 3回 思春期・青年期の生理の特徴と心理
〈身につく資質・能力〉 ホルモン機能の生理学の理解が進むようになること期待される 〈学習のポイント〉生理学的理解
- 4回 アイデンティティの形成
〈身につく資質・能力〉 エリクソンの自己発達理論への理解が深まることが期待される 〈学習のポイント〉思春期・青年期の発達課題
- 5回 思春期・青年期の社会性 友人、仲間関係
〈身につく資質・能力〉 友人、仲間関係の質的变化への理解が進むようになること期待される 〈学習のポイント〉社会的スキル
- 6回 反抗期現象と家族関係
〈身につく資質・能力〉 クローの反抗期現象への理解が進むようになること期待される 〈学習のポイント〉家族ダイナミックスの変化
- 7回 異性との関係の発達の变化
〈身につく資質・能力〉 サリヴァンの対人関係理論の理解が進むようになること期待される 〈学習のポイント〉対人関係の発達理論
- 8回 自己同一性形成の失敗に伴う諸問題
〈身につく資質・能力〉 アイデンティティの混乱の理解が進むようになること期待される 〈学習のポイント〉不適応行動の発生
- 9回 職業選択と自己実現
〈身につく資質・能力〉 進路と職業選択の理解を深め現場に役立つ力を得ることが期待される 〈学習のポイント〉自己実現と混乱
- 10回 理想・道徳性の発達
〈身につく資質・能力〉 規範意識、基本的生活習慣の理解を得、現場指導に役立つ力を得ることが期待される
〈学習のポイント〉道徳性を具体的に捉える
- 11回 性同一性の確立と障害
〈身につく資質・能力〉 同性・異性とのかかわりの理解を深めることが期待される 〈学習のポイント〉恋愛・結婚・性同一性障害
- 12回 生涯発達の中での青年期

〈身につく資質・能力〉モラトリアム、青年期延長の理解を深め臨床心理の応用力を得ることが期待される
 〈学習のポイント〉アイデンティティの拡散

13回 成人前期の発達課題

〈身につく資質・能力〉親となる準備の理解を得ることが期待される 〈学習のポイント〉心の理論

14回 青年期の心理的不適応

〈身につく資質・能力〉いじめ、ひきこもり、不登校の理解を得、応用力を得ることが期待される 〈学習のポイント〉発達課題の未解決

15回 青年心理学の諸理論

〈身につく資質・能力〉諸理論を知るの理解を得、現場での総合力を得ることが期待される 〈学習のポイント〉総理解

試験 レポート課題により、理解の程度と正確さを判断。解答が正しいことも重要。第一課題、第二課題とも同じ比重で採点。

レポート課題

巻末
解答用紙

提出数
2

第1課題

課題の指示に正しく従い、各問に答え、その理由も記述してください。

問1. 次の①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるもの**を一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① ある段階で達成すべき課題の成否が、その後の段階の課題の成否に影響を及ぼすという考え方は、ハヴィガーストとエリクソンに共通している。
- ② オースベルは、青年期を性的成熟などの生物学的変化と周囲からの役割期待の変化に適応するためのパーソナリティの再構成の時期と考えた。
- ③ 境界人 (marginal man) とは、複数の集団に同時に属す、あるいはどの集団にも十分属することができず周縁 (marginal) に位置する人のことを言うが、レヴィンは場理論の立場から青年をそれになぞらえた。
- ④ 生態学的立場からみれば、西欧社会にみられる青年期的危機の現れや不適応行動、反抗、情緒的混乱は、子どもが大人に移行する際の文化的な非連続性によると考える。
- ⑤ エリクソンは、青年期を成人社会に参加するための準備期間であり、労働や社会的責任からの猶予期間 (モラトリアム) として積極的に位置づけた。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、**不適当と思われるもの**を一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 成熟の前傾化は、結果として児童期の短縮を導き、小学校教育にも影響を及ぼしている。
- ② 青年期の長期化は世界に共通する現象といえ、発達加速による成熟の前傾化と、学校教育の普及・延長による終期の遅延などによりもたらされた。それは様々な意味で「豊かさ」の現れといえる。
- ③ 一般にadolescenceとはpuberty、youngを含み、young adultは含まない。
- ④ 青年期を3期に分けたとき、前期は小学校高学年から中学の終り、あるいは高校の初め頃までをいい、性的・身体的成熟による身体面の変化が激しいために、心理的動揺が著しい時期である。
- ⑤ 青年期が今日のように長期化し、終期が遅延化している理由の1つには晩婚化があげられる。

問3. 次の①～⑤の記述の中から、**明らかに不適当と思われるもの**を一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 初潮や精通の低年齢化など発達前傾現象 (広義の発達加速現象) は、近代化に伴う都市化や情報化、また、生活環境の改善とあいまって生じた現象と考えられる。
- ② 性的成熟のおとずれをみると、おおむね身長急激な伸びの直後にみられる傾向がある。
- ③ 青年期における急激な身体の変化は、「自分とは何か」ととらえる自我意識のきっかけにすぎない。
- ④ 性的成熟に対する心理的受容は、女子の場合両面的である。
- ⑤ Scammonの発達曲線で、淋巴型が大きいということは身長の伸びが大きいということを意味する。

問4. 次の①～⑤の記述の中から、**明らかに不適当と思われるもの**を一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 黄体ホルモンの分泌により自律神経が刺激を受けイライラや落ち込みなどの月経前症候群を女子はしばしば経験する。
- ② 男性ホルモン、アストロゲンは副腎皮質や精巣でつくられ男性特有の体つきや脳の動き、精神活動に服用する。
- ③ 中学生が性的な事柄について最も関心を持っているのは、異性の気持ちや心についてである。
- ④ 青年の性意識は全般に解放的な方向に変化しているが、特に女子にその傾向が著しい。
- ⑤ 性的発達のプロセスは、性的な関心がまず芽生え、性的成熟に伴って性的興奮が起こるようになる。この過程そのものは、男女に違いはない。

問5. 次の①～⑤の記述の中から、**明らかに不適当と思われるもの**を一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 青年前期の女子における性の受容の低さは、性的成熟に伴う身体的変化が主な原因の1つといえる。
- ② こと性役割に関して、青年期の理想自己は保守的で、そうありたい自分と異性に望まれる自分との間でギャップがある。
- ③ 性役割の発達においても青年期は再構成期で性的・身体的成熟による身体発達を契機とするが、その基礎には形式的操作的思考に象徴される認知的発達が不可欠である。
- ④ 性役割の習得は親や周囲の人々による性の型づけだけでは説明できず、暴力的なアニメを見てその行動を取り入れる認知的発達の側面も見逃せない。
- ⑤ 性的成熟の発現/未発現と、自己の男性性・女性性の実現度の認知との関係は、男子と女子では対照的である。

第2課題

課題の指示に正しく従い、各問に答え、その理由も記述してください。

問1. 次に①～⑤記述の中から、**不適当と思われるもの**を一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 自己概念の内容を20答法 (Who am I?) で調べると、児童期から青年期にかけて、外面的・主観的な内容が減り、内面的・客観的なものに自己概念の重点が移っていく。
- ② 自尊感情とは、自己を全体としてどの程度肯定的に捉えているかをいう。そして自尊感情の拠り所には性差がみられ、男子は内面的側面で、女子では対人的側面あるいは外面的側面で自己評価が高いと自尊感情も高くなる傾向がみられた。

- ③ 自己受容とは、「ありのままの自己を歪めることなく認識し、自分自身として受け入れ好きになること」と定義されるが、自己受容の水準の発達的な変化をみると、いくつかの研究から共通して言えるのは、青年期に一度低下し、その後回復するという経過をたどる。
- ④ 日本青年の自己卑下的な自己評価は、他者との調和をはかる相互協動的自己観が優勢な文化における社会化の結果と考えることができる。
- ⑤ 青年期には自己意識が高まり、他者からの評価を気にするようになる。これは自己概念を形成する上で、特に自分と同年齢の他者との比較を通じて自己評価を行う傾向が強くなるからである。

問2. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 心理社会的危機とは、ライフサイクルのなかでの岐路を意味し、それまで発達してきた心的体制が、次の新しい心的体制に向かい、再体制化されていく時期として捉えられる。
- ② エリクソンは青年期のアイデンティティ形成において、モラトリアムを社会的な責任を猶予された状態として位置付けた。
- ③ アイデンティティの拡散状態では、長期的な見通しや計画、展望が失われ、労働麻痺に陥り、人に対して自意識過剰になり、親密な関係が結べないなど、社会的な孤立や主体的な取り組みの忌避などが問題になってくる。
- ④ 今日のような多様な価値観のなかで自己実現をはからなければならないからこそ、アイデンティティの葛藤や混乱が生じてくるのである。
- ⑤ 対抗同一性とは、その社会の肯定的な価値とは対立する、あるいは超越する価値に同一化することによって自らのアイデンティティを獲得しようとするものをいう。

問3. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① マーシャはアイデンティティ達成の状態を、心理社会的危機を経験しているか否か、また、人生の重要な領域に積極的に関与しているか否かを基準として新たな測定技法を開発した。
- ② 早期完了とは、すでに特定の職業やイデオロギー、価値に関与しているが、そこに至る過程で葛藤や混乱を経験せず、親の目標と不協和がない状態のことを言う。
- ③ マーシャの面接法を日本人に適用したところ、日本の青年にとって重要な領域はアメリカと同様、職業とイデオロギーであった。
- ④ アイデンティティの達成は、青年期固有の課題とは言えない。
- ⑤ ラスムッセンは乳児期から成人前期に至る各発達段階における危機への対処の良否を、質問文への回答という形で測定し、アイデンティティの形成過程を捉えようとした。

問4. 次の①～⑤の記述の中から、不適当と思われるものを一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① 大学生において「最も親しい人」と言うとき、アメリカでは恋愛中の相手をあげ、日本では同性の友人を指す。
- ② 友人との付き合い方を実証研究からみると、中学生では誰からも愛されたい、皆と同じことをしたいという傾向が強いが、年齢が上がるにつれ、「浅くー広い」付き合い方から「狭くー深い」付き合い方に変化していく。
- ③ 「自分をガードし、他人に対して問題になることは避けて、できるだけ表面的に協調していく」ような希薄な人間関係は、現代青年に特有の特徴とは必ずしもいえず、現代社会の人間関係一般のあり方を反映していると考えられる。
- ④ 自分の内面世界を共有できる友人は精神的な安定化の拠り所であるが、同時に自己のアイデンティティを脅かす評価者でもあり、自己を相対化する上で重要な役割を果たす。
- ⑤ 同性の友人への自己開示は発達に伴って増加し、男女差はみられない。

問5. 次の①～⑤の組み合わせの中から、明らかに不適当と思われるものを一つ選び、その理由を述べなさい。

- ① ハヴィガースト - エリクソン - スーパー
- ② ホランド - 職業興味理論 - 職業興味目録
- ③ 職業レディネス - 適性 - 技能・技術・資格
- ④ スチューデント・アパシー - 早期完了 - 職業未決定
- ⑤ スーパー - 職業発達理論 - 自己概念

No.

Q013

発達臨床学演習村田 カズ・
室田 洋子**領域**

児童心理学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（1. 心理教育的アセスメント基礎実習領域）です。

2 単位

通信

面接

到達目標

子どもの多面性と全体性の両面から児童問題を深く考えていくために、この科目は次のように到達目標を定める。

援助を求めている人びとへの支援は、人間特有の長い育児期間と周りの人との関係性を深く理解することから始まり、問題のメカニズムを探り、介入の方針を決めていくという流れであることを知る。また、その際必要な各種心理検査についての理解を深める。

内容

前期7回までは、人間の発達と障害について理解を深める。8回目以降の後期は面接授業、実技演習を伴う実習となる。子どもを対象とした各種心理検査を実施し、それらの実施法、解釈法、結果のまとめ方の習得を目指す。

スクーリング**授業計画**

- 1 検査法については理解しておいて欲しいのですが、各検査についての予習は必要ありません。
- 2 受講生は各種の心理検査を受検し、自分で採点し解釈しながら心理検査の長所・短所、心理検査の限界を理解することとなります。

準備する物

・2B程度の濃さの鉛筆 ・消しゴム ・3冊の基本文献を読んでおいてください。

基本文献

藤永保監修『障害児保育 第3版』（萌文書林）2018

近藤清美・尾崎康子編著『社会・情動発達とその支援』（ミネルヴァ書房）2017

評価の要点

次の世代を担う子どもたちを育てる者としての学識・能力を問うために。

レポートの提出状況と最終試験を総合して評価する。

スクーリング終了後、最後に課すレポートにより、この科目で学んだことについて自分で考えることができたかを評価する。

授業回数別教育内容

- 1回 発達臨床心理学…発達臨床心理学の観点、方法論を理解する。
 - 2回 胎児期・新生児期…最初期のコミュニケーションと母子相互作用について考える。
 - 3回 乳幼児前期…家庭内におけるコミュニケーションについて考える。
 - 4回 乳幼児後期…初めての集団生活における社会化について考える。
 - 5回 児童期…学校における社会化について考える。
 - 6回 思春期…学校、地域社会における社会化について考える。
 - 7回 成人期・壮年期・老年期…これまで生きてきた社会との関係について考える。
 - 8回 発達臨床心理学と心理アセスメント①…臨床心理アセスメントとは何か。
 - 9回 発達臨床心理学と心理アセスメント②…問題のメカニズムを探り、介入の方法を定めるには。
 - 10回 知能・発達検査（新版K式発達検査①）…検査用具と検査の方法について学ぶ。
 - 11回 知能・発達検査（新版K式発達検査②）…結果と解釈について考える。
 - 12回 知能・発達検査（田中ビネー知能検査①）…検査用具と検査の方法について学ぶ。
 - 13回 知能・発達検査（田中ビネー知能検査②）…結果と解釈について考える。
 - 14回 知能・発達検査（グッドイナフ人物画知能検査）…結果と解釈についてまとめる。
 - 15回 心理検査結果のまとめ方、報告書の書き方…14回までのまとめを行う。
- 試験 スクーリング最終日に出す課題のレポートを評価する。

レポート課題提出数
1手書き
不可**第1 課題【4000字程度】**

3題中1題を選択し、選択番号を明記の上、解答しなさい。

1 基本文献の『障害児保育』を読んで、この本に解説のある障害について、障害がある子どもの家族によって書かれた本、または障害者自身が書いた本を読んで考えたことをまとめなさい。

(必ず著者、書名、出版年、出版社を記入のこと)

2 次の本の第5章を読んで、子どもが自分の情動や行動を調整できるようになるまでをまとめなさい。そして、自分やまわりの人について具体的な例を挙げながら、自己調整ができた場合とできなかった場合を記述しなさい。

参考文献『子どもの社会的発達』井上健治・久保ゆかり編 1997 東京大学出版会

3 下の本の第4章をよく読んで、定型発達の乳幼児にみられる初期コミュニケーションについて要点をまとめ、そのまとめから、自分なら自閉症スペクトラム障害児に何をどのように教えることができるか考えて述べなさい。

参考文献『乳幼児期の自閉症スペクトラム障害～診断・アセスメント・療育』カタルツィナ・ハヴァースカ/アミ・クリン/フレッド・R・フォークマー編 竹内謙彰/荒木穂積監訳 2010 クリエイツかもがわ

No.

Q014

児童発達評価論

東原 文子

学校における一般的な教育評価と特別なニーズの児童生徒のアセスメントの方法

領域

2 単位

通信

児童心理学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（5. 心理教育的アセスメント領域）です。

到達目標

テキストによる学習を通して、①一般的な教育評価についての重要事項（絶対評価と相対評価、形成的評価と総括的評価、個人内評価など）、②学級・学校のアセスメントについての重要事項（学級風土や学級の居心地のよさなど）、③特別なニーズのある児童生徒のアセスメントについての重要事項（WISC-IV等による認知面のアセスメント、KABC-II等による認知や学力のアセスメントなど）を習得する。

〈ディプロマポリシーとの関連性〉

- 1) 児童について多角的に考察（ここでは心理・教育的アセスメント）することができる能力・態度を身につける。
- 2) 児童教育学・児童心理学にまたがる専門知識（ここでは教育評価）を習得している。

学習成果

- (1) 一般的な教育評価についての重要事項を述べることができる。
- (2) 学級・学校のアセスメントの重要性を述べることができる。
- (3) 特別なニーズのある児童生徒のアセスメントにおける代表的な検査の活用法の基礎的な事項を述べるができる。

評価の要点

レポート作成にあたっては、基本文献1で、学校における教育評価と、知能検査など学童期に用いられる各種検査の基礎事項を読み、それに基づいてレポートを1本作成します。その後、基本文献2で、発達障害のある子ども達の特性を理解したうえで、学習に困難を示す子どもを対象にするような認知や学力のアセスメントについてレポートを1本作成します。レポートでは、基本文献のどの頁を引用したかを本文中に明らかにしてください。他の文献を利用しなくてもよいですが、した場合は、当然、引用の出典を明らかにしてください。

基本文献

1. 橋本重治原著・応用教育研究所改訂版編集『教育評価法概説』（図書文化）2003
2. 上野一彦他責任編集『特別支援教育の理論と実践（第3版）Ⅰ概論・アセスメント』（金剛出版）2018

参考文献

田中耕治編『よくわかる教育評価〔第2版〕』（ミネルヴァ書房）2010

評価方法と採点基準

レポート課題に合格した後、科目終了試験を受験し、その評価が60点以上であれば単位の認定となります。

履修上の注意事項や学習上の助言

テキストを1章ずつ読み進めていく形でシラバスができています。15時間をまんべんなく割り振って学習していきましょう。

授業回数別教育内容

- 1回 教育評価の意義と歴史
教育評価の機能、目的を理解し、その変遷について学ぶ。
評価・測定・アセスメントといった用語の意味を捉える。
〈身につく資質・能力〉教育評価の歴史や関連用語について知識を得る。〈学習のポイント〉基本文献1・第1章
- 2回 教育評価の領域と手順
教育評価の手順と方法について、概観する。
〈身につく資質・能力〉教育評価のための様々な手段について知識を得る。〈学習のポイント〉基本文献1・第2章
- 3回 絶対評価と相対評価
絶対評価と相対評価のそれぞれの長所と短所を知る。
〈身につく資質・能力〉絶対評価と相対評価の差異を説明できる。〈学習のポイント〉基本文献1・第3章
- 4回 資料収集のための技法（1）テスト法
客観テスト、論文体テスト、問題場面テストなどテスト法の種類を概観する。
〈身につく資質・能力〉各テスト法の長所や短所を説明できる。〈学習のポイント〉基本文献1・第4章
- 5回 資料収集のための技法（2）教師自作テストと標準検査
集団基準準拠と目標基準準拠の標準検査の作り方と結果解釈法の基礎知識を得る。
〈身につく資質・能力〉各方法の長所や短所を説明できる。〈学習のポイント〉基本文献1・第5章
- 6回 資料収集のための技法（3）観察法・評定法その他
観察法、評定法など、ペーパーテストでない資料収集の種類を知る。また、学級のアセスメントに通ずる人間関係の把握の方法も知る。

- 〈身につく資質・能力〉各方法の長所や短所を説明できる。〈学習のポイント〉基本文献1・第6章
- 7回 学習評価の手順真
 診断的評価・形成的評価・総括的評価の違いと使い分けについて具体例をもとに整理する。
 〈身につく資質・能力〉各評価法の位置づけを説明できる。〈学習のポイント〉基本文献1・第7章
- 8回 学習評価の実際
 観点別評価の原理と方法について、具体例を通して学ぶ。
 学業不振や学習障害の判断の方法についての基礎知識を得る。
 〈身につく資質・能力〉観点別評価の原理と方法について説明できる。〈学習のポイント〉基本文献1・第8章
- 9回 知能・適性の評価
 知能検査・適性検査の代表的なものについての基礎知識を得る。
 〈身につく資質・能力〉知能検査・適性検査の基礎知識を得る。〈学習のポイント〉基本文献1・第9章
- 10回 性格・行動・道徳の評価
 性格検査法や行動・道徳の評価法の基礎的な知識を得る。
 〈身につく資質・能力〉性格・行動・道徳についても評価できることを知る。〈学習のポイント〉基本文献1・第10章
- 11回 発達障害の理解
 通常学級における発達障害のある児童の特性について概要を知る。また医療が教育に提供できることとできないことを整理する。
 〈身につく資質・能力〉発達障害の基礎知識を得る。〈学習のポイント〉基本文献2・A-1～A-3
- 12回 発達障害児の心理教育的アセスメントの目的
 発達障害児を理解し、よりよい支援をするため心理教育的アセスメントをどう進めていくか、目的・プロセス・倫理について整理する。
 〈身につく資質・能力〉心理教育的アセスメントの重要事項を知る。〈学習のポイント〉基本文献2・B-1、B-5
- 13回 知能検査の概要
 WISC-IV知能検査に関する用語、特に指標得点の意味について知る。
 WISC-IV知能検査の各下位検査の測定している能力について知る。
 〈身につく資質・能力〉WISC-IV知能検査の概要に関する知識を得る。〈学習のポイント〉基本文献2・B-2
- 14回 知能検査結果解釈の基礎
 WISC-IV知能検査の結果解釈の流れと留意点について知る。
 〈身につく資質・能力〉WISC-IV知能検査の結果解釈に関する知識を得る。〈学習のポイント〉基本文献2・B-2
- 15回 心理検査の活用-知能検査と学力検査等の組み合わせ
 知能検査と学力検査、行動観察や背景情報を組み合わせて総合解釈し、指導方針を立てるまでの流れを整理する。
 〈身につく資質・能力〉包括的なアセスメントの方法の概略を知る。〈学習のポイント〉基本文献2・B-4、B-5
- 試験 評価の要点に基づいて実施します。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【4000字程度】

小学校、中学校、高等学校のいずれかの教科のいずれかの単元における指導目標を整理し、それにしたがってペーパーテストを作成しなさい。図表を用いてもよい。そしてそのテストは、どのような手法を利用しているか（客観式や論文体など）、なぜそのようにしたか、また、どのような観点でどのようなつまずきが予想されるかなど、そのテストを実態把握に利用する方法について説明しなさい。また、基本文献の文章を必ず引用し、その引用部の後ろに（基本文献1、○頁参照）などと、引用部を明らかにしてください。

第2課題【4000字程度】

基本文献2のB-4の学力アセスメントについて、重要な点を落とさずに要約しなさい。また、用語の説明など、その章に書いていないことも書き足して下さい。図表は入れず、文章のみで作成すること。

No.

Q015

児童発達評価演習

東原 文子

心理教育的アセスメントの理論と技法を学ぶ

領域

2 単位

通信

面接

児童心理学

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（1. 心理教育的アセスメント基礎実習領域）です。

到達目標

テキストによる学習とスクーリングを通して、個別心理検査の実施法、解釈法を学び、また、実施した検査結果の解釈に基づき、指導案や指導計画を作成するための演習を行う。本科目では、まず前半7回目までで、主に発達障害のある児童生徒の心理教育的アセスメントの方法の概要を知り、すぐれた事例報告書を読むことで検査結果の解釈法から指導法につなげるための基本的な知識を学ぶ。後半8回はスクーリングで、検査の実施・解釈の実習を行う（これは学校心理士申請の「実習1. 心理教育的アセスメント基礎実習」10ポイントのうち8ポイントに当たる。残りは発達臨床学演習のスクーリングで充てる。

〈ディプロマポリシーとの関連性〉

- 1) 児童について多角的に考察（ここでは心理・教育的アセスメント）することができる能力・態度を身につける。
- 2) 高度専門職業人（ここでは心理職）または研究者として社会に立てる実践能力・研究能力を有する。

学習成果

- (1) WISC-IV 知能検査の実施と解釈の基礎を習得する。
- (2) WISC-IV を中心とした検査と、行動観察や聞き取りから得られる背景情報とを結びつけて包括的なアセスメント報告書を書くことができる。
- (3) 子どもの学習面のつまずきを、得意とする学習スタイルで乗り越える「長所活用型指導」の見方で、アセスメント結果から指導計画を立てることができる。

基本文献

上野一彦他責任編集『特別支援教育の理論と実践（第3版）I 概論・アセスメント』（金剛出版）2018

評価の要点

レポート作成にあたっては、まずテキストのB-1、B-2、B-4、B-5をよく読むことが必須です。そして、B-5の事例Aのアセスメントシートにならって、事例Bのアセスメントシート①（基本情報）を仕上げてください。文章から重要な点を抽出することと、B-5-2の、基本情報の整理（アセスメント情報①）の方法をよく理解することが必要です。その後、この事例Bの児童になぜ知能検査（WISC-IV）を実施したのかについて、考察して下さい。その際、レポートの中に（テキストp.○を参照）のように書き込むようにして下さい。

評価方法と採点基準

レポート20%、スクーリングでの総括試験80%（但し、レポートが合格しないとスクーリングに参加できません）。

履修上の注意事項や学習上の助言

小中学校の児童生徒の心理教育的アセスメントとして最もよく使われるWISC-III検査が2011年1月より改訂されWISC-IVとなりました。また、K-ABC検査も改訂されKABC-IIとなりました。スクーリングでは最新の検査を学びますが、解釈法や指導計画への活用という意味では、世の中の事例はまだ旧版の検査を利用している場合も多いため、旧版の検査についても触れます。スクーリング時はテキストを必ず持参して下さい。

授業回数別教育内容

- 1回 心理教育的アセスメントとは
子どもの心理教育的アセスメントの意義と目的、また、特に発達障害児の心理教育的アセスメントの有効性を知る。
〈身につく資質・能力〉心理教育的アセスメントの基礎知識を得る。〈学習のポイント〉特にテキストB-1（必要ならそれ以前も）
- 2回 心理教育的アセスメントの方法
心理教育的アセスメントに用いる代表的な検査の概要を知る。
〈身につく資質・能力〉知能、学力、行動・社会性のアセスメント法を知る。〈学習のポイント〉特にテキストB-1
- 3回 WISC-IVの検査情報に用いられる用語の理解
WISC-IV検査結果を解釈するための準備として、関連用語が示す意味を知る。
〈身につく資質・能力〉WISC-IVの概要に関する基礎知識を得る。〈学習のポイント〉特にテキストB-2
- 4回 検査結果の伝え方
保護者や学校への検査結果の伝え方のポイントについて模範的な事例を学ぶことで理解する。
〈身につく資質・能力〉検査結果の伝え方に関する基礎知識を得る。〈学習のポイント〉特に教科書B-5
- 5回 WISC-IVの結果も用いた総合解釈
WISC-IV検査結果から、検査以外の背景情報（基本情報）との関連をみていく方法を学ぶ。
〈身につく資質・能力〉基本情報と検査結果を結びつける。〈学習のポイント〉特にテキストB-2
- 6回 事例検討①「落ち着きがなく授業に集中できない小学校4年生」
テキストB-5に掲載された事例Aにおいて、基本情報や検査結果解釈と指導計画の関連を読み取り、考察する。
〈身につく資質・能力〉基本情報や検査結果と指導計画を結びつける。〈学習のポイント〉事例Aの解釈をそれ以前の頁も参照しながら行う。

- 7回 事例検討②「読み書き困難のある小学校2年生」
 テキストにB-5に掲載された事例Bにおいて、事例Aにならって、アセスメントシート①（基本情報）をしあげる。
 〈身につく資質・能力〉基本情報の整理のしかたがわかる。〈学習のポイント〉事例Aと同様に事例Bの基本情報を整理する。
- 8回 WISC-IV検査実習①（検査概要）
 WISC-IVの書く下位検査の内容と実施上の留意点について、テキストとビデオ教材から読み取る。
 〈身につく資質・能力〉WISC-IVの検査の概要がわかる。〈学習のポイント〉特にテキストB-2
- 9回 WISC-IV検査実習②（実施）
 WISC-IVの実施練習を2人組で行なう。
 〈身につく資質・能力〉WISC-IVの実施手続きの概要がわかる。〈学習のポイント〉特にテキストB-2
- 10回 WISC-IV検査実習③（結果処理・解釈の方法）
 WISC-IVの結果の処理および結果解釈のしかたの基本について、事例データを用いて手順を追う。
 〈身につく資質・能力〉WISC-IVの結果解釈の留意点ができる。〈学習のポイント〉特にテキストB-2
- 11回 KABC-II検査実習（概要）
 KABC-IIの検査の概要、および、プロフィールの見方の基本を知る。
 改訂前のK-ABCについても触れる。
 〈身につく資質・能力〉WISC-IVの短所を補うKABC-IIの特徴を知る。〈学習のポイント〉特にテキストB-3
- 12回 行動観察と検査結果の関連
 発達障害児の指導場面についてビデオを用いた行動観察を行い、行動観察法の基礎を知り、その結果と検査結果を結び付ける。
 〈身につく資質・能力〉行動観察に関する基礎知識を得る。〈学習のポイント〉特にテキストB-1-4
- 13回 アセスメント結果に立脚した指導（支援）計画の立案
 検査結果などによる包括的アセスメントから、発達障害児の個別の指導計画の立案までの一連の流れを知る。
 〈身につく資質・能力〉長所活用型指導の観点をもつ。〈学習のポイント〉模範的な事例報告書を読みこなす。
- 14回 総合事例演習①
 学習困難事例のデータから指導計画立案までの一連の流れを、グループディスカッションを交えて実際に行う。
 〈身につく資質・能力〉総合的な事例解釈の技量。〈学習のポイント〉授業中のメモを文章化する。
- 15回 総合事例演習②
 行動問題事例のデータから指導計画立案までの一連の流れを、グループディスカッションを交えて実際に行う。
 〈身につく資質・能力〉総合的な事例解釈の技量。〈学習のポイント〉授業中のメモを文章化する。
- 試験 1～7：レポート、8～15：スクーリング
 評価の要点に基づいて実施します。

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

第1課題【4000字程度】

基本文献の事例Bのアセスメントシート①（基本情報）を、2000字以内で作成しなさい（表組みにせず、通常のパソコン文章のスタイルでよい）。その後、この児童にWISC-IVを実施したのはなぜか、実施したことによりどのような情報が得られ、どのような指導方針につながったのか（テキストに書かれていない）を考察し、2000字程度で書きなさい。

※この考察部分に関しては、テキストの中から重要な点を引用して使ってください。その際、その際、レポートの中に（テキストp.○を参照）のように書き込むようにしてください。例：「発達障害児の教育的支援においてWISC-IVが最も重視される理由は、個人内差が測定できる点にあるとされる（テキストp.●参照）。本事例においても、4つの指標得点にばらつきが見られ…」

No.

Q032

地域福祉学特論

北川 慶子

コミュニティワークの新展開

領域

児童福祉・保健学

2 単位

通信

到達目標

福祉コミュニティについての理論的検討を行い、各地域の事例をもとに、乳幼児から高齢者に至るまで、地域社会の全住民がそれぞれのライフサイクルにおいて直面する社会生活上のハンディに対する適切な援助と予防、そして社会参加の権利を保障する地域福祉社会（福祉コミュニティ）多成のための諸活動を学ぶ。とくに社会福祉関係諸機関を中心としたフォーマルな援助システムとボランティアなどのインフォーマルな援助システムを具体的に検討し、福祉コミュニティの在り方を考察する。

学習成果

福祉、保健、医療分野で市町村中心主義へと転換していく中で、地域での福祉、保健、医療サービスのネットワーク化、総合化、統合化が緊急課題として登場し、その実践が展開されつつある。コミュニティワークのこれらの動きに対応した新しい方法、技術を学ぶことができる。

基本文献

野口定久著『人口減少時代の地域福祉グローバリズムとローカリズム』（ミネルヴァ書房）

評価の要点

レポート課題に沿ってレポートを作成し、試験に合格すること。

評価方法と採点基準

レポート提出と科目終了試験で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・基本文献（教科書）の内容をよく理解すること。
- ・基本文献をよく理解した上でレポート課題に取り組むこと。

授業回数別教育内容

- 1回 地域福祉の新展開
〈身につく資質・能力〉理論と理念 〈学習のポイント〉新展開
- 2回 保健医療福祉の総合化、統合化
〈身につく資質・能力〉連携の意義 〈学習のポイント〉在宅福祉
- 3回 地域福祉の新展開とコミュニティワーク
〈身につく資質・能力〉地域福祉 〈学習のポイント〉概念と性格
- 4回 コミュニティワークの位置づけと概念
〈身につく資質・能力〉位置づけ 〈学習のポイント〉概念
- 5回 コミュニティワークの歴史的展開①—イギリス
〈身につく資質・能力〉COS 〈学習のポイント〉歴史
- 6回 コミュニティワークの歴史的展開②—アメリカ
〈身につく資質・能力〉CO 〈学習のポイント〉実践モデル
- 7回 コミュニティワークの歴史的展開③—日本
〈身につく資質・能力〉組織化 〈学習のポイント〉社協活動
- 8回 コミュニティワークの基本的要素
〈身につく資質・能力〉方法・技術 〈学習のポイント〉診断
- 9回 住民の組織化とコミュニティワーク
〈身につく資質・能力〉手法選択 〈学習のポイント〉組織活動
- 10回 地域福祉計画とコミュニティワーク
〈身につく資質・能力〉ニーズ把握 〈学習のポイント〉診断
- 11回 保健医療福祉行政とコミュニティワーク
〈身につく資質・能力〉福祉行政 〈学習のポイント〉福祉事務所
- 12回 社会福祉協議会とコミュニティワーク
〈身につく資質・能力〉共同募金 〈学習のポイント〉サービス
- 13回 コミュニティワーカーの役割と資質
〈身につく資質・能力〉資質・要件 〈学習のポイント〉資格
- 14回 民生委員・児童委員の役割
〈身につく資質・能力〉委員の原則 〈学習のポイント〉活動の重点
- 15回 コミュニティワークの実践事例

〈身につく資質・能力〉 活動内容 〈学習のポイント〉 視点

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字程度】

地域福祉の新展開とコミュニティワークの位置づけについて述べなさい。

第2課題【2400字程度】

身近なコミュニティワークの実践事例を取り上げ、その活動の特徴を述べなさい。

No.

Q028

児童生理学特論

子どもの成長と発達の基本を理解するとともに、子どもの問題に適切に対応できるようになる

領域

児童福祉・保健学

2 単位

通信

到達目標

以前は助けることができなかった病気を持つ子どもたちが、医療の進歩によって、元気に登園、登校するようになってきた。そこで保育士や幼稚園教諭、小学校教諭や養護教諭にはこのような子どもたちに対応できる医療機関と適切に連携して保育や教育を行える技量が求められている。一方、発達障害傾向の子どもたちが増加し、通常の幼稚園や小学校に入ってくる時代となった。このような背景をふまえ、この授業の到達目標は「身体とこころの両面を理解して子どもに関する身体とこころの問題に適切に対応する力をつけること」である。

学習成果

新生児医療の進歩により出生体重が1000グラムにも満たない超低出生体重児が、後遺症なく救命できるようになって久しい。しかし最近、大規模な追跡調査の結果、低出生体重児生まれの子どもたちは小学校高学年になった頃に学習や行動の障害を生ずる傾向があることが判明した。さらに、これらの子どもを取り巻く養育・保育・教育の環境が良ければ障害が予防できることがわかってきた。このことから、保育や教育に携わる者は障害傾向を持って生まれても環境で是正可能であることを理解してほしい。そしてそのためには、子どもの身体の基本である生理を理解し、その上で適切な対応ができる能力を持ってもらいたい。以上の背景の下、本特論から期待される学習成果は、保育者や教育者に求められる「子どもの発達成長のしくみの生理学的な理解」と「子どもの健全な身体を維持し守るための栄養と予防接種の医学的理解」、「子どものこころの健全な発達と障害、障害の予防に対する専門的な対応能力」である。

基本文献

西村昴三・松浦信夫・原田正平編集『わかりやすい子どもの保健 第3版』（同文書院）2018年

参考文献

宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』（新潮新書）2019年
 田淵俊彦著『NNNドキュメント取材班 発達障害と少年犯罪』（新潮新書）2018年
 中川李枝子『子どもはみんな問題児。』（新潮社）2015年
 森彪著『子どもの記憶一人間を創る教育と医療』（吉夏社）2007年

評価の要点

第1課題、第2課題に対してレポートを提出する。レポートは、第1課題に関しては、子どもの身体に関して医学生理学的に理解しているかを評価する。第2課題に関しては、子どもを取り巻く社会環境を踏まえて保育者・教育者として十分な洞察が行われているかを評価する。

評価方法と採点基準

出題者が考えている点が書かれているかどうかによって評価する。90点以上をS、以下80、70、60点以上をA,B,Cと評価し、60点以下をD評価（再提出）とする。

履修上の注意事項や学習上の助言

授業回数別教育内容に沿って学習する。課題に対しては、指定した基本文献だけでなく、インターネットや図書館などを利用して、広く学習して書き上げる。

授業回数別教育内容

- 1回 【第1章 子どもの健康と保健の意義】
 子どもの保健や現代の子ども健康に関する諸問題について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉保健学を学ぶ意義について理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の1～4p
- 2回 【第2章 子どもの発達発育 1. 子どもの成長】
 子どもの健康と保健の意義及び子どもの成長、身体計測、発育の評価について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉子どもの成長、身体計測、評価について理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の5～16p
- 3回 【第2章子どもの発達発育 2. 子どもの発達（前半）】
 成長に影響をおよぼす因子、子どもの発達のうち、脳の発達、感覚器の発達について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉子どもの成長に影響を及ぼす因子や脳、感覚器などの発達を理解できる。
 〈学習範囲等〉テキスト教材の16～19p
- 4回 【第2章 子どもの発達発育 2. 子どもの発達（後半）】
 子どもの発達のうち、運動機能の発達、子どもの姿勢、精神発達について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉運動機能の発達、子どもの姿勢、精神発達について理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の20～26p
- 5回 【第2章 子どもの発達発育 3. 生理機能（1～4）】
 子どもの生理機能のうち、体温調整、呼吸、循環、消化・吸収について学びます。

- 〈身につく資質・能力〉子どもの生理機能のうち、体温調節などを理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の27～30p
- 6回 【第2章 子どもの発達発育 3. 生理機能（5～8）】
 子どもの生理機能のうち、排泄、水分代謝、免疫機能、睡眠について学びます。
 〈身につく資質・能力〉子どもの生理機能のうち、排泄などを理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の31～34p
- 7回 【第2章 子どもの発達発育 3. 生理機能（1～4）】
 子どもの生理機能のうち、体温調整、呼吸、循環、消化・吸収について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉新生児の分類、特徴などを理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の35～38p
- 8回 【第3章 子どもの栄養 1. 乳幼児の栄養の特徴、2. 食事摂取基準】
 子どもの栄養のうち、乳幼児の栄養の特徴と食事摂取基準について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉乳幼児の栄養、食事摂取基準を理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の39～43p
- 9回 【第3章 子どもの栄養 3. 乳児の栄養】
 子どもの栄養のうち、乳児の栄養について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉乳児の栄養について理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の44～49p
- 10回 【第3章 子どもの栄養 4. 離乳】
 子どもの栄養のうち、離乳について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉子どもの栄養のうち、離乳について理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の50～53p
- 11回 【第3章 子どもの栄養 5. 幼児の栄養、6. 学童期以降の栄養】
 子どもの栄養のうち、幼児の栄養と学童期以降の栄養について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉子どもの栄養のうち、幼児と学童期以降の栄養について理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の53～58p
- 12回 【第5章 病気の予防と保健指導 1. 予防接種（生ワクチン）】
 病気の予防と保健指導、予防接種、ワクチンの種類（生ワクチン）について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉予防接種のうちの生ワクチンについて理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の97～104p
- 13回 【第5章 病気の予防と保健指導 1. 予防接種（不活化ワクチン）】
 ワクチンの種類（不活化ワクチン）について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉予防接種のうち不活化ワクチンについて理解できる。〈学習範囲等〉テキスト教材の105～110p
- 14回 【第5章 病気の予防と保健指導 1. 予防接種（抗体製品）2. 予防接種以外の感染予防】
 抗体製品や口からの感染症の予防などについて学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉感染予防の抗体製品、予防接種以外の感染予防について理解できる。
 〈学習範囲等〉テキスト教材の111～118p
- 15回 【発達障害傾向を示す子どもに対する保育と教育】
 発達障害傾向を示す子どもが増加した医学的、社会的な要因を調べ、保育園、幼稚園、通常の小学校に入園、入学してくる子どもたちへの適切な対応のあり方を考える。
 〈身につく資質・能力〉発達障害児に対する的確な対応法を述べることができる。
 〈学習範囲等〉提示した4種の参考書、インターネット情報

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字以内】

子どもの身体と大人の身体との違いは何か。また子どもがなりやすい病気や病態は何か。それを理解して、どのように保育や教育を実践していく必要があるのか。

第2課題【2400字以内】

発達障害傾向を認める子どもが増加してきた要因として考えられているものは何か。またこのような傾向を踏まえたこれからの保育や教育はどうあるべきか。さらに従来の保育や教育のスタイルの何を変えていくべきか。

No.

Q029

児童栄養学特論

祓川 摩有

子どもの栄養学を考える

領域

児童福祉・保健学

2 単位

通信

到達目標

(1) 目的

国内外の児童の栄養学を理解し、児童への食育の実践力、研究力を養うことを目的とする。

(2) 授業構成と到達目標

- ① 栄養学の基本的知識を身に付け、児童と食生活との関連について説明することができる。
- ② 栄養を考えた食事を考えることができる。
- ③ 児童だけでなく、各ライフステージの食生活の特徴を理解し、課題を解決する方法を理解できる。
- ④ 国内外の研究動向を把握し、研究に活かすことができる。

学習成果

- 1. 栄養学の基本的知識を学び、児童と食生活を結びつけることができる。
- 2. 食事の役割、栄養を考えた食事に関する知識を身に付けることができる。
- 3. 各ライフステージの食生活の特徴を学び、解決する方法を考えることができる。
- 4. 国内外の児童の栄養学に関する研究論文等を読み、研究動向を理解することができる。

基本文献

小野友紀他『保育の現場で役立つ 子どもの食と栄養』（アイ・ケイコーポレーション）2023

評価の要点

最終評価は科目終了試験で行う。

評価方法と採点基準

100点満点で、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDとする。

授業回数別教育内容

- 1回 ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義
〈身につく資質・能力〉子どもの健康と食生活の意義の理解
〈学習のポイント〉教科書：第1章予習30分
- 2回 栄養の基礎知識 1. 栄養の概念と栄養素の種類と機能 2. 食品と栄養素 3. 献立作成、調理の基本
〈身につく資質・能力〉栄養の基礎知識の理解
〈学習のポイント〉教科書：第2章予習30分
- 3回 乳児期の授乳の意義と食生活 1. 乳児期の食べる機能の変化 2. 乳汁栄養（母乳栄養、混合栄養、人工栄養）
〈身につく資質・能力〉乳汁栄養の理解
〈学習のポイント〉教科書：第3章Section1 予習30分
- 4回 乳児期の離乳の意義と食生活 1. 離乳
〈身につく資質・能力〉離乳の理解
〈学習のポイント〉教科書：第3章Section1 予習30分
- 5回 幼児期の発育・発達と食生活 1. 幼児期の発育・発達と食生活 2. 摂食機能の発達 3. 食事時間と生活リズム 4. 食事の内容
〈身につく資質・能力〉幼児期の食生活の理解
〈学習のポイント〉教科書：第3章Section2予習30分
- 6回 幼児期の発育・発達と食生活 1. 間食 2. 弁当 3. 幼児の食事の環境 4. 幼児期の食生活上の問題
〈身につく資質・能力〉幼児期の食生活の問題の理解
〈学習のポイント〉教科書：第3章Section2予習30分
- 7回 学童期の心身の発達と食生活 1. 学童期の心身の発達と特徴 2. 学童期の食生活の特徴と問題点 3. 学校給食
〈身につく資質・能力〉学童期の食生活の理解
〈学習のポイント〉教科書：第3章Section3予習30分
- 8回 生涯発達と食生活 1. 思春期の食と栄養 2. 妊娠期（胎児期）の食と栄養 3. 成人期の食と栄養 4. 高齢期の食と栄養
〈身につく資質・能力〉思春期、妊娠期、成人期、高齢期の食生活の理解
〈学習のポイント〉教科書：第3章Section4予習30分
- 9回 食育の基本と実践・1 1. 食育とは何か 2. 食育の内容と計画および評価
〈身につく資質・能力〉食育の基本的理解
〈学習のポイント〉教科書：第4章Section1・2予習30分
- 10回 食育の基本と実践・2 1. 食育のための環境 2. 地域の関係機関や職員間の連携 3. 保育所における保護者への支援
〈身につく資質・能力〉食育の実践の理解

- 〈学習のポイント〉教科書：第4章Section3-5予習30分
- 11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 1. 家庭における食生活のあり方 2. 児童福祉施設における食事と栄養
 〈身につく資質・能力〉家庭や児童福祉施設の食の理解
 〈学習のポイント〉教科書：第5章Section3-5予習30分
- 12回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1. 疾病および体調不良の子どもへの対応 2. 食物アレルギーの子どもへの対応
 3. 障害のある子どもへの対応
 〈身につく資質・能力〉特別な配慮を要する子どもの食生活の理解
 〈学習のポイント〉教科書：第6章予習30分
- 13回 児童の栄養学に関連する論文を調べる・1
 〈身につく資質・能力〉研究力
 〈学習のポイント〉予習30分
- 14回 児童の栄養学に関連する論文を調べる・2
 〈身につく資質・能力〉研究力
 〈学習のポイント〉予習30分
- 15回 まとめ
 試験 実施

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【3600字以内】

- 1 下記のテーマから1題を選び、選択番号を明記の上、記述しなさい。なお、参考文献を少なくとも3編以上付記すること。
1. 授乳の支援について、述べなさい。
 2. 離乳のすすめ方について、述べなさい。
 3. 幼児の食行動の発達について、述べなさい。
 4. 学童期の食生活の特徴と問題点について、述べなさい。
 5. 思春期の食生活の特徴と問題点について、述べなさい。

第2課題【3600字以内】

- 1 下記のテーマから1題を選び、選択番号を明記の上、記述しなさい。なお、参考文献を少なくとも3編以上付記すること。
1. 最近の子どもの食生活の課題について、論じなさい。
 2. 最近の子どもの食育の課題について、論じなさい。
 3. 児童の栄養学に関連する論文を3編以上調べ、それらの要点をまとめ、さらにそれに対するあなたの考えを述べなさい。

No.

Q030

児童保健学演習

日本の子どものヘルスプロモーション

領域

児童福祉・保健学

2 単位

通信

面接

到達目標

日本の子どもが直面している健康問題が何であるかを把握し、それぞれについてヘルスプロモーションの立場から、「現状および問題点」と「課題および提案」を理解できる。またそれを基に、自分自身の研究課題を考えることができるヘルスリテラシーの力を獲得できる。

学習成果

- (1) 日本学術会議が平成22年（2010年）7月12日に報告した「日本の子どものヘルスプロモーション」について理解できるようになる。
- (2) その中から選択されたいくつかの課題について、自ら学び調べることで、それらのから派生する日本の子どもにおける保健学の研究課題を考えることができる、ヘルスリテラシーの力を獲得できる。

基本文献

西村昂三、松浦信夫編集『わかりやすい子どもの保健 第三版』（同文書院）2018年
日本学術会議報告『日本の子どものヘルスプロモーション』
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-h99-1.pdf>

参考文献

- 1) 保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000201596.pdf>
- 2-1) 子ども虐待対応の手引き（平成25年8月改正版）
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/dl/120502_11.pdf
- 2-2) 冊子『すべての子どものすこやかな成長のために』
- 3) これからの小児歯科医療のあり方について
http://www.jspd.or.jp/contents/common/pdf/main/jspd_arikata.pdf
- 4) 平成29年度食育白書（平成30年5月29日公表）
http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h29_index.html
- 5) セーフティプロモーションスクール（SPS）の現状と展望
[http://plaza.umin.ac.jp/~safeprom/pdf/JSSP11\(2\)-FullPaper.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~safeprom/pdf/JSSP11(2)-FullPaper.pdf)
- 5-2) Socialsolution～変えられるものを見つけ、変えられるものを変える～（全15回）
<https://safekidsjapan.org/wp-content/uploads/2018/06/SocialSolution.pdf>
- 6) 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1383809_1.pdf
- 7-1) 第9回 子供の貧困対策に関する有識者会議
https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/yuushikisya/k_9/gijishidai.html
- 7-2) 中嶋哲彦、平湯真人、松本伊智朗、湯澤直美、山野良一著『子どもの貧困ハンドブック』（かがわ出版）2016年

評価の要点

レポートについては、提出した課題について日本学術会議報告書およびテキストの当該箇所を基に、十分に学習しているかを評価する。スクーリングでは、総合討議での講義の理解度、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。

評価方法と採点基準

- (1) レポートは、課題の主旨にそった内容でまとめられているかを評価する。指定された字数で過不足無く書かれているかを最低ラインとし、非常に優れている（S）、優れている（A）、よくまとめられている（B）、最低ラインを超えている（C）、基準に達していない（D）とする。Dは再提出とする。
- (2) スクーリングは、総合討議での講義の理解度、プレゼンテーション力などを総合的に評価し、非常に優れている（S）、優れている（A）、よくまとめられている（B）、最低ラインを超えている（C）、基準に達していない（D）とする。Dは不合格とする。

履修上の注意事項や学習上の助言

基本文献は最低ラインであるので、文献検索や図書館などの関連図書調べなどで考察を深めること。レポートは不特定多数に対して書くものではなく、出題者に対して読みやすく、自身の考察の内容がよく伝わるように工夫して書くこと。そうした学習もヘルスリテラシー力を高めるために有用です。

授業回数別教育内容

- 1回 感染予防対策と保育環境

21世紀に入り日本と諸外国とのワクチンギャップが解消される中、新たに起きてきた予防接種に関わる問題について学ぶ。また乳幼児施設での感染症の危険性を下げる工夫、地域の子どもの健康状態のモニタリングについても学ぶ。

学習範囲：参考文献の5、6頁

2回 虐待予防

虐待死の死亡分析、社会的養護のあり方、虐待発生予防の支援モデルなどについて学ぶ。

学習範囲：参考文献の7頁

3回 口腔保健

低年齢からの歯科健診・保健指導、特定保健用食品の導入、イオン飲料の飲み方、口腔健康などについて学ぶ。

学習範囲：参考文献の8頁

4回 食育

家庭科の重視や栄養教諭のさらなる配置の必要性などについて学ぶ。

学習範囲：参考文献の10頁

5回 セーフティプロモーション

子どもの事故予防、感染症・食中毒・物理化学的環境要因の悪化など健康危機管理、犯罪被害・災害被害からの安全・安心・危機管理などについて、セーフティプロモーションの視点から学ぶ。

学習範囲：参考文献の15頁

6回 発達障害

増加しているとされる発達障害の現状と問題点、地域のサポートシステム構築について学ぶ。

学習範囲：参考文献の17頁

7回 貧困・格差社会

子どもが希望を持ち安全・安心で健康な生活が送れるような、子どもの貧困対策・格差是正政策について学ぶ。

学習範囲：参考文献の19頁

8回 1回（感染予防対策と保育環境）の内容について学びを深める

9回 2回（虐待予防）の内容について学びを深める。

10回 3回（口腔保健）の内容について学びを深める。

11回 4回（食育）の内容について学びを深める。

12回 5回（セーフティプロモーション）の内容について学びを深める。

13回 6回（発達障害）の内容について学びを深める。

14回 7回（貧困・格差社会）の内容について学びを深める。

15回 総合討議を行う。

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

第1課題【3,600字】

授業の第1～7回で取り上げた授業内容の中から、日本の子どもたちの健康状態を改善するために優先して対応すべきと考える3課題を選び、それぞれの課題と対応策を簡単にまとめた上で、3課題を選択した理由を説明しなさい。

No.

Q034

児童文化学特論

西園 政史

芸術を軸に児童文化を多角的に探究する

領域

児童文化学

2 単位

通信

到達目標

- ①この授業では、未来の児童文化を思考するために、芸術という側面から児童文化について探究することを目的とする。
- ②そして、社会・環境・感覚・経験・制度と、芸術を構成する一部の要素から理解を深めることで、児童文化を多角的に捉える視点を構築することを目的とする。

学習成果

- ①この授業では、未来の児童文化について、芸術という側面から探究することができる
- ②社会・環境・感覚・経験・制度といった、芸術を構成する一部の要素から理解を深め、児童文化を多角的に捉える視点を構築することができる。

基本文献

- ①川勝泰介編著『よくわかる児童文化』（ミネルヴァ書房）
- ②子どもと保育総合研究所編『子どもを「人間としてみる」ということ：子どもとともにある保育の原点』（ミネルヴァ書房）
- ③北川フラム『ひらく美術—地域と人間のつながりを取り戻す』（ちくま新書）
- ④ジョン・デューイ『経験としての芸術』（晃洋書房）

参考文献

- ・茂木健一郎『脳とクオリア なぜ脳に心が生まれるのか』（講談社）
- ・ジョン・デューイ『経験と教育』（講談社）
- ・佐伯胖『共感—育ち合う保育のなかで』（ミネルヴァ書房）

評価の要点

レポートについて以下の内容で評価する。

- ①課題に合った論述が展開されている
- ②幅広い文献探索に基づいている
- ③形式が整っている
- ④発想に独創性がある

評価方法と採点基準

評価方法) レポート内容について、授業内で使用した文献を基に、独創的な考えをもって考察できているかを評価する

採点基準) レポート100%

履修上の注意事項や学習上の助言

児童文化について、その土台となる人間、または子どもの姿について、多角的に学ぶ。そのため、常に児童文化の視点を持ち、得た情報と自らの思考を合わせ、新たな発想をもって受講すること。

授業回数別教育内容

- 1回 子どもの生活環境と遊びの変容
子どもにとっての「遊び」について理解する
〈身につく資質・能力〉児童文化を支える子どもの遊びを知る 〈学習範囲等〉文献① 3 (予習30分)
- 2回 幼児教育はなぜ生涯にわたる人間形成の基礎といわれるのか (1)
子どもの行為のなかで起こる学びについて、事例とともに理解する
〈身につく資質・能力〉児童文化を支える子どもの学びを知る 〈学習範囲等〉文献② 第I部 (予習30分)
- 3回 幼児教育はなぜ生涯にわたる人間形成の基礎といわれるのか (2)
子どもの行為のなかで起こる学びについて、事例とともに理解する
〈身につく資質・能力〉児童文化を支える子どもの学びを知る 〈学習範囲等〉文献② 第I部 (予習30分)
- 4回 子どもを「人間としてみる」ことについて
子どもの姿を通して、子どもの本質を理解する
〈身につく資質・能力〉児童文化を支える子どもの姿を知る 〈学習範囲等〉文献② 第II部 (予習30分)
- 5回 子どもとともにあるおとなの在り方
子どもの姿を通して、おとなの在り方を理解する
〈身につく資質・能力〉子どもの姿からおとなの在り方を知る 〈学習範囲等〉文献② 第II部 (予習30分)
- 6回 子どもを丁寧にみるということ
子どもの姿の理解を通して、子どもをみるということを理解する
〈身につく資質・能力〉子どもの姿からおとなの在り方を知る 〈学習範囲等〉文献② 第II部 (予習30分)

- 7回 人とかかわりのなかで育つ「学び」とは
かかわりの姿から、「学び」の本質を理解する
〈身につく資質・能力〉子どもの学びについて知る 〈学習範囲等〉文献② 第Ⅱ部（予習30分）
- 8回 児童文化政策と児童文化運動・活動（1）
児童文化に関わる環境について理解する
〈身につく資質・能力〉児童文化政策を知る 〈学習範囲等〉文献① 7～10（予習30分）
- 9回 児童文化政策と児童文化運動・活動（2）
児童文化を支える制度について理解する
〈身につく資質・能力〉児童文化政策を知る 〈学習範囲等〉文献① 11（予習30分）
- 10回 地域と人間のつながりを取り戻すために、子どもにできること（1）
地域が支えるアートイベントに子どもが参加するとしたら、どのような形がベストか。想像し理解を深める。
〈身につく資質・能力〉アートイベントと社会について知る 〈学習範囲等〉文献③ 全体（予習30分）
- 11回 地域と人間のつながりを取り戻すために、子どもにできること（2）
地域が支えるアートイベントに子どもが参加するとしたら、どのような形がベストか。想像し理解を深める。
〈身につく資質・能力〉アートイベントと社会について知る 〈学習範囲等〉文献③ 全体（予習30分）
- 12回 一つの経験をするとということ（1）
人間のもつ経験について理解を深める
〈身につく資質・能力〉人間の経験について知る 〈学習範囲等〉文献④ 第3章（予習30分）
- 13回 一つの経験をするとということ（2）
人間のもつ経験について理解を深める
〈身につく資質・能力〉人間の経験について知る 〈学習範囲等〉文献④ 第3章（予習30分）
- 14回 哲学に対する挑戦
経験と環境との相互作用について理解を深める
〈身につく資質・能力〉子どもの経験と環境との相互作用について知る 〈学習範囲等〉文献④ 第12章（予習30分）
- 15回 これまでの学びのまとめ
〈身につく資質・能力〉振り返りまとめる力 〈学習範囲等〉文献①～④

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【3000字程度】

子どもの姿について論じなさい。

※自分の生活経験や身近な環境から一例上げて、論じること

※レポートの構成は、(1) はじめに (2) 事例 (3) 終わりに、の構成で行うこと。

第2課題【3000字程度】

これからの児童文化の方向性、または新たな概念を論じなさい。

※レポートを書く際には、授業で使用した文献から参考・引用し論じること

※参考・引用文献を示すこと

No.

Q039

児童音楽特論

数中 征代

子どもと音楽

領域

児童文化学

2 単位

通信

到達目標

目的

文化は受け継いでいく面と創造して再生していく面とを併せもつということを念頭において、乳幼児期から児童期における文化環境について、音楽を基軸としてとらえ、その変化を心理学的に探究することを目的とする。

到達目標

- ①保育の場において「子どもの表現活動」についての心理学的考察を行うことができる。
- ②子どもの発達に即した「子どもの表現活動」について説明することができる。
- ③音楽環境が子どもに与える影響について考察することができる。

学習成果

- ①子どもの表現活動がもつ意味について、事実を正確にとらえて実証的に考察する研究態度を獲得できる。
- ②子どもの発達に即した表現活動の指導法の諸課題を、この分野の研究がどのように解決しているかを把握することができる。
- ③子どもの実態に即した音楽環境を構成し、提案することができる。

基本文献

小川容子・今川恭子編著『音楽する子どもをつかまえない—実験研究者とフィールドワーカーの対話』（ふくろう出版）2008
 星野悦子編著『音楽心理学入門』（誠信書房）2016

参考文献

日本赤ちゃん学会監修『乳幼児の音楽表現 赤ちゃんから始まる音環境の創造』（中央法規出版）2016
 谷口高士編著『音は心の中で音楽になる』（北大路書房）2000
 梅本堯夫『子どもと音楽—シリーズ人間の発達Ⅱ』（東京大学出版会）1999

評価の要点

1. レポートについて
 - ①課題にあった論述が展開されている。
 - ②幅広い文献探索に基づいている。
 - ③形式が整っている。
 - ④独創的な発想が加味されている。
2. 科目修了試験について
 - ・乳幼児から児童期における表現活動について、心理的視点から考究できる。

評価方法と採点基準

評価の要点に基づいて、レポート課題と科目修了試験によって評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・スタディ・ガイドに紹介されている文献をすべて丁寧に読みこなしてください。自分の経験やインターネットの記事を基に回答するのではなく、参考文献も含めて複数丁寧に読むことが大切です。
- ・レポート課題：テキストや関連する文献を読み、論点を整理し、字数が不足しないように留意してください。
- ・科目修了試験：字数を守り、誤字脱字のないように推敲し記述してください。

授業回数別教育内容

- 1回 子どもと音楽—その出会い
 〈身につく資質・能力〉望ましい音楽環境 〈学習範囲等〉音楽環境が与える影響について理解する
- 2回 子どもはどうやって学ぶのか—音楽と子どものかかわり方①
 〈身につく資質・能力〉音楽学習の理解 〈学習範囲等〉事例を通して子どもの音楽学習の方法について理解する
- 3回 子どもはどうやって学ぶのか—音楽と子どものかかわり方②
 〈身につく資質・能力〉音楽学習の理解 〈学習範囲等〉事例を通して子どもの音楽学習の方法について理解する
- 4回 なぜ子どもはわらべうたが好きなのか
 〈身につく資質・能力〉わらべうた教育の理解 〈学習範囲等〉わらべうた教育の理解と今後の展開
- 5回 音楽教育のメソッド①—ジャック＝ダルクローズアプローチ
 〈身につく資質・能力〉ジャック＝ダルクローズアプローチの理解 〈学習範囲等〉音楽教育メソッドの理解
- 6回 音楽教育のメソッド②—オルフ・アプローチ
 〈身につく資質・能力〉オルフ・アプローチの理解 〈学習範囲等〉音楽教育メソッドの理解

- 7回 音楽教育のメソッド③—コダーイ・メソッド
〈身につく資質・能力〉コダーイ・メソッドの理解 〈学習範囲等〉音楽教育メソッドの理解
- 8回 子どもの「声」を考える—歌声と話し声
〈身につく資質・能力〉子どもの歌声の理解 〈学習範囲等〉子どもの歌声と話し声について理解する
- 9回 子どもの音声表現の発達—アクションリサーチからの報告
〈身につく資質・能力〉音声表現のアクションリサーチの理解 〈学習範囲等〉音声表現の発達を理解する
- 10回 音楽の環境—サウンドスケープと効果音
〈身につく資質・能力〉環境音楽の理解 〈学習範囲等〉豊かな環境とは何かを理解する
- 11回 音楽心理学とは何か
〈身につく資質・能力〉音楽心理学について理解する 〈学習範囲等〉音楽心理学の定義、方向性、研究領域の理解
- 12回 子どもの音楽的な発達—乳児期
〈身につく資質・能力〉乳児期の研究法について理解する 〈学習範囲等〉乳児期の発達と音楽の理解
- 13回 子どもの音楽的な発達—幼児期
〈身につく資質・能力〉幼児期の研究法について理解する 〈学習範囲等〉幼児期の発達と音楽の理解
- 14回 子どもの音楽的な発達—児童期
〈身につく資質・能力〉児童期の研究法について理解する 〈学習範囲等〉児童期の発達と音楽との関係
- 15回 子どもの学びと育ちの姿—子どもと音楽との関わりの姿
〈身につく資質・能力〉歌唱・楽器指導・環境の視点からの理解 〈学習範囲等〉音楽教育の実践の理解

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字以内】

子どもにとって望ましい音楽環境について、具体的な事例を示して発達の視点から論じなさい。

第2課題【2400字以内】

子どもの音楽に関する心理学的論文を取り上げ、明らかになっている点、課題を明確にし、今後追究したいテーマについて論じなさい。

No.

Q024

保育表現特講

大成 哲雄・
西園 政史

領域

児童文化学

2 単位

通信

到達目標

「子どもとあそび、表現活動」について発達過程に則して研究をする。それを受けて内外の文献を基に表現の意義・内容・方法・評価などについて理論的な考察を行う。また、実践的な経験としても活かせるようにするために、保育の実践現場における表現活動について地域も視野に入れ多様な手段を用いて考究する。

基本文献

子どもと保育総合研究所 編『子どもを「人間としてみる」ということ: 子どもとともにある保育の原点』(ミネルヴァ書房)
磯部錦司・福田泰雅著『保育のなかのアート』(小学館)

参考文献

大場牧夫著『表現原論』(明文書林)
磯部錦司『子どもとアート』(小学館)
古橋和夫編著『保育者のための言語表現技術』(明文書林)

授業回数別教育内容

- 1回 「幼児期の遊びを思い出す」
〈身につく資質・能力〉保育の基本である遊びについて理解し、子どもと一緒に遊ぶことができる。
〈学習のポイント〉年齢・場所・仲間・遊び名などを手がかりにする。
- 2回 「幼児の遊びを観察する」
〈身につく資質・能力〉保育の基本である遊びについて理解し、子どもと一緒に子どもと一緒に遊ぶことができる。
〈学習のポイント〉年齢・場所・仲間・遊び名などに注目する。
- 3回 「遊びの中で“心が動くこと”について考察する」
〈身につく資質・能力〉子どもの感動について理解し、子どもの思いに共感できる。
〈学習のポイント〉子どもの発達と心理について理解する。
- 4回 「“感性”について考察する」
〈身につく資質・能力〉表現の基本である感性について理解し、子どもの気持ちが理解できる。
〈学習のポイント〉五感について理解する。
- 5回 「“表現”について考察する」
〈身につく資質・能力〉保育の基本である表現について理解し、子どもとともに表現活動を楽しむことができる。
〈学習のポイント〉幼児の表現活動について理解する。
- 6回 「“ごっこあそび”について考察する」
〈身につく資質・能力〉読み聞かせなどから始まるごっこあそびについて理解し、発展のための援助が出来る。
〈学習のポイント〉自らの遊びの体験を思い出すことによって、その過程を理解する。
- 7回 「“劇的な表現”について考察する」
〈身につく資質・能力〉ごっこ遊びや、劇表現などについて理解し、子どもと一緒に劇的な表現を楽しむことができる。
〈学習のポイント〉日常保育における劇的な表現と、発表会などでの表現活動に注目する。
- 8回 「造形表現 幼児の造形 絵に表す(1)」
基本文献『子どもの造形表現』の中から絵画表現に関するものを選び制作を行う。
〈身につく資質・能力〉絵画表現についての基本的な事柄が理解出来る。
〈学習のポイント〉素材、道具の使い方、環境にも気を使う。
- 9回 「造形表現 幼児の造形 絵に表す(2)」
基本文献『子どもの造形表現』の中から絵画表現に関するものを選び制作を行ったのち、感想、理解した事、身に付く力をポートフォリオにまとめる。
〈身につく資質・能力〉絵画表現についての基本的な事柄が理解出来る。
〈学習のポイント〉子どもが行った場合を想定して考える。
- 10回 「造形表現 幼児の造形 立体に表す(1)」
基本文献『子どもの造形表現』の中から立体表現に関するものを選び制作を行う。
〈身につく資質・能力〉立体表現についての基本的な事柄が理解出来る。
〈学習のポイント〉素材、道具の使い方、環境にも気を使う。
- 11回 「造形表現 幼児の造形 立体に表す(2)」
基本文献『子どもの造形表現』の中から立体表現に関するものを選び制作を行ったのち、感想、理解した事、身に付く力をポートフォリオにまとめる。
〈身につく資質・能力〉立体表現についての基本的な事柄が理解出来る。
〈学習のポイント〉子どもが行った場合を想定して考える。
- 12回 「造形表現 幼児の造形 グループ活動(1)」

『保育のなかのアート』からグループ表現に関するものを選び、出来る範囲で同様な活動を行う。地域で行われるアートプロジェクト、造形ワークショップ、グループ活動の他の事例を集める。

アートパークプロジェクト <http://artpark.exblog.jp/>

芸術士のいる保育所 <http://geijyutsushi.archipelago.or.jp/>

〈身につく資質・能力〉グループ活動についての基本的な事柄が理解出来る

〈学習のポイント〉子どもが行った場合を想定して考える。

13回 「造形表現 幼児の造形 グループ活動(2)」

造形のグループ活動の意義をまとめる。

〈身につく資質・能力〉グループ活動についての基本的な事柄が理解出来る

〈学習のポイント〉人間関係や言葉、音楽表現の領域との関連も考える。

14回 「造形表現 美術館の教育普及活動」美術館の教育普及活動に複数の事例について調べ、比較、検討する。

参考「美術館のワークショップ 世田谷美術館25年間の軌跡」

〈学習のポイント〉インターネットで全国の美術館の教育普及活動について調べる。

15回 まとめ

〈身につく資質・能力〉保育表現について総合的に理解できる。

〈学習のポイント〉実技をととして体験的に理解した事を他の領域や文献、資料と繋げて総合的に考える。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1 課題【2400字程度】

子どもの世界に生まれる表現の重要性について、あなたの考えを論じなさい

(1)あなたが目にした具体的な場面を基に、

(2)基本文献、参考文献からの引用を用いて、論理的に説明すること。

※レポートの構成は、(1)はじめに (2)事例 (3)終わりに、の構成で行うこと。

第2 課題【1200字以内】

基本文献『子どもの造形表現』、『保育のなかのアート』の中でとりあげられているアートプロジェクト、ワークショップまたは同様の事例を調べ、その活動の意義について論じなさい。

※できればアートプロジェクト、ワークショップ（美術館の企画する教育普及等のワークショップでもよい）に参加し体験を踏まえ論じられるとよい。その場合本文に写真資料があるとよい。

※『子どもの造形表現』、『保育のなかのアート』のいずれかから引用があるとよい。

No.

Q025

保育表現演習

幸田 眞希・大成 哲雄・
西園 政史

領域

児童文化学

2 単位

通信

面接

到達目標

保育表現における子どもの活動について、実践的な場での表現の目標・内容・方法・評価等に関して、理論的・実践的な研究を行うことで、演習を通して実践者としての感性を洗練させるとともに、表現のアイデア開発を行う。

あわせて、保育の実践現場等における表現活動の状況について分析・考察等を行い、保育表現の理論や実践について体験的に把握することを目指す。

学習成果

研究方法の一端を知り、それに基づいて文献（先行研究）を調べて実技を行う。理論と実践を結び付けて子どもの発達を研究することができる。

基本文献

北沢昌代、畠山智宏、中村光絵著『子どもの造形表現』（開成出版）
磯部錦司、福田泰雅著『保育のなかのアート』（小学館）

参考文献

大場牧夫著『表現原論』（萌文書林）
古橋和夫編著『保育者のための言語表現技術』（萌文書林）

評価の要点

感想、理解した事を今日の幼児の造形指導の課題と展望と共に論じ、体験的に理解した事を記録写真、文献や実践事例と繋げて考えることができる。

評価方法と採点基準

感想、理解した事を今日の幼児の造形指導の課題と展望と共に論じ、体験的に理解した事を記録写真、文献や実践事例と繋げて考えることができるかを総合的に判断する。

ドキュメンテーションの方法についての理解度。

履修上の注意事項や学習上の助言

実技を行う際は、動きやすく汚れても良い服装で行う。デジタルカメラ、スマートフォン等写真撮影ができるようにする。適切な用具を用意する。

授業回数別教育内容

- 1回 「研究方法の理解」
〈身につく資質・能力〉研究方法の一端を理解するとともに幼児期・少年期・青年期の発達課題について先行研究を幅広く検索し知見を広げる。
参考：依田 新監修『新教育心理学事典』金子書房・他：文献検索
〈学習のポイント〉研究方法の一端を理解し文献を読み解く力。
- 2回 「幼児の発達と描画表現」
〈身につく資質・能力〉幼児の表現についての理解（幼児の発達と描画表現についてエング『子どもの描画心理学』他を検索して調べ理解する力）。
〈学習のポイント〉幼児の個人的発達と描画表現
- 3回 「児童の発達と描画表現」
〈身につく資質・能力〉児童の発達と描画表現についてエングの『子どもの描画心理学』により学ぶ。
〈学習のポイント〉幼児期と児童期の描画表現について。
- 4回 「各年齢群の子ども達の発達と描画表現傾向」
〈身につく資質・能力〉各年齢群の子ども達の発達と描画表現傾向について、ケロッグの『児童画の発達過程』他を調べ理解する力。
〈学習のポイント〉同年齢群の子供たちの描画表現の世界的傾向についての理解。
- 5回 「絵画表現の概観」
〈身につく資質・能力〉ハワード・ガードナーの『子どもの描画』他を通読し、なぐり描きから芸術に至るまでの絵画表現の概観を理解する。
〈学習のポイント〉描画の発達過程についての理解。
- 6回 「子どもの描画表現と心の発達」
〈身につく資質・能力〉モリーン・コックスの『子どもの絵と心の発達』他を読み他の参考文献と比較考察する力。
〈学習のポイント〉子どもの描画表現と心の発達。
- 7回 「美術教育の課題」
〈身につく資質・能力〉モリーン・コックスの『子どもの絵と心の発達』の中で「絵をどう教えるか」の提言を受けて、幼時期・少年期・

青年期における我が国や米国の学校教育のカリキュラムについて調べ、教師の今後の役割について考察する。

参考：エリオット・W. アイスナー『美術教育と子どもの知的発達』、小学校・中学校・高等学校の各「学習指導要領解説」文部省〈学習のポイント〉美術教育における幼・少・青年期の課題と指導。

8回 「〇〇〇」以下は演習部分なので必要であれば…

演習 幼児の造形 教材開発(1) 紙を使った活動

〈身につく資質・能力〉造形素材としての紙に着目し、その可能性を体験的に学修する。

〈学習のポイント〉平面から立体にする様々な方法を考える。

9回 演習 幼児の造形 教材開発(2) 光を使った活動

〈身につく資質・能力〉空間の中で作品がどのように見えるか、光の作品を例に考えることができる。

〈学習のポイント〉LEDライト等とその他の素材を組み合わせて表現する。

10回 演習 幼児の造形 教材開発(3) 自然物を使った活動

〈身につく資質・能力〉自然物の色、形、質感に着目し表現出来る。

〈学習のポイント〉自然物の形から、点、線、面の組み合わせを考える。

11回 演習 対話型鑑賞

参考「モナリザは怒っている!?!」「風神雷神はなぜ笑っているのか」

〈身につく資質・能力〉対話型鑑賞の方法を理解し、鑑賞活動の意味を理解できる。

〈学習のポイント〉鑑賞力を高めると共に言葉の領域との関連も考える。

12回 演習 絵本の製作

〈身につく資質・能力〉絵本の表現の特徴を理解する。絵本の要素を理解し、優れた作品を選択できる。

〈学習のポイント〉絵本の絵と文の関係に着目し、相互の関係を理解する。

13回 演習 紙芝居の製作

〈身につく資質・能力〉紙芝居の表現の特徴を理解する。紙芝居の要素を理解し、優れた作品を選択できる。

〈学習のポイント〉紙芝居の絵と脚本の関係に着目し、相互の関係を理解する。

14回 演習 人形劇の人形の製作

〈身につく資質・能力〉人形劇の表現の特徴を理解する。人形劇の要素を理解し、優れた作品を選択できる。

〈学習のポイント〉人形的美術（造形的側面）と操作（動かし方）と脚本の関係に着目し、表現の基本を理解する。

15回 まとめ

〈身につく資質・能力〉保育における表現について文献や実践をとおして総合的に理解できる。

〈学習のポイント〉振り返りをし、保育表現について考える。

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

⚠ 写真、図示などは文字数外とする。

第1課題【1200字以上】

テキスト教材『子どもの造形表現』、『保育のなかのアート』から題材や実践事例を選び、アレンジし制作やプロジェクト実践を行う。過程の中で気づいたことをドキュメンテーションとしてレポートにまとめ、造形指導の課題と展望と共に論じなさい。（1200字以上）

※〈留意点〉

- 1、幼児と共に行える事がのぞましいが難しいようなら個人でやってもよい。
- 2、過程を写真に撮り、キャプションもつける。10枚以上
- 3、引用文献、参考文献も記すこと

No.

Q041

児童臨床教育学演習

鈴木 由美・沢崎 真史・
腰川 一恵・東原 文子

領域

2 単位

通信

面接

関連科目

到達目標

ねらいと目標

本講は臨床心理学特論、学校心理学特論、学校カウンセリングなど、臨床心理学の基礎的科目を履修してから受講して欲しい。講義では、援助が必要な子ども達（発達障害の子ども、情緒的な問題を抱える子ども、いじめ・不登校など問題を抱える子ども等）には、どのような種類があり、どのような問題を抱えているかを学習する。後半では、援助を必要とする子ども達に、具体的にどのような援助を行うかを面接授業で提示する。面接授業は事例検討会の形式を採用するので、参加者は自身の体験例を持参するのが望ましい。面接授業を通して、具体的な援助の方法、問題の捉え方、考え方を学習することが本講の目標となる。

内容

本講義では、以下の如く大きく二つに分かれる。前半では講義形式、後半は面接授業となる。(1) 問題行動の概要(種類と原因)、(2) 援助方法、(3) 事例報告書の書き方、(4) 事例検討会——①、(5) 事例検討会——②

基本文献

松本真理子・金子一史『子どもの臨床心理アセスメント』（金剛出版）2010
山本力・鶴田和美編著『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』（北大路書房）2001
下山晴彦著『臨床心理アセスメント入門』（金剛出版）2008

評価の要点

レポートの提出状況と面接授業への出席、事例報告書の提出

履修上の注意事項や学習上の助言

スクーリング時に、下記の書籍を購入して手元に用意することもできる。
学校心理士認定運営機構編『学校心理士ケースレポートハンドブック』（風間書房）2021

授業回数別教育内容

- 1回 援助が必要な問題行動の概要（種類と原因）
- 2回 心理的要因が主となって生ずる問題行動—①
- 3回 心理的要因が主となって生ずる問題行動—②
- 4回 発達上の要因が主となって生ずる問題行動—①
- 5回 発達上の要因が主となって生ずる問題行動—②
- 6回 その他の援助を必要とする問題行動
- 7回 事例検討会提出用レポートの書き方
- 8～14回 事例検討会
- 15回 まとめ

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

注意) 第1課題を事前に提出し、スクーリングを受講すること。
スクーリング用課題は、スクーリングの際に使用しますので、仕上げておくこと。意見交換し、終了後提出していただきます。

第1課題【各800字】

次の3つの項目を、それぞれ800字以内で分かりやすく解説しなさい。

- 1 神経症様の状態を示す児童
- 2 心身症（身体表現性障害）の状態を示す児童
- 3 学習障害を示す児童

スクーリング用課題（スクーリング時に使用、終了後提出）【2400字程度】

自身が援助した児童、あるいは自身の周囲で見かけた（同僚等が支援している）児童について、事例報告の形で記述すること。

No.

Q036

障害児心理学特論

腰川 一恵

領域

2 単位

通信

関連科目

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（7. 特別支援教育領域）です。

到達目標

特別支援教育の体制について学び、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級および通常学級に在籍する発達障害のある児童・生徒に対する実態把握や支援体制について理解を深める。また、発達障害のある児童・生徒の障害特性を理解し、支援方法の基本を学び、学校現場における事例の支援を検討できる基礎を養う。

基本文献

菅野敦・宇野宏幸・橋本創一・小島道生『特別支援教育における教育実践の方法』（ナカニシヤ出版）2006年
筑波大学特別支援教育研究センター・前川久男編『特別支援教育における障害の理解』（教育出版）2006年

評価の要点

レポートについては、課題で求められていることを的確にとらえることが重要です。課題の内容に関して基本文献や参考文献を踏まえて基本的な内容が理解されているか、具体例も交えながら意見を的確にかつ論理的に述べているかについて評価します。

履修上の注意事項や学習上の助言

学校現場における特別支援教育に関する内容を学習されることが必須となります。基本文献、参考文献を利用して、特別支援教育に関する基本的な知識を得てください。現在、学校現場では特別支援教育がどのように行われているのか、良い点、課題は何かという目的意識を持って文献を探して読まれたり、現場に足を運ぶことも理解を深めることになるでしょう。それぞれの障害については、基本的な知識を基本文献、参考文献で学んだ上で、障害のある児童・生徒の事例について他の文献を探され、障害のある児童・生徒の具体的な困難さや支援のあり方について学ぶことが障害の理解につながります。

授業回数別教育内容

1回 特別支援教育とは	9回 知的障害の理解と支援
2回 障害の概念と特別な教育ニーズ	10回 LDの理解と支援
3回 実態把握と相談支援	11回 自閉症の理解と支援
4回 個別の指導計画と個別の教育支援計画	12回 高機能自閉症・アスペルガーの理解と支援
5回 特別支援教育コーディネーターとは	13回 ADHDの理解と支援
6回 校内委員会と支援体制	14回 特別支援学校、特別支援学級における教育課程と支援技法
7回 特別支援学校のセンター的機能とは	15回 通常学級に在籍する児童への指導方法
8回 発達障害とは	

レポート課題

提出数
2手書き
不可

第1課題【2400字程度】

下記の3題から1題を選び、選択番号を明記の上解答しなさい。

- 1 学校現場における特別支援教育の意義について論じなさい。
- 2 個別の教育支援計画および個別の指導計画について説明し、その作成と実践の意味するところは何かについて考察しなさい。
- 3 特別支援学校のセンター的機能について説明し、地域支援におけるセンター的機能の役割について考察しなさい。

第2課題【2400字程度】

下記の3題から1題を選び、選択番号を明記の上解答しなさい。

- 1 学校現場における特別支援教育コーディネーターについて説明し、特別支援教育コーディネーターの資質として必要である点について論じなさい。
- 2 発達障害児・者を理解し、支援するためにはどのような観点が必要になるかについて考察しなさい。
- 3 小・中学校通常学級に在籍する発達障害児に対する支援のあり方について、特別支援教育の現状を踏まえて考察しなさい。

No.

Q035

教育心理学特論

小野瀬 雅人

学習指導と支援の心理学的基礎を学ぶ

領域

2 単位

通信

関連科目

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（2. 教授・学習心理学領域）です。

到達目標

教育心理学の知識や考えを、教育現場での具体的な問題に即して理解し、それに基づいて効果的な学習指導（保育指導）や支援の方法を考えることができる。具体的には、学習のメカニズムや効果的な学習指導法、学習意欲のメカニズム、教師と子どもの相互関係、学級集団のメカニズム等を理解し、これらの視点から学習指導（保育指導）について考え、その効果を観察・考察すること、また、子どもの意欲的な活動を促し、発達を支援することができる。

学習成果

学習と記憶の基本的なメカニズムについて、さらに、問題解決の方略や知識の獲得について学習することによって、授業や保育指導について、教育心理学の視点から考えた効果的な学習指導を設計することができる。

動機づけ、学習意欲、学習指導法の効果について学習し、学習者の意欲を高め、指導の充実を図ることができる。

教師の指導性や学習者との関わり方が学習者に及ぼす影響力や効果を踏まえて、適切な指導や支援ができる。

基本文献

梶田 勲「教育心理学への招待」（ミネルヴァ書房）

評価の要点

教育心理学の基礎的知識の理解度およびそれを具体例や実験例、実践場面に適用して考えられるかによって、応用力、実践力をみる。

評価方法と採点基準

レポート

レポートの内容が評価の要点を満たしているかおよびレポートの構成、論旨の明確さや形式が適当かによって評価する。

科目終了試験

レポート課題に関する学習内容および「学習と研究の課題」に関する学習内容の理解。

履修上の注意事項や学習上の助言

レポート課題および「学習と研究の課題」に沿って学習を進めること。

受講生が教育実践に関わっている場合は、学習内容を実践場面に当てはめて、観察、分析、考察等を行い、より理解を深めること。

授業回数別教育内容

- 1回 教育心理学とは
〈身につく資質・能力〉心理学的視点 〈学習のポイント〉教育の問題点
- 2回 学習の理論（学習のメカニズム、行動主義と認知理論）
〈身につく資質・能力〉学習理論 〈学習のポイント〉学習の成立
- 3回 学習と動機づけ：強化と外発的動機づけ、内発的動機づけ
〈身につく資質・能力〉動機づけの効果 〈学習のポイント〉強化、好奇心
- 4回 知的好奇心、達成動機と学習性無力感、原因帰属、自己効力感
〈身につく資質・能力〉意欲の仕組み 〈学習のポイント〉学習意欲
- 5-6回 記憶のメカニズム、精緻化リハーサル、記憶のカテゴリー化・体制化、記憶の処理水準、スキーマ理論、記憶の変容
〈身につく資質・能力〉記憶の仕組みと有意体化 〈学習のポイント〉記憶の仕組み
- 7-8回 知識の獲得と理解：知識のネットワーク・階層性・体制化、宣言的知識と手続き的知識、記憶の再生と検索
〈身につく資質・能力〉知識の獲得と体制化 〈学習のポイント〉知識の獲得と理解
- 9回 問題解決と学習
〈身につく資質・能力〉問題解決方略 〈学習のポイント〉問題解決とは
- 10-12回 授業づくり①：プログラム学習、意味受容学習と先行オーガナイザー、発見学習、自主学習、一斉指導と個別指導、集団学習と個別学習、視聴覚教育の有効性
〈身につく資質・能力〉各指導法の特徴と効果 〈学習のポイント〉学習指導法
- 13-14回 授業づくり②：指導技術（授業での情報の種類、教師の話し方、発問の効果、教材づくり、ワークシート）
〈身につく資質・能力〉効果的な授業 〈学習のポイント〉指導技術
- 15回 教師と子ども：教師期待効果、教師の見方と子どもの学習成績・自己評価、教師の影響力、教師の指導性・PM理論
〈身につく資質・能力〉教師の影響力と指導効果 〈学習のポイント〉教師と学習者の関係
- 試験 評価方法と採点基準に記した内容に基づいて実施する。

レポート課題

提出数
2手書き
不可

⚠ 参考文献、引用文献は必ず明記のこと

第1課題【2400字程度】

下記の3題から1題を選び、選択番号を明記の上解答しなさい。

- 1 知的好奇心を喚起する条件を3つあげ、それぞれに対応する実験、授業、或いは保育指導の具体例を通して、指導効果を論じなさい（第3、4講）。
- 2 スキーマの形成と学習効果について、授業場面や実験例を中心に論じなさい（第5、6講）。
- 3 「イメージ化」の効用について説明し、言語による精緻化に対して、絵画を使用するような「イメージ化」による精緻化が、特にどのような学習材料に有効かを具体例を挙げて論じなさい（第7、8講）。

第2課題【2400字程度】

4題中1題を選択し、選択番号を明記の上解答しなさい。

- 1 有意味受容学習について概括し、先行オーガナイザーがどのようなタイプの学習に有効か、また発達的に見てどのような対象に効果的かを論じなさい（第10～12講）。
- 2 プログラム学習について概括し、その長所と問題点、活用の可能性について論じなさい（第10～12講）。
- 3 教師の指導技術の評価項目について考えなさい（第13、14講）。
- 4 教師の指導性が子どもの学習意欲や学級・学校への適応にどう影響するかを論じなさい（第15講）。

No.

Q042

学校心理学特論

山口 豊一・
石川 満佐育

2 単位

通信

領域

関連科目

到達目標

- ①一人ひとりの子どもを対象とした心理教育的援助サービスの理論と実践の体系である「学校心理学」について、その基本的な概念、理論的体系、実践について理解する。
- ②問題状況のアセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションに焦点をあてて、その方法について理解する。
- ③現代の子どもがもつ学校生活での問題とその援助について検討する。

学習成果

- ①心理教育的援助サービスについて、学校での具体的な教育や援助と結びつけて述べることができる。
- ②子どもの問題状況に関する見立て、具体的な援助方針の策定ができる。
- ③教師など、子どもに関わる援助者との連携について理解することができる。
- ④学校の人的資源・物的資源の活用について理解し、実践に活かすことができる。

基本文献

水野治久・家近早苗・石隈利紀（編）「チーム学校での効果的な援助：学校心理学の最前線」（ナカニシヤ出版）2018
 日本学校心理学会（編）『学校心理学ハンドブック第2版－「チーム」学校の充実を目指して－』（教育出版）2016
 石隈利紀・田村節子『新版チーム援助入門－学校心理学・実践編－』（図書文化）2018
 学校心理士資格認定委員会（著、編集）『学校心理学ガイドブック第4版』（風間書房）2020
 山口豊一（編）石隈利紀（監）『新版学校心理学が変える新しい生徒指導』（学事出版）2020
 学校心理士認定運営機構（編）『学校心理学ケースレポートハンドブッカー－子どもの援助に関わる教師・スクールカウンセラーのために－』（風間書房）2021

評価の要点

- ①子どもへの心理教育的支援サービス事業を実施する際に必要な基礎的な知識を習得している。
- ②学校心理学の特徴を踏まえた子どもへの心理教育的援助サービスに関するアセスメントができる。
- ③子どもの持つ資源についてのアセスメントと、それを活用した援助案を作成することができる。
- ④学校組織特性を踏まえた心理教育的援助サービスを実施できる。
- ⑤論理的な思考、文章表現ができる。

評価方法と採点基準

レポートは次のような観点で評価する。

- ①一方的な自説の主張ではなく、学校心理学及びその関連領域の諸心理学の知見に基づいたのもであること。
- ②分かりやすい文章で書かれており、具体的論理的に記述されていること。
- ③先行文献や他者の文章の盗用ではなく、それらをもとに記述者が考察を深め、記述されていること。
- ④記述者自身の体験は、上述の①～③と論理的なつながりの中で記述されている場合のみ、評価の加算の対象とする。

履修上の注意事項や学習上の助言

基本文献だけではなく、学校心理学に関する文献や論文をたくさん読み実践と研究について学びを深めて下さい。主な関連学術雑誌は、「学校心理学研究」「日本学校心理士会年報」「教育心理学研究」「LD研究」「カウンセリング研究」「コミュニティ心理学研究」「心理臨床学研究」などです。

授業回数別教育内容

- 1回 学校心理学とは 子どもや学校、社会が変わるなかで、学校生活の質を高める援助をどう行うか。学校心理学の定義と必要性について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉学校心理学の学問体系の把握
 〈学習のポイント〉心理教育的援助サービス、援助資源、自助資源
- 2回 心理教育的援助サービスとは 援助サービスの対象（誰を援助するか）、援助サービスの焦点（何を援助するか、学習面、心理・社会面、進路面、健康面など）、援助サービスの場（どこで援助するか）について学ぶ。
 〈身につく資質・能力〉学校心理学の目指す援助サービスの特質の理解
 〈学習のポイント〉学習面、心理・社会面、進路面、健康面、四種類のヘルパー
- 3回 アメリカ・英国などにおける学校心理学と日本における学校心理学 アメリカ・イギリスの学校心理学、香港・台湾の学校心理学について知り、日本の学校心理学の歴史と現状について学ぶ。「スクールサイコロジスト」や「学校心理士」の現状と課題について知る。
 〈身につく資質・能力〉日本の学校心理士と欧米の学校心理士の業務の違いに付いての理解
 〈学習のポイント〉School Psychologist、Educational Psychologist、RTI
- 4回 子どもを見る視点（個人としての子ども、学級・学校・家庭の中の子ども）子どもの適応上の問題を、子どもと環境の折り合いという

視点からとらえ、とくに教師の役割、スクールカウンセラーの役割について学ぶ。

〈身につく資質・能力〉子どもと環境の相互作用を折り合いという視点で理解できる

〈学習のポイント〉折り合い、生態学的モデル、学校生活の質

- 5回 3段階の心理教育的援助サービスと4種類の(多様な)援助者 3段階の心理教育的援助サービスのモデルを理解する。一次的援助サービス、二次的援助サービス、三次的援助サービスの関連について理解する。

〈身につく資質・能力〉3段階の心理教育的援助サービスに基づき援助について計画できる。

〈学習のポイント〉一次的・二次的・三次的援助サービス、自助資源、援助資源

- 6回 援助(アクション)のためのアセスメント・援助者自身のアセスメント アセスメント、教育評価などの意義について学ぶ。アセスメントのプロセスについて学ぶ。また、援助者としての自分の価値観のアセスメントと倫理について検討する。

〈身につく資質・能力〉心理教育アセスメントの情報収集

〈学習のポイント〉心理教育アセスメント、アセスメントのプロセス、援助者のピリーフ

- 7回 子ども・環境に関するアセスメントの方法 アセスメント、教育評価などの意義について学ぶ。そして子どもと環境の相互作用(学習スタイルと教授スタイルなど)に焦点をあてて、アセスメントの方法(観察法、記録書類の読み方、関係者の面接など)について学ぶ。

〈身につく資質・能力〉アセスメントの方法

〈学習のポイント〉生態学的アセスメント、学校、家庭、地域のアセスメント

- 8回 児童生徒へのカウンセリング 授業、面接、個別指導など、直接的な援助サービスとしてのカウンセリングについて学ぶ。とくに教師のできる援助、スクールカウンセラーのできる援助に焦点をあてる。

〈身につく資質・能力〉子どもへの援助の方針策定

〈学習のポイント〉開発的カウンセリング、カウンセリングの定義、教師の関わり

- 9回 カウンセリングにおける3種類の関わり 授業、面接、個別指導など、直接的な援助サービスについて学ぶ。とくに教師のできる援助、スクールカウンセラーのできる援助について「カウンセリングにおける3つの関わり」について学ぶ。

〈身につく資質・能力〉3種類の関わりと4種類のサポートを子どもへの関わりに活かす。

〈学習のポイント〉カウンセリングにおける3つの関わり、4種類のサポート

- 10回 学校におけるコンサルテーション 援助者同士のコンサルテーションおよび援助サービスのコーディネーションについて知り、コンサルテーションの意義とプロセスについて学ぶ

〈身につく資質・能力〉教師・保護者へのコンサルテーション

〈学習のポイント〉コンサルテーション、スーパービジョン、相互コンサルテーション

- 11回 学校におけるコーディネーション 学校の組織の特徴を把握しながらおこなう援助チームによる、学校にある援助資源のコーディネーションの理論と方法について学ぶ

〈身につく資質・能力〉学校組織のコーディネーション

〈学習のポイント〉コーディネーション委員会、援助資源のコーディネーション、システム

- 12回 援助者同士の協力によるチーム援助 援助チームの種類、学校・地域における援助サービスのシステムについて理解し、教師・スクールカウンセラーと保護者とのパートナーシップについて学ぶ。

〈身につく資質・能力〉援助チームによる情報収集

〈学習のポイント〉3段階の援助チーム、個別の子どもに対する援助チーム

- 13回 援助チームの実践 援助チームの進め方について学ぶ。とくに教師・スクールカウンセラーと保護者とのパートナーシップを促進するチーム援助の実践について学ぶ。

〈身につく資質・能力〉援助チームの運営・継続

〈学習のポイント〉個別の子どもの援助チーム、相互コンサルテーション

- 14回 コーディネーターの役割 心理教育的援助サービスをコーディネートし、子どもの援助へとつなげる役割をもつコーディネーターについて、その役割とコーディネーション行動について学ぶ。

〈身につく資質・能力〉連携のための配慮と工夫

〈学習のポイント〉コーディネーター、役割権限、特別支援教育コーディネーター

- 15回 心理教育的援助サービスのシステムと学校改革 学校のシステムは、3段階の援助チーム(運営委員会、コーディネーション委員会、個別の子どもの援助チーム)で整理できることを把握し、それぞれの援助チームの特徴について学ぶ。

〈身につく資質・能力〉学校心理学を学校の運営と改革に活かす。

〈学習のポイント〉運営委員会、コーディネーション委員会、個別の子どもの援助チーム

試験 学校心理学の視点や概念、方法論についての理解を問う論述式の試験を行います。

レポート課題

提出数
2

手書き
不可

第1課題【2400字程度】

学校心理学におけるコンサルテーションについて説明し、スクールカウンセラーが教師に対してコンサルテーションを実施する際の留意点について述べなさい。

第2課題【2400字程度】

学校で苦戦する状況にいる子どもの事例を1つ選び、事例の概要を次の観点から考察しなさい。その際、子どもとの関係(担任、養護教諭など)を明記すること。事例については、直接関わりを持つ子どもが望ましいが、機会がない場合には、既に発表されたり文献に記載されている事例を選んで下さい。その際には、引用文献を明記すること。

- ① 子どもが援助を必要としている問題状況の概要
- ② 援助の必要性を、子ども自身、保護者、子どもに接している教員が捉えている状態
- ③ 子どもの自助資源と援助資源
- ④ ①～③で得られた情報をもとにした具体的な支援方針
- ⑤ 援助の経過とまとめ

No.

Q037

学校カウンセリング

沢崎 真史

領域

2 単位

通信

関連科目

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（6. 学校カウンセリング・コンサルテーション領域）です。

到達目標

学校という特有な場面で起きている心理的な問題について、学校カウンセリングの視点から理解を深めていきます。学校における援助活動は問題を抱えた児童生徒ばかりではなく、在籍するすべての児童生徒の援助を視野にいれていきます。そのために、学校カウンセリングの基本的な考え方を学び、援助の目標、対応、プロセスについて検討していきます。

基本文献

石隈利紀『学校心理学』（誠信書房）
田中雄三・森谷寛之共編『生徒指導と心の教育 実践編』（培風館）
渡辺三枝子『新版 カウンセリング心理学』（ナカニシヤ出版）

評価の要点

この科目はカウンセリングの基礎を理解し、それを学校という場でどのように生かすかを考えていきます。したがって、単なる相談室内での個別相談だけでなく、在籍児童生徒、教職員、保護者のサポートを視野にいれた活動として理解し、学校現場で役に立つ活動ができることを目指します。レポートについては、基本文献を基に学校カウンセリングについて理解し、それを実際の学校現場でどのように生かせるかを考察しているか評価します。具体的に考察してください。科目終了試験については、レポートと同様に、ここで求めている学校カウンセリングの基本を適切に理解しているか評価します。

履修上の注意事項や学習上の助言

- この科目は「学校心理士」を申請することを前提に講義概要を設定してあります。したがって、「学校心理士」に関連する参考文献は適宜参考にしてください。
- レポートの提出にあたっては、テキストをよく読み、ポイントをしっかりとつかんでください。また、課題の内容をよくつかんでから、具体的に考察してください。基本的には将来学校現場で活動することを前提に考えてください。
- 科目終了試験にあたっては、問われている問題の意味をしっかりと考えて考察してください。

授業回数別教育内容

1回	学校カウンセリングの目ざすものとは	学校カウンセリングの目ざすもの
2回	カウンセリングの定義	カウンセリングの定義・カウンセリングの関係
3回	カウンセリングのプロセス	カウンセリングのプロセス
4回	学校カウンセリングの介入の方向性	介入モデルから学ぶ介入の方向：援助治療・予防・発達
5回	スクールカウンセラーの役割	個別相談・予防的活動・啓発活動
6回	心理教育的アセスメント（1）	援助対象のアセスメント（自助資源）
7回	心理教育的アセスメント（2）	援助資源のアセスメント
8回	コンサルテーション	コンサルテーションの機能
9回	学内・学外の相談機関との連携	学内の連携、学外との連携、リファラーの留意点
10回	援助の実際：不登校	不登校の定義、不登校のプロセス、その対応
11回	援助の実際：いじめ	いじめの定義、その対応
12回	援助の実際：非行	非行問題の定義、その対応
13回	援助の実際：発達障害	気になる児童生徒への援助
14回	危機介入と緊急支援	危機介入と緊急支援の実際
15回	今後の学校における教育相談	今後の学校カウンセリングの可能性

レポート課題

提出数
2手書き
不可

第1課題【2200字～2400字】

あなた自身が学校において活動することを前提に、学校における心理教育的援助サービスの可能性について、一次的援助サービス、二次的援助サービス、三次的援助サービスのそれぞれについて5つ以上考え、その目的と内容、留意点についてできるだけ具体的に検討してください。そのうえで、スクールカウンセラーの役割について述べなさい。

第2課題【2200字～2400字】

具体的な事例（自分が援助している事例が好ましいが、ない場合はすでに発表されている事例をあげる）を挙げ、子ども自身と子どもの環境についてアセスメントし、疾病性と事例性の観点から援助サービスについて具体的に検討しなさい。

No.

Q038

学校カウンセリング演習

鈴木 由美

学校でのカウンセリングで大切なこと

領域

2 単位

通信

面接

関連科目

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（2. 学校カウンセリング・コンサルテーション基礎実習領域）です。

到達目標

- (1)目的 学校カウンセリングの理論を理解する。面接授業においてロールプレイやグループ活動を通して児童・保護者に面接できるようになることを期待する。
- (2)到達目標
 - ①複数のカウンセリング理論を学び、学校で使える理論を理解できるようになる。
 - ②実際の事例を通して、学校での支援方法を考えることができるようになる。
 - ③グループ活動をクラスの中で応用でき、学校での予防的なカウンセリングを実践できるようになる。

学習成果

- (1)複数のカウンセリング理論を習得し、特長を理解し学校で使える理論を理解できる。
- (2)多様な理論の中から、今の問題に適したカウンセリングを選択できる。
- (3)学校でおこる児童・保護者・先生方の悩みについて、適切な支援ができる。
- (4)学年や学級でグループ活動ができ、学校での予防的なカウンセリングを実践できる。

基本文献

スタディガイド（ここに読んでほしい本はすべて書いてあります）

評価の要点

- (1)4つのカウンセリングの理論について理解していること
- (2)レポートにおいて、認知行動療法を理解し事例に適切な支援ができていること
- (3)面接授業において、グループに積極的な参加をし、自分の考えで討論できること

評価方法と採点基準

レポート課題においては、

- ①面接において、認知行動を行い、適切な問題解決を支援できているか。
 - ②英文を訳し、内容を理解し、カウンセラーの対応について意見を述べているのか。
- を評価します。

面接授業においては、

- ①グループ活動への積極的参加（60%）
 - ②授業後の試験（40%）
- で評価します。

履修上の注意事項や学習上の助言

レポートは2題あります。①事例は登校できない児童に対するスクールカウンセラーとしての面接です。認知行動療法について、スタディガイドと参考図書を読んで1600字で述べてください。②子どもとの面接内容の英文訳です。子どもの悩みに対するカウンセラーの対応について、注目して訳してください。

面接授業ではクラス作りを想定したグループ活動を行います。積極的に参加し自分の考えを述べてください。

授業回数別教育内容

- 1回 学校カウンセリングとは
〈身につく資質・能力〉カウンセリング理論 〈学習のポイント〉カウンセリングの定義を理解する
- 2回 精神分析・来談者療法の理論を理解する
〈身につく資質・能力〉精神分析・来談者療法を理解できる 〈学習のポイント〉理論を比較する
- 3回 行動療法・認知行動療法の理論を理解する
〈身につく資質・能力〉行動療法・認知行動療法を理解できる 〈学習のポイント〉理論を比較する
- 4回 問題解決のシステムを理解する（価値のトライアングル）
〈身につく資質・能力〉問題解決が理解できる 〈学習のポイント〉子どもの3つのパワー
- 5回 構成的グループエンカウンター・対人関係ゲーム 問題解決フォーミュレーション
〈身につく資質・能力〉グループ活動の目的を理解できる 〈学習のポイント〉問題解決に必要な事とは
- 6回 学校で使える認知行動療法1・2・3
〈身につく資質・能力〉認知行動療法が理解できる 〈学習のポイント〉論理情動療法を理解する
- 7回 小学校・中学校・高校での事例検討
〈身につく資質・能力〉事例を理解し認知行動療法を使ってみる 〈学習のポイント〉ABC理論

- 8回 面接授業 学校で使えるカウンセリングの基本
〈身につく資質・能力〉カウンセリングの基本 〈学習のポイント〉面接授業で質問する
- 9回 精神分析・来談者中心療法の実践
〈身につく資質・能力〉ロールプレイを行う 〈学習のポイント〉カウンセラーの役割
- 10回 認知行動療法の実践
〈身につく資質・能力〉ロールプレイを行う 〈学習のポイント〉カウンセラーの役割
- 11回 構成的グループエンカウンター・対人関係ゲームの実践
〈身につく資質・能力〉グループ活動を学ぶ 〈学習のポイント〉リーダーの役割
- 12回 コンサルテーションの実践
〈身につく資質・能力〉コンサルテーションの技法を学ぶ 〈学習のポイント〉連携の仕方
- 13回 保護者へのカウンセリング
〈身につく資質・能力〉怒り・不安を持った人への対応 〈学習のポイント〉信頼関係
- 14回 登校できない子どもとの芸術療法
〈身につく資質・能力〉芸術療法に挑戦 〈学習のポイント〉自己理解
- 15回 学校カウンセリングのまとめ
〈身につく資質・能力〉学校カウンセリングを理解する 〈学習のポイント〉カウンセリング
- 試験 評価の要点に基づいて実施します。
面接授業の最後に、学校で起こりそうな事例を提示し、その事例にそったカウンセリングをレポートにする。

レポート課題

提出数
1

手書き
不可

将来学級や適応指導教室などで活かせるように、学校で役立つカウンセリングの基礎を学ぶ。認知行動療法の基本的技法を学び、子どもの行動理解を行い、支援できる力を養成することが目的である。

第1課題

【1600字以内】

- 1 子どもに対する次の事例を読み、あなたが**スクールカウンセラー**として関わる場合、学校カウンセリングの視点に立ち、認知行動療法的立場で子どもとの面接をどのように行っていくのかを述べてください（面接の目標・方法・注意点に分けて書いてください）

事例

小学校5年生のA男

この学年は3クラスあり、5年生でクラス替えを行った。新しいメンバで4月が始まった。A男は4月は休まず登校していたが、5月に時々休み始め、6月には全く学校に来なくなった。担任はこまめに自宅と連絡をしているが、登校する兆しが見られない。そこでスクールカウンセラーに面接してほしいと依頼があった。担任の先生が児童に聞いた登校できない理由は、「仲の良い友だちとクラスが分かれてしまい、つまらない」「勉強がわからない」とのことだった。5月に同じクラスのB男と掃除中にけんかになったことがあった。

A男は少年サッカーチームに所属していて、サッカーの練習には参加している。頑張り屋で負けず嫌いであるとコーチは言っている。

【2000字以内】

- 2 これは子どもとの面接内容です。
以下の英文を読んで質問に答えて下さい。

CLIENT : She couldn't use it. I said, "Well, why don't you use it now because I'd like to have it." She said, "Oh, you be quiet." So she started calling me names because I wet and you know it made me real mad and I guess I lost my temper.

THERAPIST : Why did it make you feel mad when she called you those names?

C : I don't know.

T : You said that it's terrible to be wetting?

C : Yeah, I know.

T : But it isn't terrible. It's perfectly normal. Lots of children do it. Why is it so terrible?
What are you so ashamed of?

C : I didn't feel like telling any of you because I felt ashamed that I am going on 9 and I am still wetting.

T : But that's probably why you're doing it, because you are so ashamed. If we could get you unashamed of it and relaxed about it, you wouldn't do it. Whenever a person is ashamed of a thing, they often keep doing it over and over. There is nothing to be ashamed of anything you do. Why should you ever be ashamed?

C : I don't know. It just seems to me that I am ashamed because I am wetting and 8 years old.

T : Ashamed means you're telling yourself it's terrible to be wetting, to be doing this thing, and it isn't terrible. Not terrible at all. It's a nuisance. You can say that, but it's not terrible. And if anybody knows about it, that's not terrible, even if they laugh or they tease you or something. None of that is terrible.

C : But when I am called names like that, it just makes me think of it, and then I can't get over it and it makes me all nervous and jittery.

T : I say you can get over it. I say you don't have to think of it in the nighttime if you only won't take the names seriously. That's what makes you jittery. You're saying, "They shouldn't have called me those things. That's awful." It's just names.

C : I don't know how to get over that.

- T : By stopping taking the names seriously. Not giving much of a damn what they think; not caring too much about what they say.
- C : But that's kind of hard for me to do.
- T : I know it's hard for you to do, but unless you do it you will go on being upset. That's what makes you upset-caring too much what other people think. It's not that important what they think.
- C : I know. Any time they call me names, well, they don't care. They like to make me nervous or tease me.
- T : That's right. Other children try to tease you because they want you to get upset. But why should you get mad? This is the way they are.
- C : I know.
- T : But you are not accepting them the way they are. You are saying, "They shouldn't be that way. They shouldn't tease me." And they do. The world is full of people...
- C : I know, but I care and deep down it hurts me.
- T : That's because you still believe that it is terrible what they think. That's what hurts.
- C : I know and I tried it once before and it didn't work.
- T : Yeah, but you still believe it's terrible and that's what you have to convince yourself over and over-that it's not terrible what people think or whether they laugh or whether they tease. No matter what others do, it's not terrible.
- C : I know it's not terrible.
- T : No, you think it is terrible. That's what hurts you.
- C : The names hurt me.
- T : Because you think the names are terrible. If you didn't care, if you were like me, people could call me names all the time. I don't care.
- C : I know but you're used to it.
- * 1 T : That's right, because I tell myself over and over, "Who cares? What difference does it make? I don't give much of a damn. It doesn't matter." And let me tell you something, nothing matters too much.
- C : I know but it matters to me a lot.
- T : That's why you're upset. I just spoke to a girl over the telephone and she told me that "I went away to this meeting last week and people were talking about you, Al, and many of them said bad things about you." And I didn't get upset at all.
- C : Yeah, probably you didn't get upset because it didn't happen to you.
- T : No, they were talking behind my back. She told me they were, and lots of times I've heard people talking badly about me to my face. It doesn't matter. I say "Who really cares? Who gives too much of a damn? What difference does it really make?"
- C : A couple days ago I just got so mad that it won't go away.
- T : Because you said, "It makes a great difference. It's awful. It's terrible what they're doing!"
- C : It really hurt me and I remembered all those names, and I was calling the kids names. It made me so mad.
- T : It hurt you because you said, "They shouldn't be calling me these names. That's terrible." That's why it hurt you. Not because you remembered the names. Because you said, "It's terrible. It's awful they called me those names. How could they do that to me?" That's what's hurting you. And it's never terrible. It's never awful. It doesn't mean anything. That's the thing you've got to believe. You don't quite believe that. You believe that it is awful instead of it's not awful.
- * 2 C : I remember a long time ago I felt good for quite awhile and then it started up again. I've stopped lots of times before because I'm not nervous, but sometimes I drink a lot of water, and lots of times I don't drink anything at all and I still wet.
- T : The main thing that makes you nervous is caring too much what they think and caring too much about wetting. It wouldn't bother you whether you wet or not if you just say, "Well, that's too bad. So I wet tonight. What great difference does it make?" After awhile your worry would get less and less. But you've got to convince yourself that it doesn't matter that much. As soon as you worry about it, you'll get nervous and wet more.
- C : I know. My mother doesn't approve of it very much and she gets mad and sometimes she'll yell at me.
- T : That's right. That's the trouble. I've tried to get her not go get mad but she has her own problems.

- ① このケースは何歳でどんなことを恥ずかしいと思っていますか。
- ② カウンセラーは大変なこと（イライラ）しないのは、どうしてだと言っていますか。※1を参考に述べて下さい。
- ③ ※2のカウンセラーと子どもの会話を全訳して下さい。
- ④ このカウンセリングは子どもに対してどのような対応をしていますか。あなたのこのカウンセリングに対するお考えを述べて下さい。

No.

Q040

臨床心理学特論

鈴木 由美

2 単位

通信

領域

関連科目

この科目は「学校心理士」の資格取得に必要な科目（4. 臨床心理学領域）です。

到達目標

ねらいと目標

本講義では、初めに他の心理学領域と比較しながら臨床心理学の特徴を理解する。次いで臨床心理学の理論、臨床心理学の方法、臨床心理学の対象を解説する。特に幼児・児童・生徒の問題にアプローチするためにはどのような臨床心理学的アセスメントがあり、どのように使用するかの理解を求める。また、認知行動療法やプレイ・セラピーなど具体的治療法についても解説する。

実際に悩んでいる児童・生徒の心理を理解できるようになることを期待する。

内容

本講義では、以下の5つの内容で順次、理解を深める。

(1) 心理学の方法と臨床心理学の方法、(2) 臨床心理学の理論と対象、(3) 幼児・児童・生徒の問題行動の特徴と理解、(4) 臨床心理学的アセスメント、(5) 支援法、の5つである。

基本文献

下山晴彦著『臨床心理アセスメント入門』（金剛出版）2008
 丹野義彦・坂本真士共著『自分のところからよむ臨床心理学に入門』（東京大学出版会）2001
 永井徹著『子どもの心理臨床入門』（金子書房）2005
 馬場禮子著『精神分析的人格理論の基礎』（岩崎学術出版）2008
 伊藤美奈子・相馬誠一編著『グラフィック 学校臨床心理学』（サイエンス社）2010

評価の要点

レポートの提出状況と最終試験を総合する。

評価方法と採点基準

レポートでは、臨床心理学の理論の特徴が述べられていること。
 科目終了試験では、問題に対して要点を的確に述べられていること。

授業回数別教育内容

- 1回 心理学の研究方法
心理学の歴史、方法、対象、課題、等心理学の包括的な概説。
- 2回 臨床心理学の方法
臨床心理学の方法論の特異性(臨床現場、事例性)と臨床心理学の倫理的諸問題について
- 3回 臨床心理学の対象(1)
心と行動の問題について発達障害や精神障害をICD-10、DSM-IVの枠組みから概説する。
- 4回 臨床心理学の対象(2)
心理学的要因が強く影響する心と行動の諸問題(学校環境・家庭環境など)を概説する。
- 5回 幼児・児童期の発達と臨床心理学
大人と子どもへの臨床的働きかけの相違を述べ、この期における臨床心理学的諸問題と学校生活適応上の問題点や援助法を述べる。
- 6回 思春期の発達と臨床心理学
思春期における臨床心理学的諸問題、成人期以降の精神障害の援助法を述べる。
- 7回 臨床心理学的アセスメントの特徴
臨床心理学的アセスメントの種類と特徴を述べる(特に児童期を中心とする)。
- 8回 臨床心理学的アセスメント(実施上の諸注意)
観察法・検査法の種類、実施法を述べ、次いで検査法の限界、実施の諸注意を述べる。
- 9回 臨床心理学的アセスメント(知能検査)
臨床現場に即した事例を用いてWISCやK-ABCを概説し、実施上の諸注意、その限界を述べる。
- 10回 臨床心理学的アセスメント(人格検査・評定尺度)
各種の人格検査を概説し、解釈法を述べ実施上の諸注意や限界を述べる。更に各評定尺度の概説を行う。
- 11回 援助法Ⅰ(行動論、応用行動分析)
行動理論の概説から始め、応用行動分析の具体例を示しこれらの方法の理解を深める。
- 12回 援助法Ⅱ(認知行動療法)
認知論の概説から始め、認知行動療法の具体例を提示し認知行動療法の理解を深める。
- 13回 援助法Ⅲ(プレイ・セラピー等)
力動論を概説し遊戯療法や箱庭療法の具体例を示しこれらの援助法の理解を深める。

- 14回 援助活動と関連領域との連携
再度、倫理について述べ、関連領域（医療、福祉、司法、地域との連携の必要性と諸注意を述べる。
- 15回 まとめ
14回のまとめを行う。更に事例報告のまとめ方、査定報告書の書き方の概説を行う。

レポート課題

提出数
2手書き
不可

第1課題、第2課題から、それぞれ1問ずつ選択しなさい。パソコンの場合は、A4用紙、40字×30行、で3枚程度にまとめなさい。

第1課題【3600字程度】

- 1 臨床心理学の方法論と心理学の方法論を比較し、臨床心理学の特徴を述べなさい。特に対象、方法論の差異を中心に述べなさい。
- 2 臨床心理学の対象者を成人と幼児・児童とするとき、両者にはどのような違いがあるか、述べなさい。
- 3 臨床心理学における「力動論」を述べ、遊戯治療や箱庭治療の援助法を説明しなさい。

第2課題【3600字程度】

- 1 事例研究法の特徴を述べなさい。事例を紹介するにはどのような諸要因を挙げていけばよいか、を中心に述べなさい。
- 2 心理査定における投影法と質問紙法の違いを述べなさい。
- 3 認知行動療法について、日常におこる自分の経験を通して説明しなさい。また、認知の変容について、具体的に説明しなさい。

解答用紙

巻末「レポート送付票」左肩を課題ごとにホチキスどめすること。

科目名 『 児童発達学特論（Ⅰ） 』（第 課題）

（学籍番号 氏名 ）

	解答
問題1	
問題2	
問題3	
問題4	
問題5	
問題6	
問題7	
問題8	
問題9	
問題10	

解答用紙

巻末「レポート送付票」左肩を課題ごとにホチキスどめすること。

科目名 『 児童発達学特論（Ⅱ） 』

(学籍番号 氏名)

【第2課題】

	解答	その理由を記入
問題1		
問題2		
問題3		
問題4		
問題5		